

# 山田本町遺跡他

## 発掘調査報告書

山田上ノ台塚・山田条里遺跡第9次

大野田古墳群第7次・後河原遺跡第5次

高田A遺跡第5次・鴻ノ巣遺跡第8次

洞ノ口遺跡第11次・南小泉遺跡第41・42次

富沢遺跡第132・133・134次

養種園遺跡第5次

2005年3月

仙台市教育委員会

# 山田本町遺跡他

## 発掘調査報告書

山田上ノ台塚・山田条里遺跡第9次

大野田古墳群第7次・後河原遺跡第5次

高田A遺跡第5次・鴻ノ巣遺跡第8次

洞ノ口遺跡第11次・南小泉遺跡第41・42次

富沢遺跡第132・133・134次

養種園遺跡第5次

2005年3月

仙台市教育委員会

## 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しましては、日頃から多大なるご理解とご協力をいただき、感謝申しあげます。仙台市内には、現在約800ヶ所の遺跡が確認されておりますが、そのような埋蔵文化財は各種開発事業によって絶えず破壊・消滅の恐れにさらされております。

当教育委員会としましては開発事業者との協議を通して、ご理解とご協力を得て、貴重な文化財を保存し、後世に伝えることに努めているところであります。

本報告書には、開発に先立ち、平成16年度に発掘調査を実施した山田上ノ台塚および山田本町遺跡のほか、山田条里遺跡、大野田古墳群、後河原遺跡、高田A遺跡、鴻ノ巣遺跡、洞ノ口遺跡、南小泉遺跡、富沢遺跡、養種園遺跡の調査成果を収録しております。山田本町遺跡は、宅地造成計画によって新たに発見された遺跡ですが、調査によって縄文時代の落し穴などが確認され、これまで知られていなかった山田上ノ台遺跡周辺の実態を知る上で貴重な資料を得ることができました。

本書に掲載した調査成果が、地域の歴史の解明と文化財保護思想の高揚のためお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書刊行まで多くの方々のご指導、ご協力をいただきましたことに対しまして、心より感謝申しあげます。今後とも文化財保護行政につきましてご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

平成17年3月

仙台市教育委員会  
教育長 阿 部 芳 吉

## 例　　言

1. 本書は、仙台市教育委員会が実施した、民間開発事業に伴う山田上ノ台塚・山田本町遺跡、山田条里遺跡第9次、大野田古墳群第7次、高田A遺跡第5次、洞ノ口遺跡第11次、宮沢遺跡第132・133次発掘調査と、個人住宅建設に伴う後河原遺跡第5次、鴻ノ巣遺跡第8次、南小泉遺跡第41・42次、宮沢遺跡第134次、養種園遺跡第5次の発掘調査報告書である。  
民間開発事業に係わる発掘調査については事業者の負担において調査を実施し、個人住宅建設に係わり遺跡の破壊が想定された場合は公費で調査を実施した。
2. 本書の執筆・編集は、仙台市教育委員会文化財調査係の担当調査員の協議をもとに、工藤哲司・三塚博之・女川征延・今野秀治が分担して行なった。担当は次のとおりである。  
工藤：山田上ノ台塚・山田本町遺跡、後河原遺跡第5次、南小泉遺跡第11次、養種園遺跡第4次  
三塚：山田条里遺跡第9次、宮沢遺跡第132・134次、  
女川：大野田古墳群第7次、宮沢遺跡第133次  
今野：高田A遺跡、洞ノ口遺跡第11次、南小泉遺跡第42次
3. 本書に係わる資料については、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 本書で使用した土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原：1976)に準拠している。
2. 断面図・平面図の標高値は、海拔高度を示している。
3. 遺構は種別毎に次の略号を使用した。

S B : 捨立柱建物跡	S D : 溝跡	S I : 壁穴住居跡・壁穴遺構
S K : 土坑	P : ピット	S X : その他の遺構
4. 報告書の平面図においては、搅乱及び新しい重複遺構は、下場を記入しないなど、省略または簡略化している。
5. 遺物の登録は、以下の分類と略号を使用している。

A : 繩文土器	B : 弥生土器	C : 土師器 (非クロクロ)	D : 土師器 (クロクロ)
E : 須恵器	F : 丸瓦	G : 平瓦	I : 陶器
J : 磁器	K : 石器・石製品	N : 金属製品	P : 土製品
6. 壁穴住居跡等における、焼け面範囲は、網かけにより表現した。
7. 土師器実測図における網は、黒色処理されていることを示している。
8. 石器実測図においては、下記のとおりに表現した。

磨り面の範囲		火はねの範囲		節理面の範囲	
--------	--	--------	--	--------	--
9. 遺物観察表の( )内の法量は残存値を示している。
10. 本文中の「灰白色火山灰」(庄子・山田：1980)は、「十和田a (To-a)」と考えられ、「十和田a」の降下年代は現在、西暦915年初夏とされている。(町田：1981・1996)
11. 本文中で使用した「擬似畦畔B」という用語は、水田畦畔直下の自然堆積層において認められる畦畔状の高まりをさす(斎野ほか1987:「宮沢-富沢遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第98集)が、本書では、自然堆積層の高まりだけではなく、畦畔直下における下層の水田耕作土層に認められる畦畔状の高まりについてもこの用語を使用した。

# 本文目次

序文  
例言  
凡例  
目次

## I 山田上ノ台塚・山田本町遺跡発掘調査報告書

1 調査要項	1
2 調査に至る経過と調査方法	1
3 遺跡の位置と環境	3
4 基本層序	5
5 山田上ノ台塚の調査	5
1) 塚本体	5
2) 塚周辺の遺構	9
6 山田本町遺跡	11
1) 溝跡	12
2) 竪穴遺構・竪穴住居跡	12
3) 土坑	17
7 発見遺構・遺物の年代と性格	26
1) 縄文土器の分類と時期	26
2) 縄文時代の遺構	29
8 まとめ	31
1) 山田上ノ台塚	31
2) 山田本町遺跡	31

## II 山田条里遺跡第9次発掘調査報告書

1 調査要項	55
2 調査に至る経過と調査方法	55
3 遺跡の位置と環境	55
4 基本層序	58
5 発見遺構と出土遺物	58
1) II層水田跡	58
2) III層水田跡	58
6 まとめ	59

## III 大野田古墳群第7次発掘調査報告書

1 調査要項	63
2 調査に至る経過と調査方法	63

3	遺跡の位置と環境	63
4	基本層序	65
5	Ⅲ層発見遺構と遺物	65
1)	溝跡	65
2)	小溝跡	68
3)	土坑	68
4)	ピット	68
6	Ⅳ層発見遺構と遺物	69
1)	小溝跡	69
2)	土坑	73
7	V層発見遺構と遺物	72
1)	小溝状遺構群	72
2)	土坑	73
8	下層調査状況	73
9	基本層中の出土遺物	75
10	小溝状遺構群から歴跡群・Ⅲa層までの畑耕作の変遷	75
11	まとめ	75

#### IV 後河原遺跡第5次発掘調査報告書

1	調査要項	85
2	調査に至る経過と調査方法	85
3	遺跡の位置と環境	86
4	基本層序	87
5	発見遺構と出土遺物	88
1)	掘立柱建物跡	88
2)	溝跡	89
3)	Ⅶa層以下の下層遺構の調査	89
6	まとめ	89

#### V 高田A遺跡第5次発掘調査報告書

1	調査要項	95
2	調査に至る経過と調査方法	95
3	遺跡の位置と環境	96
4	基本層序	96
5	発見遺構と出土遺物	99
1)	溝跡	99
2)	土坑	100
3)	ピット	100
4)	遺物包含層	100
5)	その他の出土遺物	100
6	まとめ	100

#### VI 鴻ノ巣遺跡第8次発掘調査報告書

1	調査要項	105
2	調査に至る経過と調査方法	105

3	遺跡の位置と環境 .....	106
4	基本層序 .....	108
5	発見遺構と出土遺物 .....	108
6	まとめ .....	108
<b>VII 洞口遺跡第11次発掘調査報告書</b>		
1	調査要項 .....	111
2	調査に至る経過と調査方法 .....	111
3	遺跡の位置と環境 .....	113
4	基本層序 .....	113
1)	1区の基本層序 .....	113
2)	2区の基本層序 .....	114
5	発見遺構と出土遺物 .....	115
1)	1区 .....	115
2)	2区 .....	116
3)	出土遺物 .....	116
4)	基本層序の対応 .....	117
6	まとめ .....	117
<b>VIII 南小泉遺跡第41次発掘調査報告書</b>		
1	調査要項 .....	121
2	調査に至る経過と調査方法 .....	121
3	遺跡の位置と環境 .....	122
4	基本層序 .....	123
5	発見遺構と出土遺物 .....	124
1)	溝跡 .....	124
2)	竪穴住居跡 .....	124
3)	ピット群 .....	124
6	まとめ .....	124
<b>IX 南小泉遺跡第42次発掘調査報告書</b>		
1	調査要項 .....	127
2	調査に至る経過と調査方法 .....	127
3	遺跡の位置と環境 .....	127
4	基本層序 .....	128
5	発見遺構と出土遺物 .....	128
1)	溝跡 .....	129
2)	その他の遺構 .....	130
2)	土坑 .....	130
6	まとめ .....	131
<b>X 富沢遺跡第132次発掘調査報告書</b>		
1	調査要項 .....	135
2	調査に至る経過と調査方法 .....	135

3	遺跡の位置と環境	.....	136
4	基本層序	.....	138
5	発見遺構と出土遺物	.....	138
	1) III層水田跡	.....	138
	2) VI層水田跡	.....	138
6	まとめ	.....	131

## XI 富沢遺跡第133次発掘調査報告書

1	調査要項	.....	135
2	調査に至る経過と調査方法	.....	135
3	遺跡の位置と環境	.....	136
4	基本層序	.....	138
5	発見遺構と出土遺物	.....	138
	1) III層水田跡	.....	142
	2) V層水田跡	.....	144
	3) 出土遺物	.....	138
	4) 基本層の出土遺物	.....	144
6	まとめ	.....	144

## XII 富沢遺跡第134次発掘調査報告書

1	調査要項	.....	149
2	調査に至る経過と調査方法	.....	149
3	遺跡の位置と環境	.....	150
4	基本層序	.....	150
5	発見遺構と出土遺物	.....	150
6	まとめ	.....	151

## XIII 養種園遺跡第5次発掘調査報告書

1	調査要項	.....	153
2	調査に至る経過と調査方法	.....	153
3	遺跡の位置と環境	.....	153
4	基本層序	.....	155
5	発見遺構と出土遺物	.....	155
	1) 掘立柱建物跡	.....	155
	2) 溝跡	.....	156
6	まとめ	.....	156

# 図 目 次

## I 山田上ノ台塚・山田本町遺跡発掘調査報告書

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第14図 S I 2堅穴住居跡出土土師器	15
第2図 調査地点の位置	2	第15図 S I 2堅穴住居跡出土須恵器	16
第3図 耕作範囲と調査区位置	3	第16図 土坑実測図	18
第4図 山田上ノ台塚・山田本町遺跡遺構配置図	4	第17図 東南張曳区検出遺構実測図	20
第5図 山田上ノ台塚現況平面図	6	第18図 その他の遺構実測図	21
第6図 山田上ノ台塚断面図	6	第19図 基本層及び深掘り区断面図	22
第7図 山田上ノ台塚平面図	7	第20図 山田本町遺跡出土石器 1	23
第8図 山田上ノ台塚周辺遺構実測図	8	第21図 山田本町遺跡出土石器 2	24
第9図 山田上ノ台塚出土繩文土器・土師器	10	第22図 山田本町遺跡出土石器 3	25
第10図 山田上ノ台塚出土土石器	11	第23図 山田本町遺跡出土繩文土器 1	28
第11図 溝跡断面図	12	第24図 山田本町遺跡出土繩文土器 2	30
第12図 S I 1堅穴遺構実測	12	第25図 山田本町遺跡 I 層出土土師器・占錢	31
第13図 S I 2堅穴住居跡実測図	13		

## II 山田条里遺跡第9次発掘調査報告書

第26図 遺跡の位置と周辺の遺跡	56	第29図 調査区実測図	57
第27図 調査地点の位置	56	第30図 I区・2区東壁土層断面図	58
第28図 調査区配置	57	第31図 山田条里遺跡出土遺物	59

## III 大野田古墳群第7次発掘調査報告書

第32図 遺跡の位置と周辺の遺跡	64	第38図 土坑平面・断面図	69
第33図 調査地点の位置	64	第39図 IV層検出遺構配置図	70
第34図 調査区の位置	65	第40図 V層検出遺構配置図	71
第35図 北壁・東壁断面図	66	第41図 S K 4土坑平面・断面図	73
第36図 III層検出遺構配置図	67	第42図 出土遺物実測図	73
第37図 溝跡断面図	68	第43図 IV層歛間跡群とV層小溝状遺構群	74

## IV 後河原遺跡第5次発掘調査報告書

第44図 遺跡の位置と周辺の遺跡	85	第47図 調査区北壁断面図・造構断面図	88
第45図 遺跡の範囲と調査地点の位置	86	第48図 S B 1掘立柱建物平面図	89
第46図 検出遺構と周辺の遺構	87	第49図 第3次調査区Ⅲ'a'層水田跡と本調査区	90

## V 高田A遺跡第5次発掘調査報告書

第50図 遺跡の位置と周辺の遺跡	95	第54図 確認調査3区北壁断面	98
第51図 第5次調査区の位置	96	第55図 本調査区平面図	98
第52図 耕作区域と調査区配置図	97	第56図 遺構実測図	99

第53図 本調査区北壁断面図	98	第57図 出土遺物	101
<b>VI 鴻ノ巣遺跡第8次発掘調査報告書</b>			
第58図 遺跡の位置と周辺の遺跡	105	第61図 調査区西壁断面	106
第59図 調査区の位置	105	第62図 鴻ノ巣遺跡出土遺物	107
第60図 調査区配置と遺物出土地点	106		
<b>VII 洞ノ口遺跡第11次発掘調査報告書</b>			
第63図 遺跡の位置と周辺の遺跡	111	第67図 2区東壁及びS D 1溝跡断面	115
第64図 洞ノ口遺跡の堀跡と第11次調査区の位置	112	第68図 1区・2区平面図	116
第65図 計画建物と調査区配置	112	第69図 出土遺物	116
第66図 1区西壁断面図	113		
<b>VIII 南小泉遺跡第41次発掘調査報告書</b>			
第70図 遺跡の位置と周辺の遺跡	121	第72図 調査区配置図	122
第71図 調査地点の位置	122	第73図 調査区断面・遺構実測図	123
<b>IX 南小泉遺跡第42次発掘調査報告書</b>			
第74図 第42次調査区の位置	127	第77図 調査区北壁及び遺構断面	129
第75図 調査区配置図	128	第78図 出土遺物	130
第76図 遺構配置図	128		
<b>X 富沢遺跡第132次発掘調査報告書</b>			
第79図 遺跡の位置と周辺の遺跡	135	第82図 調査区尖測図	137
第80図 調査地点の位置	136	第83図 北壁・東壁土層断面図	137
第81図 調査区配置図	137	第84図 Ⅲ層上面出土土器	138
<b>XI 富沢遺跡第133次発掘調査報告書</b>			
第85図 調査区位置図	141	第87図 検出遺構及び調査区尖測図	143
第86図 北壁・西壁断面図	142		
<b>XII 富沢遺跡第134次発掘調査報告書</b>			
第88図 調査区配置図	149	第90図 出土須恵器実測図	151
第89図 北壁土層断面図	150		
<b>XIII 養種園遺跡第5次発掘調査報告書</b>			
第91図 遺跡の位置と周辺の遺跡	153	第94図 西区西壁・S D 1断面図	155
第92図 調査地点の位置	154	第95図 Ⅲ層出土遺物	156
第93図 調査区配置と検出遺構	154		

## 写 真 目 次

### I 山田上ノ台塚・山田本町遺跡発掘調査報告書

図版1 山田上ノ台塚現況・表土除去状況	33	図版12 土坑1 (SK 1~3)	44
図版2 塚表土層断面	34	図版13 土坑2 (SK 4~7)	45
図版3 塚施設検出状況	35	図版14 土坑3 (SK 8~12)・東南抵抗部	46
図版4 塚本体上層断面	36	図版15 その他の遺構と深掘り調査区	47
図版5 塚断面と塚下部の状況	37	図版16 山田上ノ台塚出土遺物	48
図版6 調査後の塚と周辺遺構	38	図版17 山田本町遺跡S I 2 穴穴住居跡・I層出土遺物	49
図版7 山田本町遺跡全景	39	図版18 山田本町遺跡出土石器1	50
図版8 試掘調査とSD 1溝跡	40	図版19 山田本町遺跡出土石器2	51
図版9 S I 1 穴穴遺構	41	図版20 山田本町遺跡出土縄文土器1	52
図版10 S I 2 穴穴住居跡1	42	図版21 山田本町遺跡出土縄文土器2	53
図版11 S I 2 穴穴住居跡2	43	図版22 山田本町遺跡出土縄文土器3	54

### II 山田条里遺跡第9次発掘調査報告書

図版23 出土遺物	60	図版25 1区遺物出土状況と2区の調査状況	62
図版24 1区の調査状況	61		

### III 大野田古墳群第7次発掘調査報告書

図版26 出土遺物	76	図版30 V層検出・完掘全景	80
図版27 III層検出遺構1	77	図版31 V層検出遺構	81
図版28 III層検出遺構2	78	図版32 東壁断面	82
図版29 IV層検出遺構	79	図版33 北壁断面・調査完了全景	83

### IV 後河原遺跡第5次発掘調査報告書

図版34 遺構検出状況とSD 1溝跡	91	図版36 S B 1 捨立柱建物跡の断面とV層全景	93
図版35 S B 1 捨立柱建物跡	92	図版37 基本層断面	94

### V 高田A遺跡第5次発掘調査報告書

図版38 本調査区全景・土層断面	102	図版40 出土遺物	104
図版39 検出遺構・確認調査区	103		

### VI 鴻ノ巣遺跡第8次発掘調査報告書

図版41 調査状況と出土遺物	109		
----------------	-----	--	--

### VII 洞ノ口遺跡第11次発掘調査報告書

図版42 南北区全景・土層断面	118	図版43 溝跡・出土遺物	119
-----------------	-----	--------------	-----

## VIII 南小泉遺跡第41次発掘調査報告書

図版44 調査区の概要 ..... 125

図版45 穴住居跡の状況 ..... 126

## IX 南小泉遺跡第42次発掘調査報告書

図版46 調査区全景・溝跡 ..... 132

図版48 出土遺物 ..... 134

図版47 土坑・その他の遺構 ..... 133

## X 富沢遺跡第132次発掘調査報告書

図版49 第132次調査区の状況 ..... 140

## XI 富沢遺跡第133次発掘調査報告書

図版50 基本層出土遺物 ..... 145

図版52 VI層水田跡・調査完了全景 ..... 147

図版51 III・V層水田跡 ..... 146

図版53 北壁・西壁断面 ..... 148

## XII 富沢遺跡第134次発掘調査報告書

図版54 第134次調査区の状況 ..... 152

## XIII 養種園遺跡第5次発掘調査報告書

図版55 III層検出遺構 ..... 157

図版56 IV層検出遺構と擾乱の状況 ..... 158

# I 山山上ノ台塚・山田本町遺跡発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺跡名	山山上ノ台塚（宮城県遺跡番号01353） 山田本町遺跡（宮城県遺跡番号01560）
調査地點	仙台市太白区山田本町101-23
調査期間	平成16年11月24日～12月22日
調査対象面積	（開発面積） 5,513m <sup>2</sup>
調査面積	山山上ノ台塚 155m <sup>2</sup> 山田本町遺跡 525m <sup>2</sup>
調査原因	住宅造成
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治
助言指導	富沢遺跡保存館館長 田中博和

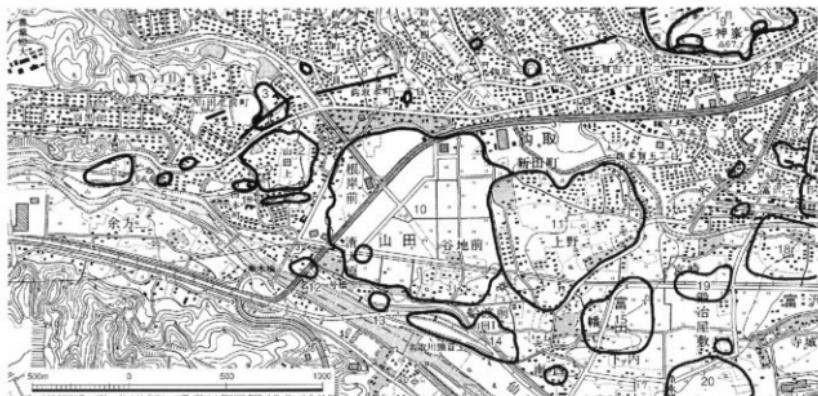
## 2. 調査に至る経過と調査方法

本調査は、平成16年10月25日付で、福島興業株式会社より、「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」が提出されたことに基づいて実施された。協議では、山山上ノ台塚の範囲については、事前に発掘調査を実施し、その他の開発予定地区については試掘調査を実施し、その上で必要な場合は本調査を実施することとした。また、山山上ノ台塚については、調査着手前の現況測量を仙台市教育委員会の指示のもとに事業者が実施することとした。

試掘調査は平成16年11月24日に着手、山山上ノ台塚の西側に続く尾根の背に、6m×10mのトレンチを3ヵ所に設定して行なった。その結果、調査着手前に実施された森林の伐採と、その際の抜根のためにできた搅乱坑及び風倒木痕が多数ある中に、落し穴等の遺構が検出された。そこで、この尾根については新たに遺跡として登録し、本調査を実施することとした。遺跡に登録する際の遺跡名は、地名にちなみ、「山田本町遺跡」とした。

山田本町遺跡の本調査は、落し穴の並びを追いかけるように、尾根筋に沿って試掘トレンチを拡張して実施した。その結果、3箇所の試掘トレンチは全てつながって、幅6～15m・長さ約60mの調査区となった。調査区西部で検出された堅穴住居跡については、調査区を南側に広げて遺構全体の調査を行なった。また、遺跡の広がりを確認するために、遺跡の南東部に、6m×11mの拡張トレンチを設定し調査を行なったが、南側半分は数種類の地山層やその下の河床疊層が混在した状態の土層が斜面に沿うように検出された。北半部では時期不明の浅い土坑が2基検出されたが、本調査区の東部から拡張区にかけては遺構が希薄になっていることが確認された。なお、隣接する山山上ノ台遺跡において、火山灰層中から旧石器が出土しているので、遺構表面からの旧石器の出土に注意を払ったほか、遺構や風倒木痕・抜根穴を避けて3ヵ所で下層調査を実施した。

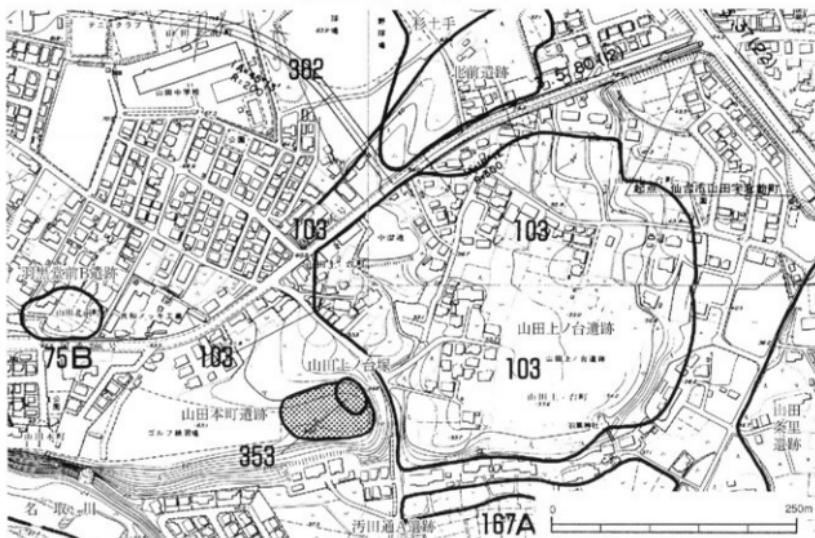
山山上ノ台塚の調査は、山田本町遺跡と並行して実施した。調査に当たっては、盛土の上から掘り込まれた遺構に注意をして精査を行なったが、遺構を検出することができなかった。さらに、塚を半裁して断面でも遺構が存在しないことを確認した。その後、塚の盛土及び旧表土層まで除去し、盛土の下にも塚に関係する遺構のないことを再度確認して調査を終了した。



山田本町通路 <遺跡地名表>

No.	道跡名	種類	立地	時代	No.	道跡名	種類	立地	時代
1	山野寺本町通路	集落	段丘	桃文・古代	11	上野通路	集落	段丘	桃文・古代
2	山口上・台跡跡	東落	段丘	御石器・桃文・三代	12	清水大町通路	散石堆	自然堆积	桃文・古代
3	北前通路	東落	段丘	桃文・古代	13	清水大町通路	散石堆	自然堆积	桃文・古代
4	御石器前田通路	散石堆	段丘	桃文・古墳・古代	14	勘定谷通路	東落	自然堆积	桃文・御石・古代
5	御石器前田通路	散石堆	段丘	桃文・古墳・古代	15	南・東源跡	散石堆	自然堆积	御石・古代
6	御石器通路	散石堆	段丘	桃文・古代	16	御内清水通路	散石堆	自然堆积	古代
7	上野山通路	段丘通	段丘	桃文	17	日・月跡	集落・水田跡	自然堆积	桃文・御石・中世
8	神上手	東落・段丘	段丘・丘陵	近世	18	寛因通路	城壁	自然堆积	山里
9	三ヶ瀬通路	東落	丘陵	桃文・古代	19	御石河原八坂跡	東落	自然堆积	桃文・古代
10	山田魚見通路	山田・白堀跡	段丘・自然堆积	桃文・古墳・近世	20	六本松通路	東落	自然堆积	古代

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 調査地点の位置

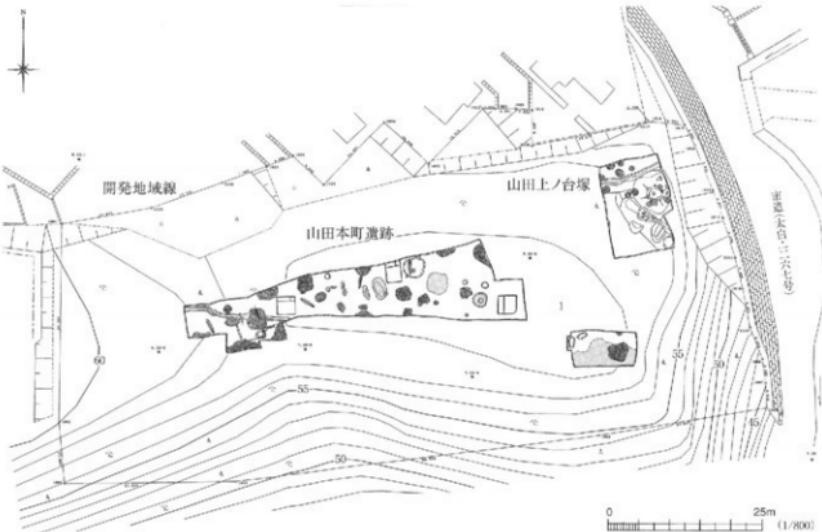
### 3. 遺跡の位置と環境

山田上ノ台塚・山田本町遺跡は、JR長町駅西方約5kmの仙台市南西部に位置する。付近は奥羽山脈から派生する青葉山丘陵の末端付近にあたり、遺跡の南西250mほどのところを名取川が丘陵を削りながら東流する。青葉山丘陵の麓には、名取川によって台の原・上町・中町の3段丘が形成されている。遺跡は、近隣の山田上ノ台遺跡・北前遺跡などとともに上町段丘上に立地する。遺跡のある段丘は標高55~60mの東西にのびる尾根状になっており、北側には西から東に下がる浅い谷が通り、東側は、北側から巻くようにして山田上ノ台遺跡との間に深い谷が存在する。南側は落差が20m以上ある段丘崖となっている。段丘崖の下の沖積平野面は、この辺りから急速に開け、広大な宮城野海岸平野となる。

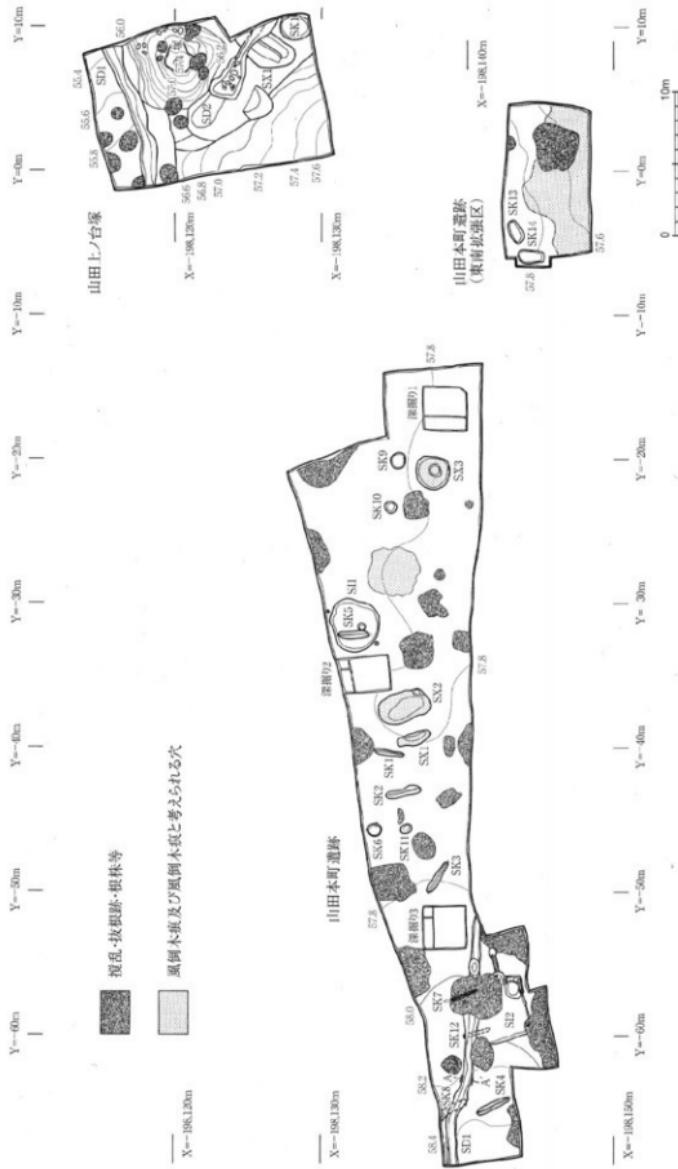
両遺跡周辺は、名取川の平野部への出口に当たり、多くの遺跡が存在している。山田上ノ台遺跡では旧石器時代後期の石器が多数出土している。縄文時代は、北前遺跡で早期の竪穴住居跡が発見されている。前期には三神峯遺跡で大きな集落が形成される。また北前遺跡でも前期末の土器が出土している。中期には上野遺跡や北前遺跡・山田上ノ台遺跡などに集落が形成される。中期後半から後期にかけては殿治屋敷八遺跡や、富沢周辺の沖積地に集落が作られる。

弥生時代には、付近の丘陵上では遺跡が形成されていないが、沖積地の富沢遺跡では広い範囲で水田跡が検出されている。また船渡前遺跡からは多数の土器や石器が出土しており、付近に弥生時代の集落が存在したと考えられる。古墳時代には西多賀から富沢にかけて多数の古墳が造営され、近くでは、三神峯遺跡の中に古墳や埴輪窯跡・須恵器窯跡が築かれている。7~8世紀には郡山遺跡から富沢にかけて官衙や集落・横穴墓などの遺跡が形成される。平安時代になると、沖積平野と丘陵部を問わずに遺跡は拡散し、上野遺跡・山田上ノ台遺跡・殿治屋敷八遺跡・船渡前遺跡などで竪穴住居跡が発見されている。また北前遺跡にはこの時期の須恵器焼成の窯跡がある。

中世の遺跡は、名取川対岸の高館地区は、城館や板碑群などや熊野神社があり、遺跡の集中する地域である。し



第3図 開発範囲と調査区位置



第4圖 山田本町遺跡構造配置図

かし、山田地区では、板碑やこの時期の遺構が発見されておらず、中世の遺跡の空白地となっている。近世の遺構としては、山田条里遺跡内で屋敷跡が見つかっている。また、大年寺山（茂ヶ崎）から北前遺跡にかけては所々に「杉土手」と呼ばれる鹿除けの土手が残っている。

以上のように、両遺跡周辺は、中世の遺跡の存在は不明であるが、旧石器時代以降、各時代の遺跡が次々に形成された地域であったことが分る。

#### 4. 基本層序

山田上ノ台塚から山田本町遺跡にかけての基本層序は次の通りである。

- I層 現表土層 褐色から暗褐色のシルトないしシルト質粘土 層厚は10~20cm。窓檻土を含む。
- II層 旧表土層 黒褐色から暗褐色のシルト質粘土ないし粘土 層厚は30~50cm。塚の盛上下部にのみ残存し、山田本町遺跡の側には残存しない。3層に細分される。
- III層 火山灰層 褐色から明褐色ないし明灰褐色の粘土・シルト質粘土・シルト 場所により層厚や細分層の有無はあるが、6層以上に分けられる。詳しくは、深掘り調査項目に記述する。
- IV層 基盤礫層 河床礫層で、III層との境付近では風化した様として散見される。

#### 5. 山田上ノ台塚の調査

山田上ノ台塚では、塚本体の他に溝跡2条・土坑1基・その他の遺構1基がある。

##### 1) 塚本体

###### ①調査前の状況

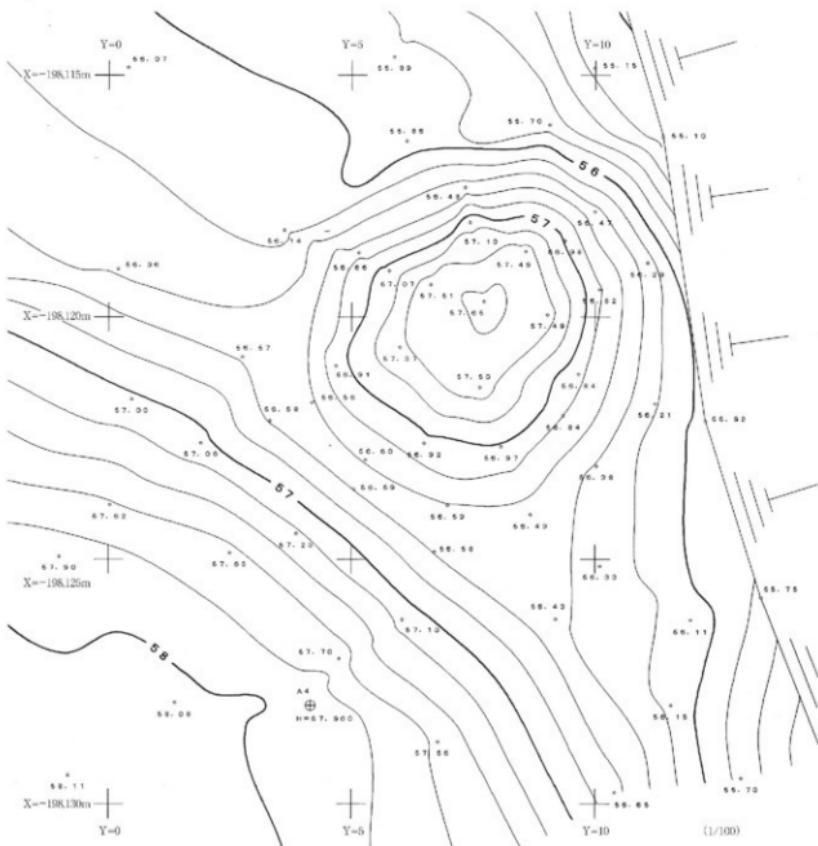
【位置】15mから25mの幅で西から東方向に向かって緩やかに下がりながら、舌状に伸びる段丘の末端付近に位置する。段丘の末端は、北東方向に10°前後で緩やかに傾斜した後、急激に東側の谷に落ちており、その落ち際に造成されている。塚の標高は、頂部で57.6m、裾部で56m前後である。【形状・規模】樹木伐採後の現状は現況平面図のとおり不整形な円錐形に近い伏鉢状を呈する。大きさは、裾部で直徑約8m、頂部付近で直徑は2m前後である。高さは、南東側裾部との比較で約120cm、北東側裾部との比較で約150cmである。塚の周囲の傾斜は、山側の南西面で約20°、谷側の北東面で約34°である。段丘の傾斜面と塚の間及び塚の北西側には、幅が2~3mの周溝状の凹みが表面観察できる。塚頂部北東側には、直径が50cm前後の腐蝕が進行した松の切株があった。また、調査区の全面に多数の孟宗竹の切株が存在した。

###### ②表土排除後の状況

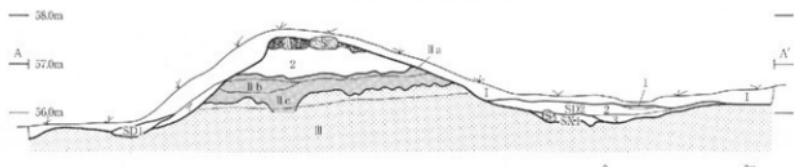
20cm前後の表土を除去し、塚構築土の現存の表面を検出した。表面検出の際、竹根の抜根により塚表面に多数穴が生じた。塚の平面形は不整形で、南北7m・東西6m以上を測る。頂部は、東西2.1m、南北2mの範囲が平坦となっている。

塚表面では、頂部の西寄りに、平面形が一辺約45cmの正方形に近い菱形で、厚さが26cmある自然石（以下「方形大型石材」と呼ぶ。）が据えられていた。方形大型石材の上面はほぼ平坦であった。この石の周囲の塚頂部には、直徑約3mの範囲に、直徑3~7cmのやや扁平な小礫（河原石）が敷設されていた。小礫は中央付近で約20cmの厚さで敷設されるが、敷設範囲の末端付近は急激に薄くなっている。塚斜面には、頂部から崩落したと見られる小礫が散見された。

塚の北東側の斜面上部からは、7個の大型の礫が検出された。礫は長さが20~45cmある大型の河原石である。このような大型の礫は、西側の傾斜面の上位から下位にわたって数個出土したが、これらについて表土排除の際に、



第5図 山田上ノ台塚現況平面図

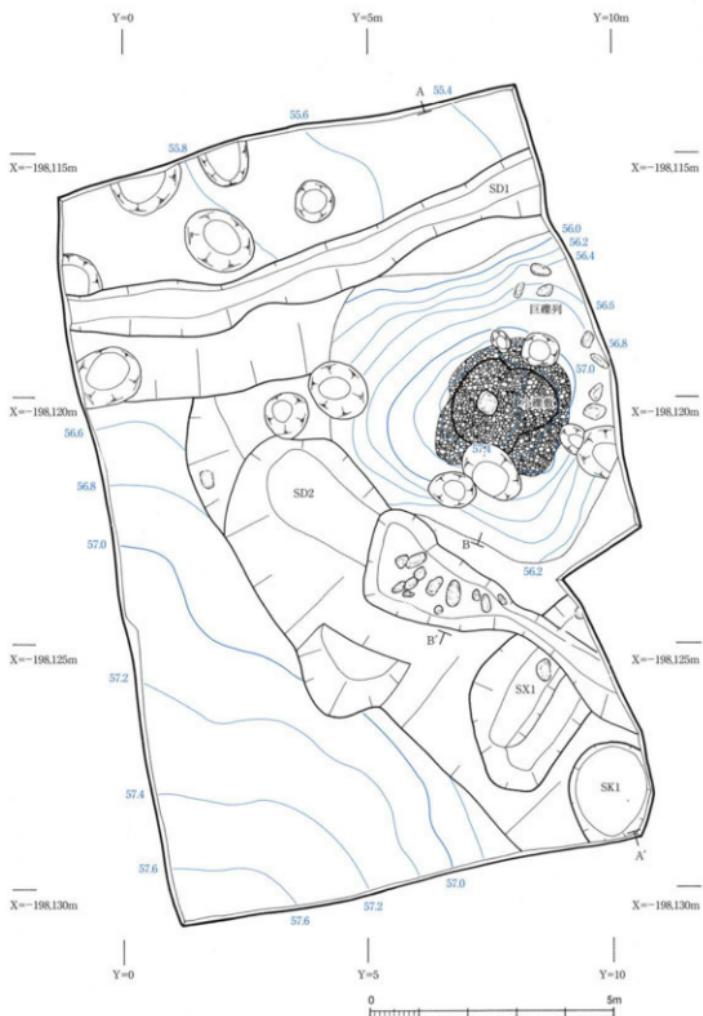


調査			土 型	層 名
1	10YR5/4	暗褐色	シルト	板根付土・小礫を含む・しまなみハイヤーでしている
2	10YR5/3	暗褐色	シルト	板根付・日焼け土・まばゆい山の野原土
3		小塊		岩伴付・Kern判定の局所的な地盤(堅硬土)
2	10YR4/4	黒 色	シルト	基盤部の板根付シルト質粘土の上にアツミ・堆積土
Ba	10YR2/3	黒褐色	シルト質粘土	泥炭土上部
Bb	10YR2/3	暗褐色	粘土	泥炭土
Bc	10YR2/4	暗褐色	シルト質粘土	泥炭土下部

調査			土 型	層 名
E	10YR4/6	褐 色	シルト質粘土	堆山
Ba	10YR5/3	暗褐色	シルト	褐色土塊を含む 下部は褐色土生じ風化した土を多く含む
Bb	10YR5/4	暗褐色	シルト質粘土	褐色土のブロックを含む
Bc	10YR3/3	暗褐色	シルト質粘土	堆山からの崩落土の可能性がある
D	10YR3/4	暗褐色	シルト質粘土	褐色土・黃褐色土上に疊合する
Ea	10YR4/4	褐 色	シルト質粘土	赤・小礫に富む・黃褐色土を含む

第6図 山田上ノ台塚断面図

表土中に浮いたものとして除去している。塚の斜面全周に北東部のように、大型の縹が存在していたと考えられる。塚北東部から出土した大型の縹は、出土位置が不規則で、据え方などは認められないで、原位置から移動していると観察される。これらの大型の縹については、現状は塚の斜面から出土しているが、本来は、頂部で検出された



第7図 山田上ノ台塚平面図

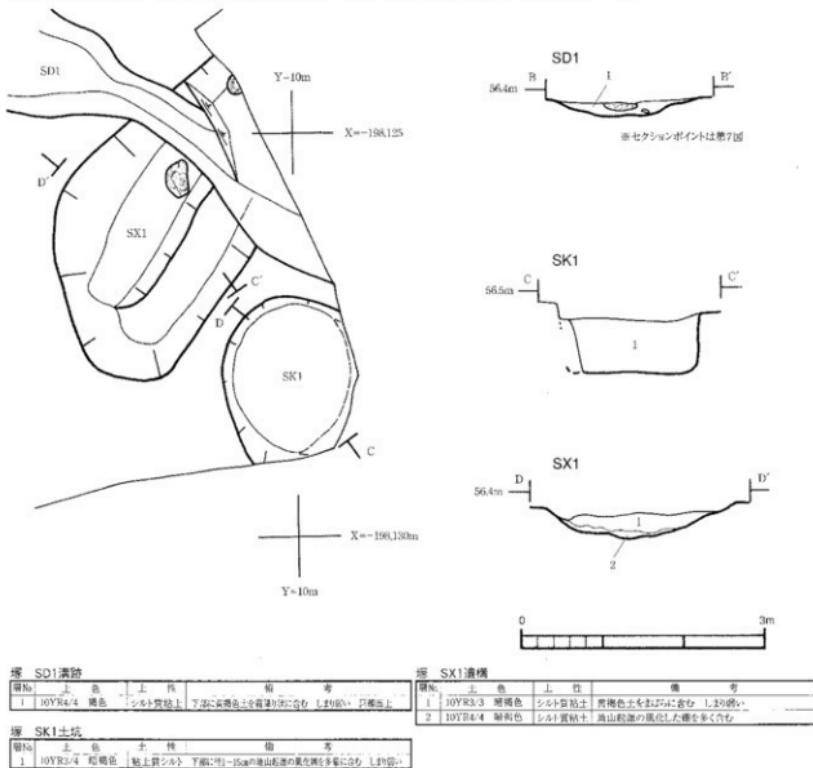
小礫の崩落防止のために、小礫の周囲に並べて据え置かれていたものと推定される。SD2溝跡から出土した礫群についても、塚頂部の南側に配された大型の礫が崩落した、または移動された結果、当該地から出土した可能性が考えられる。

#### ③礎及び礎層下部の状況

現況表面の記録作成後、塚頂部の小礫群を除去し、方形大型石材の周囲に遺構がないか精査したが、石材の下部には据え方の掘り込みを含め、遺構を検出することはできなかった。盛上面に方形大型石材を直接置いて、その周辺に小礫を設置したと観察される。方形大型礫を除去し、精査を行なったが遺構は検出できなかった。方形大型礫の下部については、塚を半裁して盛土面の観察の際及び積土の除去過程、旧表土層（II層）検出時、地山（III層）検出時等再三にわたり精査を行ない、遺構確認を行なったが、遺構は検出されなかった。この結果から、この塚は、何等かの埋納遺構を伴うものではないと判断される。

#### ④断面（積土）の状況

塚の下部には、褐色を呈する地山のIII層の上に、黒褐色ないし暗褐色の旧表土層（II層）が約30~50cmある。旧表土層は3層に分けられ、南部より傾斜面の下位に当たる北側の方が厚く堆積している。



第8図 山田上ノ台塚周辺遺構実測図

旧表土層の上には積土上層が60cm前後ある。積土土層は褐色で、旧表土起源の黒褐色土や地山起源の褐色土のブロックを多量に含む。塚の積土および旧表土層は、深くまで竹の根の影響を受けており、積土の細分はできなかつた。旧表土層（Ⅱ層）から、ロクロ上器器部の破片が3点出土している。

## 2) 塚周辺の遺構

塚の周辺では溝跡2条と土坑1基、その他の遺構1基が検出されている。

### ①溝跡

**S D 1 溝跡** 【位置・重複】調査区の北辺で検出された。塚の北辺を画し、調査前の地形で観察された凹みに対応するが、溝自体は塚の西側にさらにのびている。S D 2 溝跡と直交するように接するが、同期である可能性を含めて、前後関係は不明である。S K 1 土坑に切られる。【方向・幅】方向はN-74°-Eである。幅は検出面で70~120cm、底面で25~60cmである。【深さ・断面形】検出面からの深さは5~20cm程度である。断面形は舟底状を呈する。【堆積土】堆積土は暗褐色のシルトで、層下部にⅢ層起源の褐色土や風化した礫を含む。塚の南北断面では、S D 1 溝跡の堆積土は、塚の斜面崩落土観察される土層（イ層）の上部に乗るように堆積していることから、塚の周開が崩落しはじめてからの遺構と推定される。

**S D 2 溝跡** 【位置・重複】調査区の西部から南部にかけて塚を取り巻くように検出された。S D 1 溝跡と接する北端は、30cm前後の落差があり、S D 1 溝跡側が低くなっている。S D 1 溝跡との段差部分の南側は、1.2m程の幅で塚と段丘尾根とを結ぶ土橋状に浅い掘り込みとなっている。土橋状の部分の南側は2段に掘下げられて南側が低くなっている。S X 1 遺構を切る。【幅】幅は一定しないが西辺部の上端で3m前後である。【深さ・断面形】溝西側の段丘斜面からの深さは50~60cm程度であるが、塚の裾部からの深さは15~20cmである。断面形は浅い舟底状を呈する。【堆積土】堆積土は、調査区東壁部分では暗褐色のシルト質粘土で、含有物等によって3層に分けられた。西部の下層は、褐色のシルト質粘土で、Ⅲ層起源の黄褐色土を霜降り状に含む。西部の溝底面より5cm前後浮いた面からは、塚の北東斜面から出土したものと同じような大型の礫が多数出土した。塚からの崩落物の可能性が考えられる。

SD 2 溝跡については、塚構築部分と段丘斜面を分断し、さらに積土を確保するために掘削された周溝状の溝と推定される。

### ②土坑

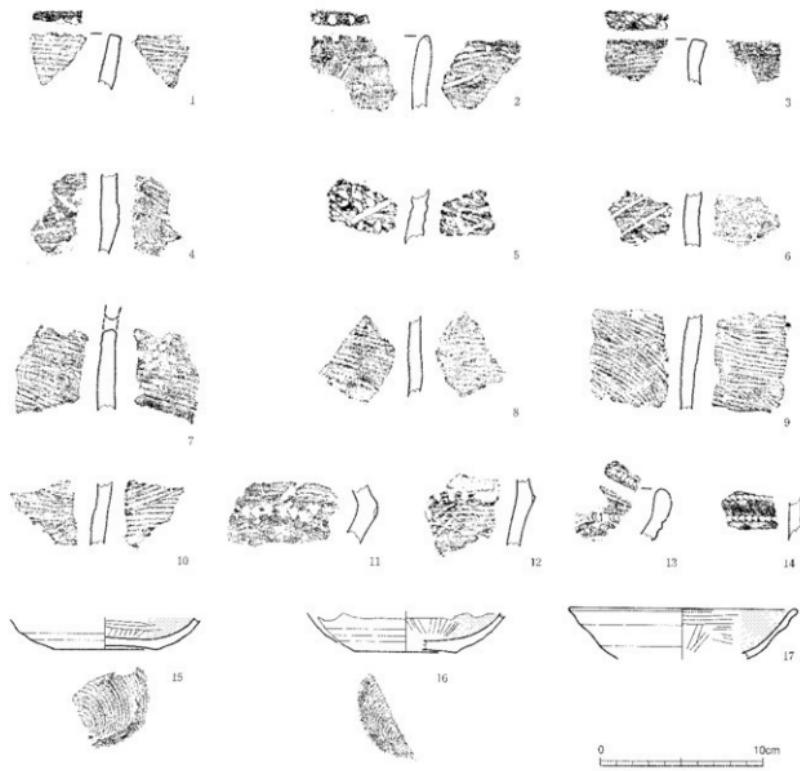
**S K 1 土坑** 【位置・重複】調査区の南東角で検出された。S D 2 溝跡を切る。【平面形・大きさ】直径約100cmの円形を呈す。【深さ・断面形】深さは75cmを測り円筒形を呈す。底面は基盤の礫層に達している。【堆積土】堆積土は、暗褐色の粘土質シルトである。基盤礫層起源の風化した大小の礫を多量に含む。

### ③その他の遺構

**S X 1 土坑** 【位置・重複】調査区の南東部で検出された。S D 2 溝跡に切られる。【平面形・大きさ】検出部でU字形を呈し、東側は調査区の東にのびる。検出部分で長さ3.7m、幅2.3mを測る。【深さ・断面形】深さは検出面から30cmを測る。断面形は既ね舟底形を呈しているが、北側が南側より数cm低い。【堆積土】堆積土は、上部が暗褐色のシルト質粘土、下部が褐色のシルト質粘土層で風化した礫を多く含む。

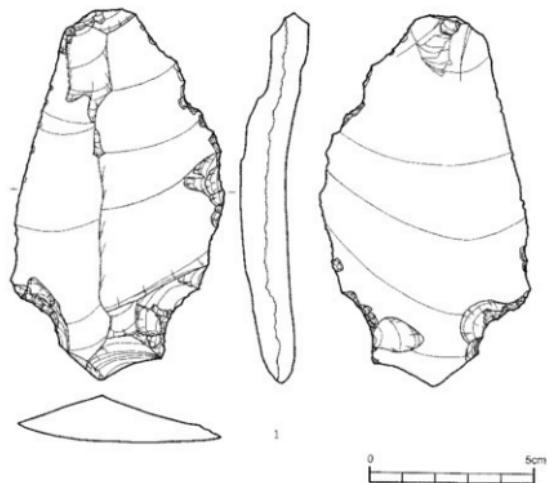
## 3) 出土遺物

山田上ノ台塚からは第9図に示したような縄文土器片と土器器片および第10図のような石器の剥片が出土している。多くはⅠ層（表土）中から出土したものである。縄文土器は、いずれも早期に相当するものが主体と考えられるが、詳細については、山田本町遺跡出土のものと合わせて後述する。



图号	器物	出土地点	分 型	器型	通 高 (cm)	特 质	备 注	参考
番号	基面形	盖饰名	底脚形	乳口部	特征	器高・底 口径・幅 合口径・厚	(回纹・素面・施彩・特殊・分型)	同属
1	A-1	底十介	绳文上器	——	——	——	口沿江-外唇 素面 内面 无痕 口沿-底足力丸凸 未施彩 未入	16-1
2	A-12	1型	——	——	——	——	口沿江-外唇 素面 内面 无痕 口沿-底足力丸凸 未施彩 未入	16-2
3	A-2	底+4	绳文上器	——	——	——	口沿江-外唇 素面 内面 无痕 口沿-底足力丸凸 未施彩 未入	16-3
4	A-3	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-4
5	A-7	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-5
6	A-6	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-6
7	A-3	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-7
8	A-10	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-8
9	A-13	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-9
10	A-14	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-10
11	A-9	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-11
12	A-11	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-12
13	A-4	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-13
14	A-8	1型	绳文上器	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-14
15	D-1	1型(合口)	——	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-15
16	D-2	1型(合口)	——	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-16
17	D-3	1型(合口)	——	——	——	——	外面部-外唇 斜面 无痕 内面 无痕 未施彩 未入	16-17

第9図 山田上ノ台塚出土縄文土器・土師器



第10図 山田上ノ台塚出土石器

塚の積土中からは、図示2点の縄文土器片が出土している。II層(旧表土層)からは、前述のようにロクロ土師器の杯が3点出土している。3点のうち、底部の破片2点の外側には回転糸切り痕跡が認められる。3点とも平安時代のものと考えられる。土師器のほか、条痕や縄文の付された縄文土器の体部片も6点出土している。

石器は、剥片が6点出土している。第10図1の剥片には片側の側面に微細剥離が認められる。

S K 1 土坑からは、縄文土器の破片が3点出土している。S X 1 造構からの出土遺物はない。

#### 4) 塚の性格と構築時期

塚の性格については、先に述べたように地下に埋納施設等の造構が存在せず、塚頂部に大型の石材が据えられていることや、その周囲が小砾で化粧され、さらに小砾の周りを大型の砾で取り囲んでいた可能性があるなど、塚上面に顯在的な造構が存在する。したがって、この造構については、何等かの施設の台座の可能性が考えられる。

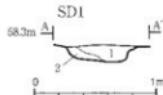
造構の年代は、積土下部のII層中から出土したロクロ土師器は平安時代のものと理解されることから、塚が構築されたのは平安時代以降であることは確かであるが、具体的な時期を決定するような遺物は出土していない。また類似遺跡を見出せなかつたので、構築年代は明らかでないが、近隣で板碑や中世の集落が発見されていないことを考慮すると、近世以降に作られた可能性が高いと考えられる。

#### 6. 山田本町遺跡

発見遺構は、溝跡1条・竪穴造構1基・竪穴住居跡1軒・土坑14基・その他の遺構3基がある。各遺構ともII層上面で検出されている。

## 1) 溝跡

S D 1 溝跡 【位置・重複】調査区西部の尾根筋上で検出された。S I 2 竪穴住居跡・S K 7・8・12上坑を切る。【方向・幅】緩くクランク状に屈曲するが、全体の方向はN-84°-Wである。幅は検出面で60~70cm、底面で30~40cm前後である。【深さ・断面形・傾斜】検出面からの深さは約20cmである。断面形は逆台形を呈する。地形に沿って東側が徐々に低くなっている。【堆積土・出土遺物】堆積土は、暗褐色の粘土で2層に分けられる。遺物は、スクレイバー1点（第21図2）と縄文土器と見られる土器片が1点出土しただけである。

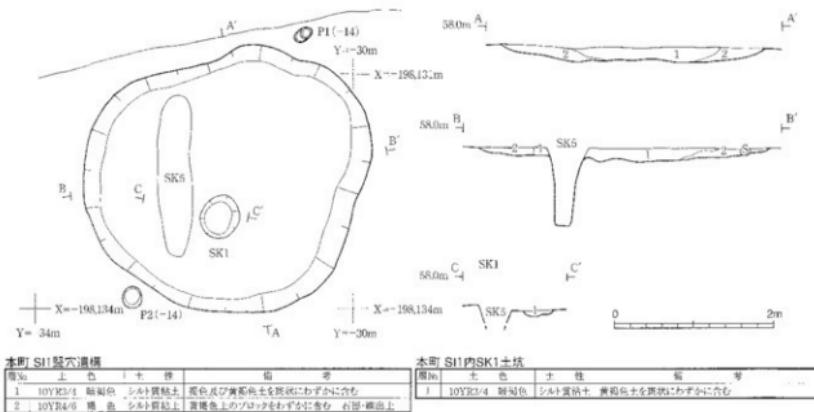


No.	土色	ナメル	層
1	10YR3/2 暗褐色	シルト質粘土	炭化物・黒褐色土をわずかに含む
2	10YR4/4 暗褐色	粘土	鶴山利澤の暗褐色土をわずかに含む

第11図 溝跡断面図

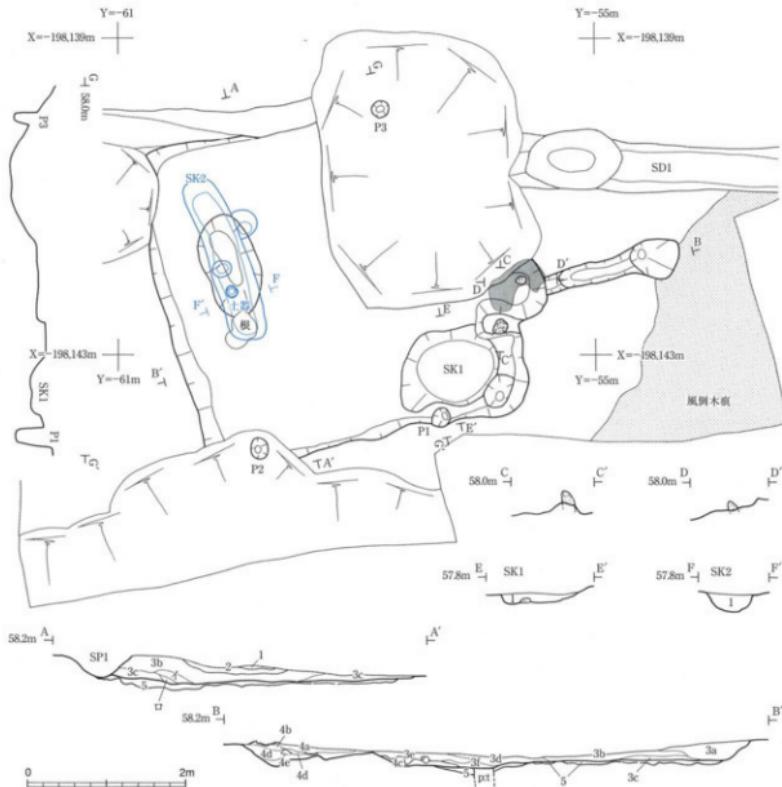
## 2) 竪穴遺構・竪穴住居跡

S I 1 竪穴遺構 【位置・重複】調査区中央の北壁寄りに位置する。SK 5 土坑（落し穴）に切られている。【平面形・規模・方向】平面形はやや歪んでいるが円形を呈する。大きさは南北3.4m・東西3.5mを測る。【堆積土】堆積土は、2層に分けられた。1層は暗褐色のシルト質粘土で、竪穴住居跡の中央に分布している。2層は褐色のシルト質粘土層で、壁面に分布する。いずれも自然堆積土と考えられる。検出面から床面までは約15cmである。【床面・壁面】床面は僅かな起伏があるがほぼ平坦である。床面から壁面にかけては緩やかに立ち上がる。竪穴中央付近の堆積土中に焼土のブロックが観察されたが、床面では軽跡や、焼土・炭化物による汚れは検出されなかった。【柱穴・その他の施設】床面では土坑が1基検出された以外、柱穴・その他の施設は検出されなかった。床面で検出された土坑は、南北長軸55cm・東西短軸49cmの楕円形を呈す。深さは7cmで、堆積土は暗褐色のシルト質粘土である。竪穴遺構と関係するかどうか不明であるが、遺構の北東と南西の壁際にはピットが各1個検出されている。【掘り方】掘り方の埋土や、貼床などの施設は検出されなかった。【遺物出土状況・出土遺物】2層中から壁面と並行するような状態で多数の石器・石製品が出土した。床面ないし床面直上からも石器や土器が少量出土している。



第12図 S I 1 竪穴遺構実測図

遺物は、縄文土器（第23図1・2・6・7・9・14・15他）と石器（第20図2・5・7、第21図1・4～6、第22図1・3～5）が堆積土中と床面上から出土している。縄文土器は、内外面に条痕のあるもの、口縁部と体部



## 本町 SI2壁穴住居跡

番号	土 色	土 性	備 考
1	10YR2/3 黄褐色	シルト質粘土	褐色及び黄褐色土を複数にわずかに含む
2	10YR1/7/1 黒色	粘土質粘土	クロボク土壌
3a	10YR2/4 黄褐色	シルト質粘土	壁間に黄褐色土のブロックを含む
3b	10YR2/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色土を複数に部分的に含む
4	10YR1/1 黒色	シルト質粘土	
5	10YR8/2 灰白色	火山灰	「十和田山」火山灰
3c	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	黄褐色土を複数に含む
3d	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	にいへ黄褐色土のブロックを多く含む
3e	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	にいへ黄褐色土のブロックをわずかに含む
3f	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色土をわずかに含む
4a	10YR2/4 黄褐色	シルト質粘土	黄褐色土粒及び暗褐色地化土粒を多く含む
4b	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	暗褐色地化土粒及び黄褐色粘土粒を含む
4c	10YR4/4 黄褐色	粘土質粘土	赤褐色地化土のブロックを多量に含む
4d	10YR2/2 黑褐色	粘土質粘土	赤褐色地化土のブロックを含む 褐褐色土を含む
4e	10YR2/4 黄褐色	シルト質粘土	にいへ黄褐色土のブロックを多く含む
5	10YR4/6 黄褐色	シルト質粘土	明黄褐色土粒を多量に含む

## 本町 SI2内SK1土坑

番号	土 色	土 性	備 考
1	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	にいへ黄褐色土粒および褐色土粒を含む

## 本町 SI2内SK2土坑

番号	土 色	土 性	備 考
1	10YR6/4 明黄褐色	シルト質粘土	風化した泥を含む

## 本町 SI2内 ピット

番号	土 色	土 性	備 考
P1	10YR4/6 黄褐色	シルト質粘土	明黄褐色土粒を多量に含む
P2	10YR4/6 黄褐色	シルト質粘土	明黄褐色土粒を多量に含む ロクロ土器片出土
P3	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	明黄褐色土粒を多量に含む

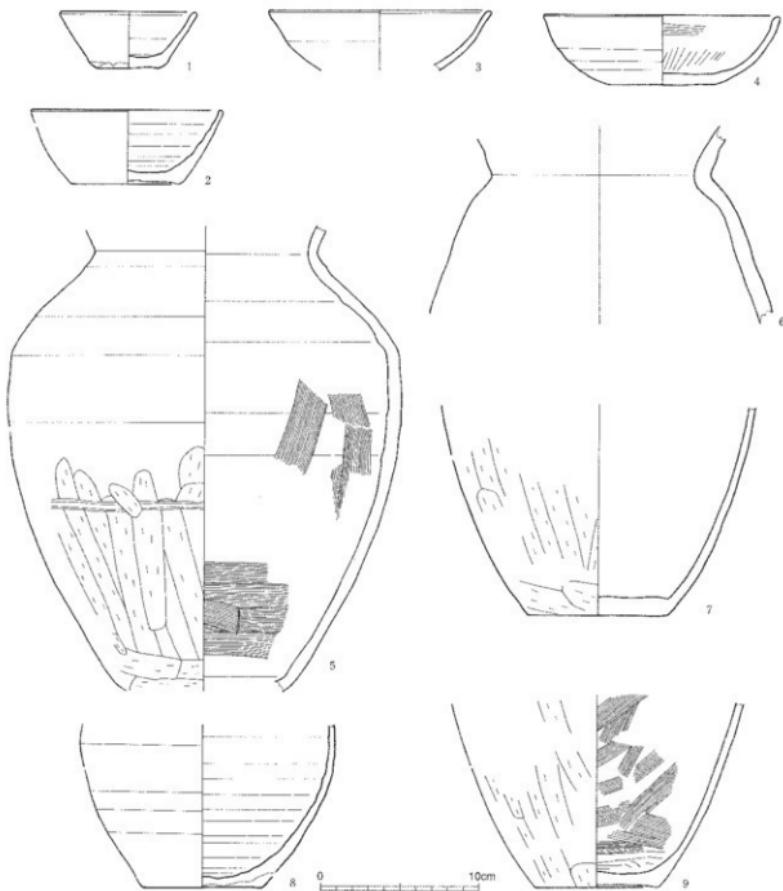
第13図 SI 2 壁穴住居跡実測図

の境目がくの字に折れて、境の外面に刺突のある降帯が巡り、体部外面に条痕のあるもの、外面に縦位の縄文压痕のあるものなどがあり、A-6（第23図7）以外はいずれも胎土には植物繊維が含まれている。石器には、石錐2点・2次加工のある剥片4点・小型の石斧と考えられるものの刃部片1点・蓋石2点・凹石1点・石核1点などがある。なお、K-12（第20図5）の石鎧の刃部は磨耗して光沢を持っている。

**S I 2 穴穴住居跡** 【位置・重複】調査区西部に位置し、段丘の南辺付近に当たり、住居跡南側は1~2mで傾斜面となる。住居の北辺はSD1溝跡に切られる。また北東部を抜根のための擾乱坑に切られている。【平面形・規模・方向】平面形は方形を呈し、南北軸長4.1m・東西軸長4.2mを測る。方向は西辺でN-19°-Wである。【堆積上】堆積上は、大別5層、細別16層に分けられた。堆積土は、検出面から床面までは保存の良いところで約30cm、南壁付近で3cmほど残っている。1層は暗褐色のシルト質粘土、2層は黒褐色の粘土質シルトで、住居跡中央付近の堆積土上部を占める。3層は暗褐色ないし褐色のシルト質粘土を基調とする土層で、住居跡の堆積土下部ないし床面直上に分布する。4層はカマド内および煙道堆積層で、焼土や炭化物を含む。5層は竪穴住居跡の掘り方埋め土である。【床面・壁面】床面はほぼ平坦である。壁面は、各辺とも残存部はほぼ直線的にのびるが、根による擾乱を受けて多少凹凸が生じている。立ち上がりはやや緩い角度である。【柱穴・カマド・施設】柱穴は、床面の対角線状では検出されなかった。壁際で検出されたP1・P2は壁柱穴の可能性がある。また、P3は北壁際に位置し、P1・P2に対して直角に交差する位置に当たるため、P1の対面に当たる柱穴の可能性がある。P2の対面に当たる位置には他の造構が存在したので、検出できなかったが、P1・2・3及びP2の対面のピットが組みになって主柱穴を構成していた可能性も考えられる。

カマドは東壁の中央よりやや南に寄って築かれている。カマド本体は、住居の東壁面より45cm程外側に張出している。張出しの先には長さ175cmの煙道が付く。煙道は外側ほど深く掘られ、先端部分はピット状に一段深く掘られている。カマド本体は、張出し部の奥から残存する右（南）袖の手前端までの長さが97cmある。幅は、左（北）袖が削平されているので不明であるが、残存範囲では、70cm以上、外側で90cm以上ある。カマド本体内部の張出し部分の奥壁北寄りには焼けた石が立った状態で出土している。支脚と考えられる。残存する右袖は、東壁からの長さが55cmあり、基底面の幅43cm、残存上端面の幅25cmを測る。袖の中央には補強用の縁が埋め込まれていた。カマド内部は中央から奥壁にかけての部分が強く焼けていた。

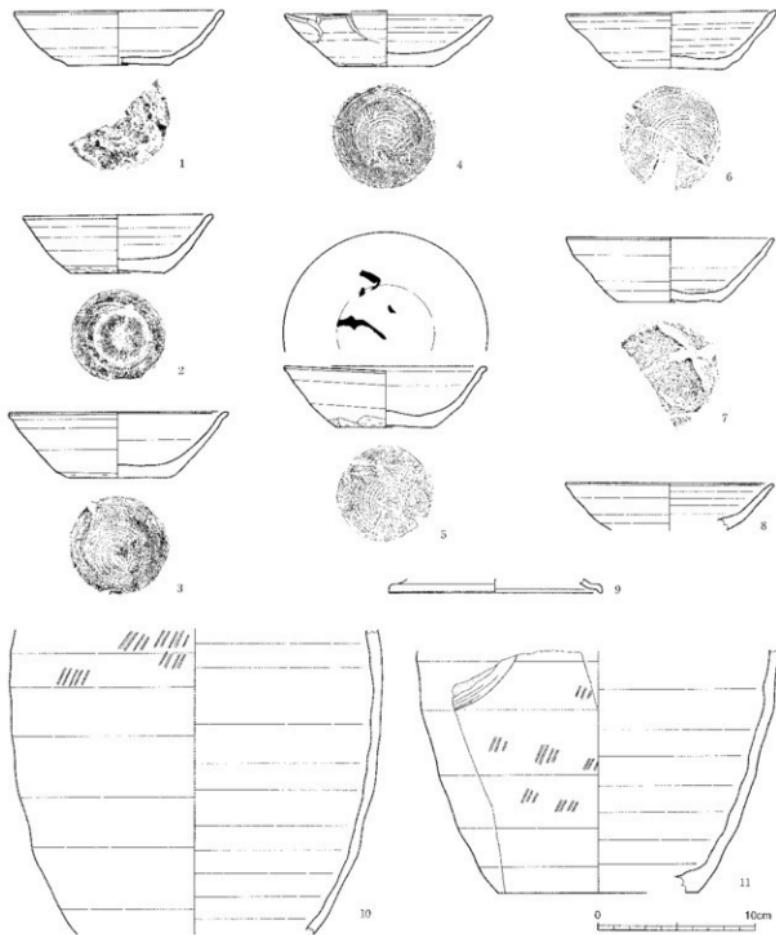
この他の施設としては、カマドと南壁の間の床面で検出された浅い土坑（SK1）と、住居西壁中央近くの掘り方底面で検出された土坑（SK2）がある。SK1土坑は、平面形が不整円形で、東西軸長117cm、南北軸長96cmを測る。深さは12cmで断面形は舟底状を呈す。堆積土は褐色のシルト質粘土である。堆積土の上面から多数の上部器片が出土した。SK2土坑は、長さ215cm・幅50cm前後・深さ21cmの溝状を呈する。堆積土は明黄褐色のシルト質粘土である。土坑の中央南寄りの底面から、完形の土師器の壺が倒立の状態で出土した。【掘り方】掘り方の深さは3~10cmで、掘り方の底面には大小の凹凸がある。掘り方埋め土（5層）は、基本層Ⅲ層を起源とする明黄褐色土のブロックを多く含む褐色のシルト質粘土層である。【遺物出土状況・出土遺物】遺物はカマド内とカマド前面の床面及びSK1土坑上面から土師器・須恵器がまとめて出土している。また、煙道の先端部分の堆積土中からも土師器の壺が出土している。床面およびカマド内からの出土遺物には、ロクロ土師器の壺2点（第14図1・2）・壺5点（第14図5~9）と、須恵器の壺8点（第15図1~8）・蓋の端部破片1点（第15図9）・瓶の体部破片2点（第15図10・11）がある。また、ピット2の底面でロクロ土師器壺片1点（第14図3）とSK2土坑の底面で完形の土師器壺1点（第14図4）が出土している。床面検出の須恵器壺は、切り離し技法不明で底部と体部下端が回転ヘラ削りされるもの（第15図3・4）、回転糸切り後に底部が手持ちヘラ削り調整されるもの（第15図5）、回転ヘラ切り無調整のもの（第15図1）、回転糸切り無調整のもの（第15図6・7）がある。ロクロ土師器の壺は体部上半が括れるもの（第14図5・6）がある。



SI 2 窒穴住居跡出土土器

番号	名前	出土地點	分類	寸 量(cm)	特 徴		(資料・高さ・底地・時期・分類)	写 真			
					基木層	造跡层	取 材 所	種別	形 態	深 度・長 さ	幅 幅
1 D-7		SI-2 カマド灰	Sv6	ウロコ模様	平	3.6	(8.6)	4.0	四軒糸切りの後ナメ	17-1	10mm
2 D-1		SI-2 床面	Sv10	ウロコニ幕面	平	7.0	(12.2)	4.8	底邊切り落懸し不明	17-3	
3 D-8		SI-2 P12灰面		ウロコニ幕面	平	(3.9)	(14.0)				
4 D-9		SI-2 SK-2灰面		ウロコニ幕面	平	4.5	14.9	6.6	内面黒色化粧	17-4	
5 D-2		SI-2 4a層	Ns1	ウロコニ幕面	平	(29.8)			外腹:クロリ 内面:シガキ	17-5	
6 D-6		SI-2 通気孔隙		ウロコニ幕面	平	(12.7)			外腹:クロリの後ヘラケズリ 内面:クロの後ヘラナダ	17-5	
7 D-9		SI-2 床面		ウロコニ幕面	平	(13.5)		9.0	外腹:クロの後ヘラケズリ	17-6	
8 D-4		SI-2 床	Ns14	ウロコニ幕面	平	(10.5)		7.6	内外面:クロ	17-7	
9 D-3		SI-2 優酒先端		ウロコニ幕面	平	(12.4)		7.8	外腹:ヘラケズリ 内面:ヘラナダ+ナダ		

第14図 SI 2 窒穴住居跡出土土器



SI 2 聚穴住居跡出土 須恵器

(複数枚)

品番	品目	出土地点	分類	寸法	重 (g)	特・備考	(複数枚)	
							名	種別
1 E-9	基本形	遺構名	須恵器	取上No.	種別	器種・長	山形・加	器種・短
		SI-2	カマツ・灰	No.5	直腹器	环	25	134
2 E-6	—	SI-2	4C層	No.6	直腹器	环	37	222
3 E-5	—	SI-2	床面	No.8	直腹器	环	12	40
4 E-8	—	SI-2	床面	No.7	直腹器	环	33	132
5 E-11	—	SI-2	4C層	No.6	直腹器	环	29	130
6 E-10	—	SI-2	4C層	No.13	直腹器	环	38	134
7 F-7	—	SI-2	床面	No.15	直腹器	环	4.1	(132)
8 E-3	—	SI-2	床面	—	直腹器	环	(2.2)	(132)
9 E-4	—	SI-2	床面	—	直腹器	直	(0.9)	(134)
10 E-2	—	SI-2	SK-1-1層	—	直腹器	直	(19.5)	—
11 E-1	—	SI-2	必須	No.3	直腹器	直	(18.6)	—

第15図 SI 2 聚穴住居跡出土須恵器

### 3) 土坑

S K 1 土坑 【位置・重複】調査区中央で検出された。重複する遺構はない。【平面形・大きさ】細長い円形を呈し、上面で長さ198cm・幅40cmを測る。底面の幅は5~8cmで、南端部の壁面は中央部から底面にかけて壁面を抉るように掘ってあり、壁の上半部が数cmオーバーハングしている。【深さ・断面形】検出面からの深さは90cmある。横断面形は、V字形ないし深い逆台形を呈す。【堆積土・出土遺物】堆積土は、4層に分けられる。1層は山田上ノ台塚の旧表土(Ⅱ層)に似た黒褐色のシルト質粘土、2層は地表からの流入土と考えられる暗褐色のシルト、3層は壁面からの崩落土と考えられる黄褐色土を含む暗褐色のシルト質粘土、4層は壁面からの崩落土からなる褐色の粘土質シルトである。遺物は、出土していない。

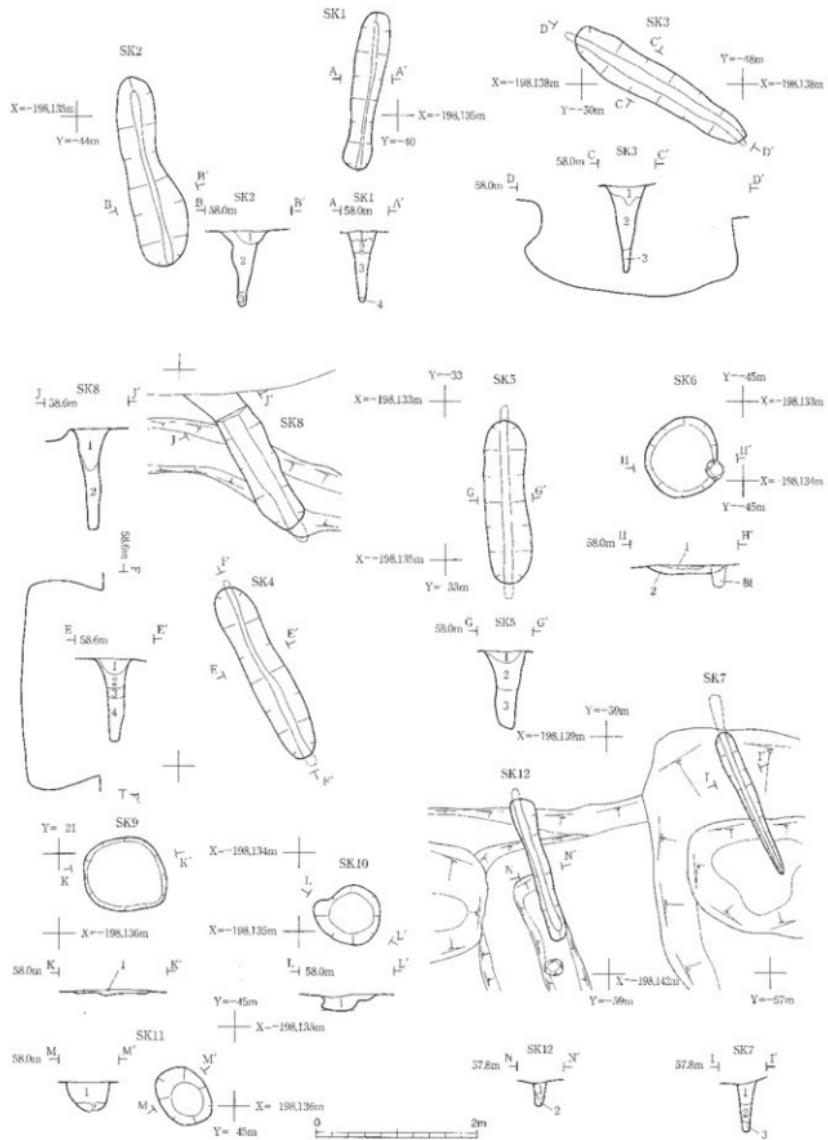
S K 2 土坑 【位置・重複】調査区中央 S K 1 土坑から約2.5m東側で検出された。重複する遺構はない。【平面形・大きさ】やや細長い円形を呈し、上面で長さ240cm・幅48~66cmを測る。底面の幅は5~10cmである。両端の中ほどから下はオーバーハング気味に掘られて底面に達している。【深さ・断面形】検出面からの深さは95cmある。横断面形は、上部が漏斗状にやや広がるV字形を呈す。【堆積土・出土遺物】堆積土は、3層に分けられる。1層は黒褐色のシルト質粘土、2層は暗褐色のシルト、3層は壁面からの崩落した黄褐色土や風化した礫を含む暗褐色の粘土質シルトである。遺物は、縄文・条痕の上器片1点(第23図13)と内外面に条痕のあるものを含む縄文土器片が2点出土している。

S K 3 土坑 【位置・重複】調査区中央やや西寄りで検出された。S K 2 土坑から約6m東側に位置する。重複する遺構はない。【平面形・大きさ】細長い円形を呈し、上面で長さ244cm・幅38~50cmを測る。底面の幅は10~15cmである。両端の壁面は、中ほどから下はオーバーハング気味に掘られ、また両端ほど底面までの深さが浅くなっている。【深さ・断面形】検出面からの深さは中央部で108cmある。横断面形は、上端の狭いV字形を呈し、縦断面形は全体として袋状を呈し、底面は舟底状を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、3層に分けられる。1層は黒褐色の粘土質シルト、2層は褐色の粘土質シルト、3層は壁面からの崩落土を多く含む黄褐色の粘土である。遺物は、縄文土器と見られる土器の細片が1点出土している。

S K 4 土坑 【位置・重複】調査区の西端部で検出された。北東隅1mにS K 8 土坑があり、S K 12 土坑とは約5mの間隔で並行している。重複する遺構はない。【平面形・大きさ】細長い円形を呈し、上面で長さ235cm・幅45~51cmを測る。底面の幅は5~11cmである。両端の壁面は、中ほどから下は抉るように掘られ、土坑の上端から10~15cm奥に入り込んで、壁面上部はオーバーハングしている。【深さ・断面形】検出面からの深さは中央部で104cmある。横断面形は、細長い逆台形を呈す。縦断面形は袋状を呈しているが、底面部は端部付近を除くとほぼ平坦である。【堆積土・出土遺物】堆積土は、4層に分けられる。1層は黒褐色のシルト質粘土、2層は暗褐色のシルト質粘土、3層は壁面からの崩落土を含む褐色の粘土である。4層は暗褐色土及び地山起源のにぶい黄褐色土を多量に含む褐色の粘土である。遺物は、出土していない。

S K 5 土坑 【位置・重複】調査区中央やや西寄りの北壁近くで検出された。S K 1 土坑から8m東側に位置する。S K 1 竪穴遺構を切っている。【平面形・大きさ】細長い円形を呈し、上面で長さ205cm・幅50~53cmを測る。底面の幅は10cm前後である。両端の中ほどから下はオーバーハング気味に掘られ、検出面から約20cm奥に入っている。また両端の底面はやや浅くなっている。【深さ・断面形】検出面からの深さは中央部で97cmある。横断面形は、やや重な逆台形を呈し、縦断面形は袋状を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、3層に分けられる。1層は黒褐色のシルト質粘土、2層は暗褐色のシルト、3層にはにぶい黄褐色土のブロックを含む褐色の粘土である。遺物は、縄文・条痕と条痕のある縄文土器(第23図4・8・11・12)の他、縄文土器細片が7点出土している。

S K 6 土坑 【位置・重複】調査区中央の北壁際で検出された。重複遺構はないが、東側の壁面の一部が樹根によるものと見られる搅乱により壊されている。【平面形・大きさ】平面形は円形で、東西軸長90cm、南北軸長100cmを



第16図 土坑実測図

## (第16回土層注記)

## 本町 SK1土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/2 黒褐色	シルト質粘土	しまなし 熟成なし
2	10YR5/3 單褐色	シルト	しまなし 熟成なし
3	10YR5/3 單褐色	シルト質粘土	黄褐色土を混じて含む
4	10YR5/4 黑 色	粘土質シルト	黄褐色土・熟化した粘土をまばらに含む

## 本町 SK6土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	しまなし 黄褐色土
2	10YR5/4 黑褐色	シルト	黄褐色土を多量に含む

## 本町 SK2土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/2 黑褐色	シルト質粘土	しまなし 熟成なし
2	10YR5/3 單褐色	シルト	黄褐色土を多量に含む
3	10YR5/4 單褐色	粘土質シルト	黄褐色土・熟化した粘土をまばらに含む

## 本町 SK7土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	暗褐色土をわざかに含む
2	10YR4/6 黑褐色	シルト	同じ・黄褐色土のブロックを少量含む
3	10YR5/4 黑褐色	粘土	暗褐色土と黄褐色土を少量化

## 本町 SK3土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	しまなし 熟成なし
2	10YR5/6 黑褐色	粘土	粘土質シルト・上部に黒褐色土をわずかに含む
3	10YR5/6 黑褐色	粘土	しまなし

## 本町 SK8土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	褐色土とびに黄褐色土を含む
2	10YR5/4 黑褐色	シルト	黒褐色土と黄褐色土を多く含む

## 本町 SK4土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	暗褐色土及び黄褐色土のブロックをまばらに含む
2	10YR5/3 單褐色	シルト質粘土	暗褐色土と黄褐色土を含む
3	10YR5/6 黑褐色	粘土	直上部の黒褐色土
4	10YR5/4 黑褐色	粘土	暗褐色土と粘土に黄褐色土粘土を多量に含む

## 本町 SK10土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	成層は川端式リヤード

## 本町 SK5土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	粘土質粘土及び黄褐色土のブロックを含む
2	10YR5/3 單褐色	シルト	黄褐色土を含む
3	10YR5/4 黑褐色	シルト	におい黄褐色土のブロックを含む

## 本町 SK11土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/4 黑褐色	シルト質粘土	黄褐色土をおおむね含む
2	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	黄褐色土をわずかに含む

## 本町 SK12土坑

層番	土 色	土 性	備 考
1	10YR5/6 黑褐色	シルト質粘土	黄褐色土色を含む
2	10YR5/6 黑褐色	シルト質粘土	風化した砂を含む

測る。【深さ・断面形】深さは中央部で12cmである。断面形は、舟底形を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積上には、2層に分けられる。上部の1層が暗褐色のシルト質粘土、下部の2層が木炭片を多量に含む黒色のシルト質粘土である。1層は表土層（基本層Ⅰ層）に類似している。なお、土坑の壁面は、部分的に赤く焼けている。遺物は、出土していない。

S K 7 土坑 【位置・重複】調査区西部で検出された。西側に平行するSK12土坑から2.5m東側に、東側のSK3土坑から7.5mのところに位置する。S I 2 竪穴住居跡と重複する位置にあるが、抜根による搅乱坑によって両造構が切られているため、新旧を確認できなかった。【平面形・大きさ】細長い円形を呈す。南部を搅乱坑に切られている。残存部分の上面で長さ193cm・幅25cmを測る。底面の幅は5cm前後と非常に狭い。北端は現存の上端より約50cmトンネル状に奥に掘られている。両端の底面はやや浅くなっている。【深さ・断面形】Ⅲ層上面からの深さは中央部で104cmある。横断面形は、V字形ないし深い逆台形を呈し、縱断面形は袋状を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、検出部分の中央で3層に分けられる。1層は暗褐色のシルト質粘土上、2層は褐色の粘土、3層は暗褐色土及び褐色土のブロックを多く含むにぶい黄褐色の粘土である。遺物は、出土していない。

S K 8 土坑 【位置・重複】調査区西部で検出された。SK4土坑の北東約1mのところに位置する。SD1溝跡に南半部の上部を切られている。北端部分は調査区の外にのびている。【平面形・大きさ】検出部分で細長い円形を呈す。北端部は調査区の外にのびている。検出部分の上面で長さ206cm・幅50cm前後を測る。底面の幅は15~20cmである。南端は中ほどから下がオーバーハング気味に掘られ、検出面から約25cm奥に入っている。【深さ・断面形】深さは127cmある。横断面形は、深い逆台形を呈し、縦断面形は袋状を呈すと考えられる。【堆積土・出土遺物】堆積土は、2層に分けられる。1層は黒褐色のシルト質粘土、2層は、黒褐色および黄褐色土のブロックを含む褐色のシルト質粘土である。遺物は、出土していない。

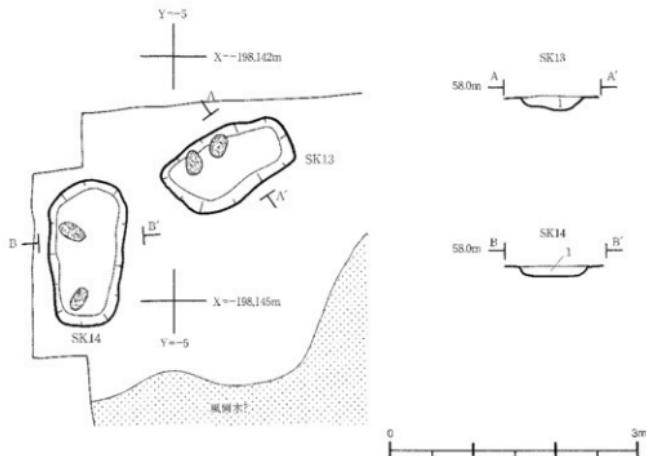
S K 9 土坑 【位置・重複】調査区東部で検出された。重複造構はない。【平面形・大きさ】平面形は不整円形で、東西軸長104cm、南北軸長97cmを測る。【深さ・断面形】深さは中央部で6cmである。断面形は、浅い舟底形を呈し

ている。【堆積土・出土遺物】堆積土は、1層で、黄褐色土をわずかに含む暗褐色のシルト質粘土である。底面直上から縄文土器が潰れた状態で出土している。出土した縄文土器（第23図10）は、深鉢の体部の破片で、体部の中ほどから上半は円筒状で、体部下半から底部にかけては継やかに狹まり、尖底状の底部となると考えられるものである。内外面に条痕文が見られる。

S K 10土坑 【位置・重複】調査区東部の中央で検出された。重複造構はない。【平面形・大きさ】平面形は不整形で、東西軸長81cm、南北軸長77cmを測る。【深さ・断面形】深さは中央部で15cmである。西側が1段低くなっている。断面形は、全体としては浅いU字形を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、暗褐色のシルト質粘土1層である。遺物は、出土していない。

S K 11土坑 【位置・重複】調査区中央で検出された。重複造構はない。【平面形・大きさ】平面形は梢円形で、長軸76cm、短軸70cmを測る。【深さ・断面形】深さは中央部で36cmである。断面形は、全体としては舟底形を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、2層に分けられる。1層は暗褐色のシルト質粘土で、2層は黒褐色のシルト質粘土である。遺物は、出土していない。

S K 12土坑 【位置・重複】調査区西部で検出された。西側に平行するS K 4土坑から5m東側に、東側に平行するS K 7土坑から2.5m西側に位置する。S D 1溝跡、S I 2堅穴住居跡に切られている。【平面形・大きさ】細長い円形を呈す。現存部の上面で長さ184cm・幅31cmを測る。底面の幅は7~10cmである。北端は現存の上端より約13cm程に奥に掘られている。【深さ・断面形】Ⅲ層上面からの深さは中央部で73cmある。横断面形は、V字形を呈し、縱断面形は袋状を呈すと推定される。【堆積土・出土遺物】堆積土は、断面実測位置で2層に分けられた。1層は褐色のシルト質粘土、2層は明黄褐色のシルト質粘土である。遺物は、出土していない。



南東拡張 SK13土坑

層No.	土色	土性	傳名
1	10YR3/4 茶褐色	シルト質粘土	褐色土層を呈するもの 底面を含む

南東拡張 SK14土坑

層No.	上色	上性	傳名
1	10YR3/4 茶褐色	シルト質粘土	褐色土層を含む 底面を含む

第17図 東南拡張区検出遺構実測図

S K 13土坑 【位置・重複】南東拡張調査区北西部で検出された。重複遺構はない。【平面形・大きさ】平面形は不整な隅丸長方形で、東西長軸160cm、南北短軸90cmを測る。【深さ・断面形】深さは中央部で8cmである。断面形は、不整な浅いU字形を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、炭化物粒を含む暗褐色のシルト質粘土1層である。遺物は、時期不明の上器細片が1点出土している。

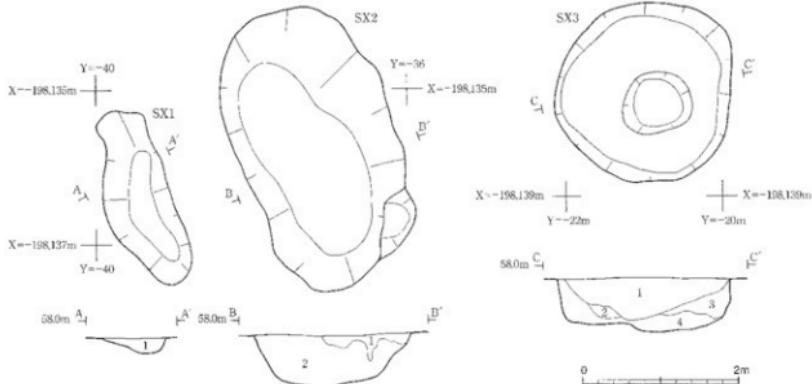
S K 14土坑 【位置・重複】南東拡張調査区北西部のS K 13土坑の側で検出された。重複遺構はない。【平面形・大きさ】平面形はS K 13土坑同様の不整な隅丸長方形で、南北長軸170cm、東西短軸90cmを測る。【深さ・断面形】深さは中央部で7cmである。断面形は、浅いU字形を呈している。【堆積土・出土遺物】堆積土は、S K 13土坑と類似し、炭化物粒を含む暗褐色のシルト質粘土1層からなる。遺物は、縄文土器の細片1点と石器の剥片が1点出土している。

#### 4) その他の遺構

S X 1 遺構 【位置・重複】調査区中央部のS X 1 遺構の東側で検出された。重複遺構はない。【平面形・大きさ】長い楕円形を呈する。長軸約240cm、短軸約85cmを測る。【深さ】深さは中央部で20cmあり、断面形は不整な舟底状を呈する。【堆積土・出土遺物】堆積土は暗褐色のシルト質粘土層1層だけである。遺物は出土していない。

S X 2 遺構 【位置・重複】調査区中央部で検出された。南側は調査区の外にのびている。重複はない。【平面形・大きさ】細長い不整な楕円形を呈する。長軸約370cm、短軸約210cmを測る。【深さ】深さは中央部で75cmあり、断面形は舟底状を呈する。【堆積土・出土遺物】堆積土は2層に分けられる。1層は暗褐色の粘土質シルトで、2層は地山(Ⅲ層)と類似した褐色を基調とした粘土質シルト層である。遺物は底面付近から縄文土器の破片が数箇所に分かれて出土している。土器は2個体分あり、第24図1は深鉢の口縁部片である。2は底部から口縁部まで接合された。1・2とも後述のとおり縄文時代中期初頭の大木7a式に属すると考えられるものである。

S X 3 遺構 【位置・重複】調査区東部で検出された。重複遺構はない。【平面形・大きさ】平面形は不整な円形



本町 SX1遺構

番号	上色	土性	備考
1	10YR4/4	暗褐色 シルト質粘土	しきなし 粘性なし

本町 SX2遺構

番号	土色	土性	備考
1	10YR3/4	褐色 粘土質シルト	粘土に鐵剤
2	10YR4/4	褐色 粘土質シルト	黒褐色土表に黒褐色土を多量に含む

本町 SX3遺構

番号	上色	土性	備考
1	10YR4/4	褐色 粘土質シルト	炭化物が川入式コマ網をわずかに含む
2	10YR5/6	褐色 粘土	地山岩層の風化した礫を含む
3	10YR4/6	褐色 粘土質シルト	粘土質土表をわずかに含む
4	10YR4/4	褐色 粘土質シルト	褐褐色土上のブロックを含む

第18図 その他の遺構実測図

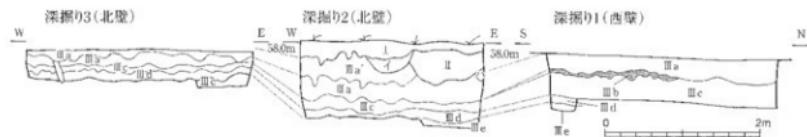
を呈する。東西軸長約225cm・南北軸長約230cmを測る。【深さ】深さは中央部で70cmあり、中央部が直径80~90cmの範囲でわずかに凹んでいる。断面形は実測位置ではU字形を呈するが、所々の壁面下部が抉れた状態となっている。【堆積土・出土遺物】堆積土は褐色の粘土質シルトないし黄褐色の粘土層で、4層に分けられる。各層とも地山(Ⅲ層)と類似した土層である。遺物は縄文土器の細片が12点出土している。堆積土が地山と良く似ており、ブロック状の土壤が多いことから、風倒木痕の可能性がある。

## 5) 深掘り調査区の状況

山田本町遺跡の東側には、幅50m程の谷を隔てて、同じ上町段丘に立地する山田上ノ台遺跡がある。この遺跡にも山田本町遺跡のⅢ層と同じ地山層(火山灰層)があり、火山灰層中から旧石器が出土している。したがって、本遺跡においても旧石器が出土する可能性が考えられたので、遺構や風倒木痕の影響を受けてない部分を選択して3ヵ所で下層(Ⅲ層)の調査を実施した。

深掘り1区 調査区東部南側に位置する。東西3m×南北3mの範囲を調査した。全体をⅢ層上面から約40cm、深掘り調査区の西側を幅1mで60cmまで下げ、さらにこのトレーニングの南西角を80cmまで掘下げた。西側の壁面でⅢ層が5層に細分された。Ⅲa層は明褐色のシルト質粘土で、層厚約20~30cmである。Ⅲb層は褐色の礫状の個結物で表面に礫化鉄が付着している。「川崎スコリア層」に相当する。川崎スコリア層は二万数千年から三万数千年前に降下堆積したとされている(板垣他 1981)。層厚は5~10cmあるが、深掘り調査区の北側には分布せず、Ⅲa層の下がⅢc層となる。Ⅲc層は明褐色のシルト質粘土で、しまりが強い。層厚は30cm前後である。Ⅲd層は風化した礫を含む明黄褐色のシルトである。層厚は10cm前後である。Ⅲe層は風化した礫を多く含む明黄褐色のシルトである。層厚は10cm以上である。各層とも遺物は出土しなかった。

深掘り2区 調査区中央部北側に位置し、北壁は調査区の北壁と共に通する。東西約2.5m×南北約3.5mの範囲を調査した。全体をⅢ層上面から約30cm、そこから深掘り調査区の北側を幅1mで30cm下げ、さらにそのトレーニングの北東角を10cm掘り下げた。全体で現地表面から110cmまで下げた。北壁でⅢ層が5層に細分された。Ⅲa'層は褐色のシルト質粘土で、層厚約20~30cmである。Ⅲa層が木の根や動物等の影響を受けて形成されたと考えられる層で、暗褐色土などをまばらに含んでいる。Ⅲa層は明褐色の粘土層である。層厚は20~25cmである。深掘り1区のⅢb



深掘り1(北壁)

No.	土色	土性	備考
Ⅲa	7.5YR5/8 明褐色	シルト質粘土	粘質はあるがしまりは弱い
Ⅲb	7.5YR4/5 黄褐色	漂浮粘土物	「川崎スコリア層」に相当
Ⅲc	7.5YR5/6 明褐色	シルト質粘土	粘質は低いがしまりはやや強い
Ⅲd	10YR6/6 明褐色	シルト	風化した漂浮物を含む。しまりが弱く層厚も薄い
Ⅲe	10YR7/6 同褐色	シルト	風化した漂浮物を含む。しまりが弱く層厚も薄い

深掘り2(北壁)

No.	土色	土性	備考
Ⅰ	10YR4/4 褐褐色	シルト質粘土	黄褐色土・栗褐色土をまだらに含む
Ⅱ	10YR4/6 褐色	シルト質粘土	黒褐色土を斑状に含む
Ⅲ	10YR4/6 褐色	粘土	栗褐色土をわざかに含む
Ⅳ	HOYR4/4 褐色	粘土	栗褐色土を斑状に含む
Ⅴ	7.5YR4/4 褐色	シルト質粘土	栗褐色土を斑状に含む。Ⅲa層が木の根等の影響を受けて変化
Ⅵ	7.5YR5/8 明褐色	粘土	粘質はあるがしまりは弱い
Ⅶ	—	—	10YR7/6 同褐色を含む。Ⅲa層が木の根等の影響を受けて変化
Ⅷ	7.5YR6/6 明褐色	シルト	しまりはやや強い
Ⅸ	10YR6/6 同褐色	シルト	栗褐色土を含む
Ⅹ	10YR7/6 明褐色	シルト	風化鉄を多く含む

深掘り3

No.	土色	土性	備考
Ⅺa'	7.5YR4/4 褐色	粘土	風化した漂浮物を含む。Ⅲa層が木の根等の影響を受けて変化
Ⅺa	7.5YR5/6 呼吸色	粘土	—
Ⅺb	—	—	本断面内では分かれないと見なす
Ⅺc	7.5YR5/6 明褐色	シルト質粘土	—
Ⅺd	10YR6/6 同褐色	シルト	—
Ⅺe	10YR7/6 明褐色	シルト	—

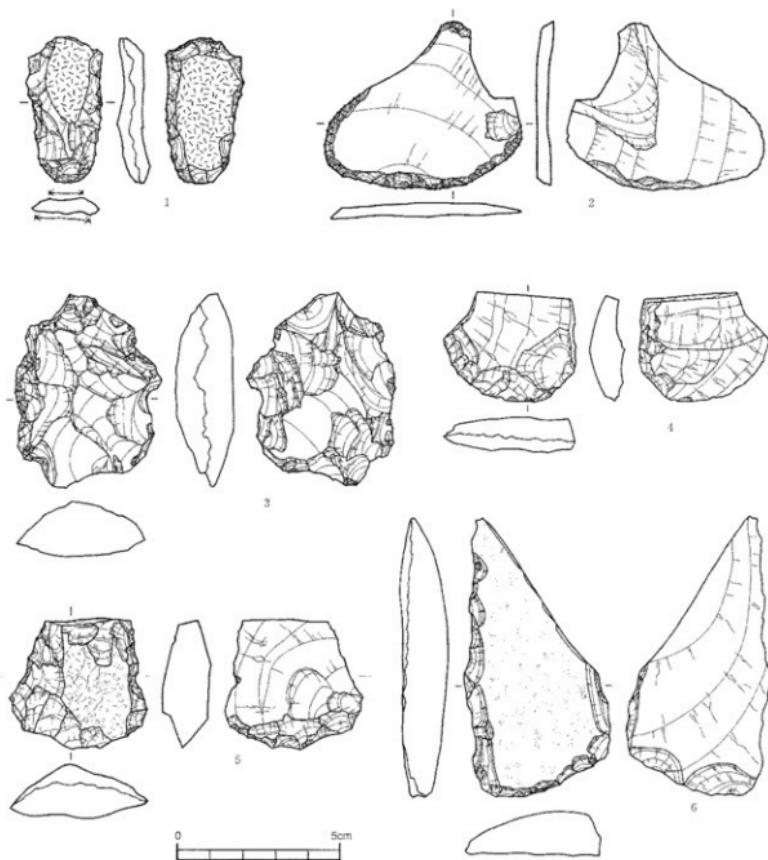
第19図 基本層及び深掘り区断面図



第20図 山田本町遺跡出土石器 1

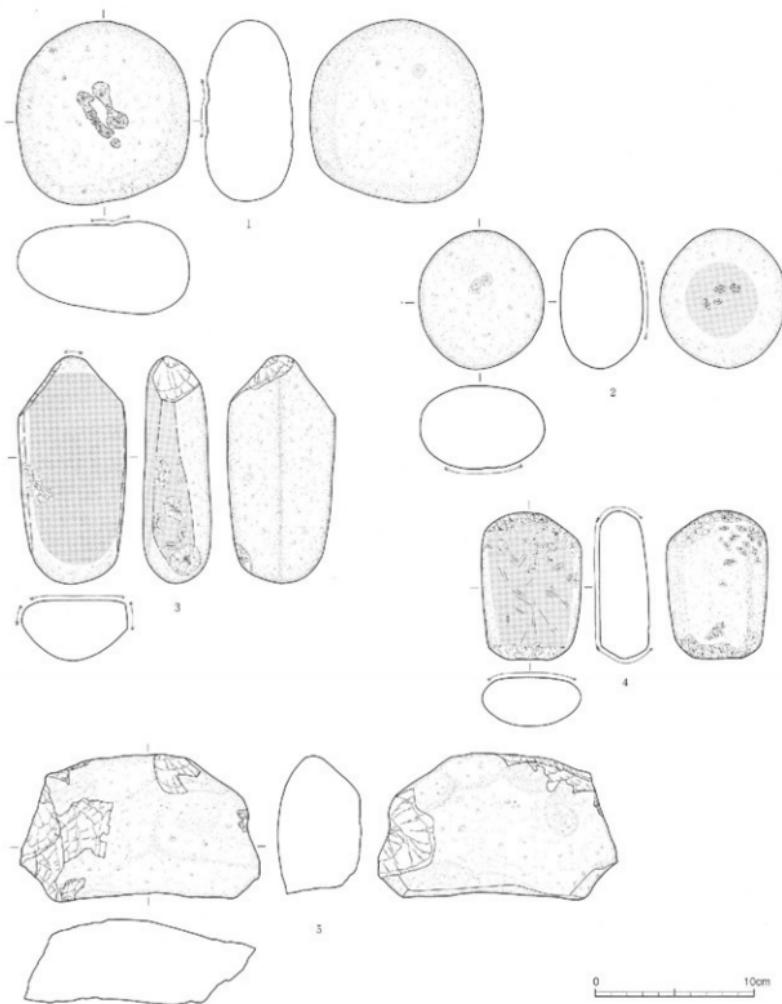
図中 番号	分類	出土地點	分類	形	直 径	厚 さ	重 量	性 質、施 工			分類 団体
								(鋼製、藍銅、銀銅、錫銅、分離)			
1	K-2	1-底 1層	SL-1	1層	石器	芯塊	刃長	口幅	側面幅	底面幅	18-1
2	K-13			石器	石器	2.7	2.1	7g			18-2
3	K-6	1-底 1層		石器	石器	2.7	1.4	0.4	18-		18-3
4	K-5	2F 1層		石器	石器	7.8	2.3	0.9	7g		18-4
5	K-12		SL-4	1層	石器	3.9	2.5	0.9	20g	光面摩耗	18-5
6	K-3	2F 1層		石器	石器	7.4	3.8	2.1	55g		18-6
7	K-9		SL-1	米豆	石器	7.0	3.2	1.6	40g		
(経年値)											

層に対応する川崎スコリア層は、本深掘り区では南半部にはまばらに分布するが、北壁部まではのびていない。Ⅲc層は明褐色のシルト質粘土上に、しまりがある。層厚は10~15cmである。Ⅲd層は風化した礫を含む明黄褐色のシルトである。層厚は10cm前後である。Ⅲe層は風化した礫を含む多く含む明黄褐色のシルトである。層厚は10cm以上である。各層とも遺物は出土しなかった。



第21図 山田本町遺跡出土石器 2

区分 番号	登録 名	出土地點	分類	特徴	基高-長 幅-厚	角度-直 度	粒 狹・側 壁		(同型・素材・発地・測量・分類)	写真 図版
							(同型・素材・発地・測量・分類)			
1 K-6	基山層 SH-1	1層	石器	刃片	45	23	0.4	7g	2次加工あり	18~8
2 K-4	SD-1	1層	石器	石器	61	61	0.4	15g		18~9
3 K-18	SX-3	1層	石器	刃片	60	45	1.7	44g		18~10
4 K-10	SD-1	1層	石器	刃片	33	40	1.0	16g	2次加工あり	19~1
5 K-11	SD-1	1層	石器	刃片	41	42	1.6	24g	2次加工あり	19~2
6 K-7	SD-1	1層	石器	刃片	87	42	1.4	52g	2次加工あり	19~3



第22図 山田本町遺跡出土石器 3

団中 登録 番号	出土点 番号	基準面 遺構名	分類	法 量	特 徴・備 考			(参考値)
					測定 数	測定 基準	測定 方法	
1	K-17	SL-1 2層	石器	基準-直 11.4 10.8 5.4 817g	11.4 10.8 5.4 817g	5.2 407g	2次加工あり	19-5
2	K-1	1-251 18	石器	基準-直 8.7 7.9 5.2 407g	8.7 7.9 5.2 407g	5.2 366g		19-6
3	K-16	SL-1 東面	石器 磨石?	基準-直 14.3 6.7 3.8 330g	14.3 6.7 3.8 330g	5.2 306g		19-7
4	K-15	SL-1 東面	石器 磨石?	基準-直 9.3 6.3 3.1 330g	9.3 6.3 3.1 330g	5.1 290g		19-5
5	K-14	SL-1 1層	石器 石核?	基準-直 15.0 6.8 5.1 900g	15.0 6.8 5.1 900g	5.1 800g		19-8

深掘り3区 調査区西に位置する。東西3m×南北3mの範囲を調査した。全体をⅢ層上面から約30cm、そこから深掘り調査区の北側を幅1mで10cm下げ、さらにそのトレチの東端を10cm掘下げた。北西角でⅢ層上面から約50cmまで下げた。この調査区の北壁ではⅢ層が5層に細分された。Ⅲa'層は褐色のシルト質粘土で、層厚約5~15cmである。Ⅲa層が動植物の影響を受けて形成されたと考えられる層で、黒褐色土を含んでいる。Ⅲa層は明褐色の粘土層である。層厚は10~15cmである。深掘り1区のⅢb層に対応する川崎スコリア層は、本深掘り区には存在しなかったが、S I 2堅穴住跡より西側では、I層を除去して検出したⅢ層上面に川崎スコリア層がまばらに分布していることが確認されている。Ⅲc層は明褐色のシルト質粘土である。層厚は5~10cmである。Ⅲd層は明黄褐色のシルトで風化した塵を含む。層厚は10cm前後である。Ⅲe層は風化した塵を含む多く含む明黄褐色のシルトである。層厚は15cm以上である。各層とも遺物は出土しなかった。

以上のような3箇所の深掘り調査の状況から、各区とも基本的な層序関係と分布上層はほぼ一致することが明らかになった。個別に見ると、Ⅲa'層は、深掘り1区で検出されていないが、これはⅢ層上面の遺構を検出し易くするために当該地周辺を機械掘削する際に深く削ったためと判断され、近くの崖面ではT層からⅢ層への漸移的な土層の存在を観察することができる。Ⅲb層の川崎スコリア層は、全面的には分布せず、所々に島状にかたまって分布し、その周辺は徐々に希薄になるようである。特に調査区の北側の傾斜面にかかる北東部にはこの土層は分布していないことが調査状況から推定される。Ⅲa・Ⅲc層は調査区の西部に遺構するにしたがって層厚が薄くなっている。また、調査区中央付近は馬の背状にやや低くなっている。Ⅲ層全体の層位レベルが低くなっている。

各深掘り調査区からは遺物が出土せず、また、Ⅲ層検出の遺構を調査した際も、遺構の崖面・床面に刺さった状態で遺物出土することもなかったので、山田本町遺跡には旧石器時代には遺構が形成されていなかったものと判断された。

## 6) 表土層からの出土遺物

表土中からは、数点のロクロ土師器片の他、早期を中心とした時期の縄文土器の破片（第23・24図他）が多く出土している。また、少数であるが磨石・石斧・石砲（第20~22図）などの石器や剥片も出土している。東南の拡張部では、ロクロ土師器の片断1点（第25図1）と寛永通宝1点（第25図2）が出土している。

## 7. 発見遺構・遺物の年代と性格

### 1) 縄文土器の分類と時期

今回の調査で、山田本町遺跡及び山田上ノ台場の調査で出土した縄文土器は下記の通り分類される。

（分類に当たっては、残っている部位が別々の場合があるが、別の部位の特徴を同じ分類段階で分けた部分もある。）

I類=胎土中に織縫を含むもの

A：内面に条痕の施されているもの

a：外面に条痕の施されているもの

i …口縁部条痕があり、口唇部に刻みがあるもの（第9図1・2・23）

ii …口縁部条痕があり、口唇部の刻みが不明確なもの（第23図4・5）

iii …口縁部条痕があり、口唇部に縄文の圧痕が施されているもの（第9図3）

iv …口縁部が条痕で、体部が縄文のもの（第23図3）

v …口縁部に条痕の後に捺り糸圧痕のあるもの（第23図6）

- v …口縁付近に平行沈線文と連続押し引き文のあるもの（第9図6）
- vi …キザミのある隆帯が巡るもの（第23図7）
- vii …キザミのある隆帯が巡り、隆帯の上部に沈線文と刺突文のあるもの（第9図5）
- viii …無文の隆帯が巡り、隆帯の上部に沈線文のあるもの（第9図4）
- ix …内外面に条痕のある体部破片（第9図7～10、第23図8～10他多数）

b : 外面に繩文の施されているもの

- i …口唇部の内面にも繩文（単節L R）が施されているもの（第23図11）
- ii …体部繩文が単節L Rによるもの（第23図13）
- iii …体部繩文が多条のL Rによるもの（第23図12）

B : 内面が無文のもの

a : 外面に条痕の施されているもの

- i …口唇キザミ、口縁無文、隆帯横位連続刺突、体部条痕のもの（第23図14）
- ii …口縁条痕、隆帯縦位連続刺突、体部地紋不明のもの（第9図11）
- iii …口縁条痕後連続刺突文、隆帯キザミ、体部条痕後押し引き文（第9図12）
- iv …口縁押し引き文、隆帯縦位連続刺突、体部条痕のもの（第23図15）

b : 外面に繩文の施されているもの

- i …押圧繩文のあるもの（第23図16）

C : 文様の詳細が不明のもの

…（第23図19）

II類 = 胎土中に纖維を含まないもの

A : 押引きによる細かな三角形の連続によって文様を描いているもの（第9図13・14）

B : 半裁した竹管状の工具により、細い平行沈線で文様を描いているもの（第23図19）

C : やや幅が広く肥厚する口縁部で、太い沈線によって文様が描かれるもの（第24図3）

D : やや内窪しながら外傾する幅広の口縁で、隆帯で文様帶の区画を行ない、文様帶の中をさらに沈線で分割して縦長や半円形の連続する刺突文を施すもの（第24図1・2）

E : A～Dに分類できず、体部に繩文の施されているもの（第23図17他）

以上のように分類されるが、II類のAについては、その特徴から繩文時代早期中葉の明神裏Ⅱ式に相当すると考えられる。

I類については、多くが繩文時代早期後葉の素山式に相当し、一部A b i類などは前期初頭の上川名Ⅱ式に相当すると見られるものなどがあり、全体として早期の後葉から前期の初頭の素山Ⅱ式・櫻木Ⅱ式・船入島下層式および上川名Ⅱ式ころに位置付けられるものと考えられる。

II類のBは、I類土器の出土したS 1 1 竪穴遺構から出土しているので、他のI類土器と同様に早期後葉から前期初頭頃のものと考えられる。

II類のCについては、隣接する北前遺跡の前期末葉とされるものや、長根貝塚の第一群土器に類似性が認められることから、大木Ⅵ式期頃に相当すると考えられる。

II類のDについては、長根貝塚の第三群土器に類似することから、繩文時代中期初頭の大木Ⅶa式に相当するものと判断される。

次に、遺構について時代ごとにまとめると以下の通りである。



第23図 山田本町遺跡出土縄文土器 1

第23回観察表

団目 番号	登録 番号	出土地点	基本形 造形名	基盤形 取下部	種別	分 類	法 器	施 設	特 徴・備 考		(右行側)
									表面	底面	
1 A-2		SL1 1層	縄文土器						上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-1
2 A-7		SL1 1層	縄文土器						口部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-2
3 A-22		I層	焼工器	深鉢					上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-4
4 A-11		SK5 1層	縄文土器						上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-5
5 A-21		I層	焼工器	深鉢					上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-6
6 A-3		SI1 1層	焼工器						上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-7
7 A-6		SI1 1層	焼工器						上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-8
8 A-13		SK5 1層	焼工器						外周:生焼 内面:施設無入 内面:条痕	施設無入	20-9
9 A-4		SI1 1層	焼工器						外周:条痕 内面:条痕	施設無入	20-10
10 A-16		SI9 床底	焼工器	深鉢				10	外周:条痕 内面:条痕	施設無入	20-11
11 A-12		SK5 1層	焼工器						作部内縫合 外周:条痕 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-12
12 A-14		SK5 1層	縄文土器						上縁部 外周:系縄 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-13
13 A-10		SK2 1層	焼工器						外周:上縁部 内面:条痕 口部:削み	施設無入	20-14
14 A-5		SI1 1層	焼工器						上縁部 外周:条痕 内面:施設無入 内面:条痕	施設無入	21-1
15 A-1		SI1 1層	焼工器						外周:上縁部 内面:条痕 口部:削み	施設無入	21-2
16 A-20		I層	焼工器						外周:上縁部 内面:条痕 口部:削み	施設無入	21-3
17 A-23		I層	縄文土器	深鉢					外周:上縁部 内面:条痕	施設無入	21-4
18 A-15		SK3 1層	縄文土器						丸孔石り 外周:施設無入 内面:条痕	施設無入	21-5
19 A-9		SD1 I層	縄文土器						外周:半唐竹竹筒工具による平行沈排 内面:無文?	施設無入	21-6

## 2) 繩文時代の遺構

S I 1 壁穴遺構 遺構の年代としては、床面直上から胎土に纖維を含む条痕・条痕土器が出土していることから縄文時代早期木葉窓を中心とした時期と考えられる。遺構の性格としては、堅穴住居跡の可能性が強いが、柱穴を検出できなかったので、確定することができない。

S K 9 土坑 底面付近から S I 1 壁穴遺構とはほぼ同期の、胎土に纖維を含む条痕・条痕土器が出土していることから縄文時代早期木葉窓と考えられる。土坑の用途は不明である。

S X 3 遺構 この遺構については、既に述べたように人為的な遺構ではなく、風倒木旗の可能性があるが、出土した土器については、縄文時代中期初頭の大木7a式に相当すると考えられる。

S K 1・2・3・4・5・7・8・12土坑 これらの遺構は、いずれも平面形が細長い円形を呈し、幅が狭くかつ深く掘り込まれていること、尾根筋に直交するような方向で列状に並んで存在することから、いわゆる「落し穴」と呼ばれる狩猟用の遺構と考えられる。落し穴は、尾根筋に沿い、約34m以上にわたって並んでいる。これらの落し穴は、縄文時代早期の堅穴遺構を切る SK5土坑以外は出土遺物が少なく、本遺跡の遺物からだけでは時期を決定することはできないが、平安時代の遺構に切られていること、川添東遺跡及び（佐藤：1997）・富沢遺跡（工藤：1988）で、同じような形態の遺構が縄文時代の遺構として報告されていることなどから、これらの遺構についても縄文時代に属するものと考えられる。

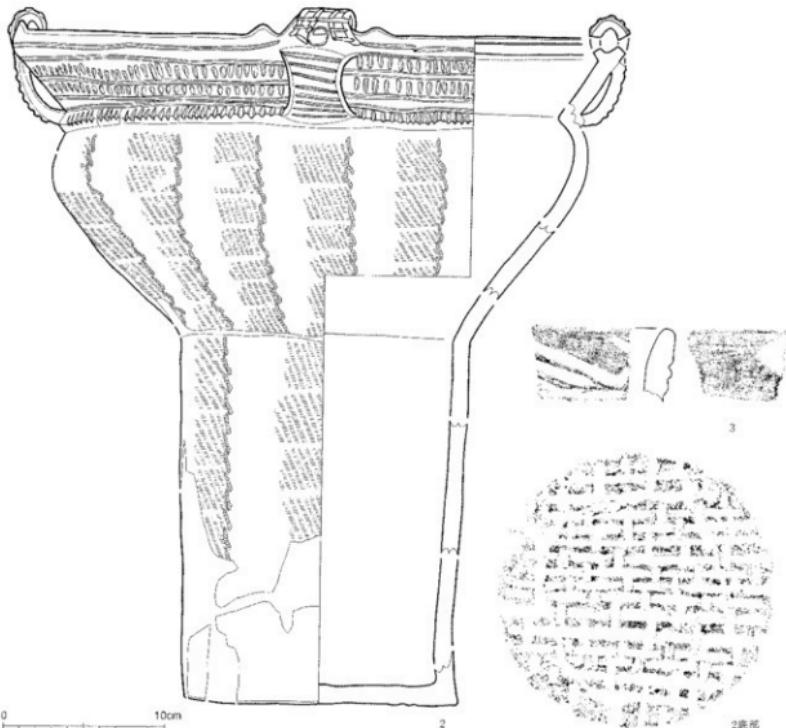
## 3) 平安時代の遺構

S I 2 壁穴住居跡 出土した土器は、土師器に対して須恵器の割合が高く、実測した坏では S K 2 出土のものを含めて、土師器 2 点に対して須恵器は 8 点ある。須恵器の坏は、底径が比較的小さく、器高も低いものである。底部外面は、糸切り無調整・回転糸切り後手持ちヘラケズリ・切り離し不明で回転ヘラケズリ調整・回転ヘラ切り無調整などが混在している。土師器坏は底径・口径とも大きく須恵器とは器形を異にする。このような特徴的須恵器坏は多賀城跡出土土器の分類では D群（9世紀後半中心）ないし E群（10世紀前半中心）に見られるものである。また、S I 2 壁穴住居跡では、床面近くの堆積土中から灰白色火山灰（10世紀前葉降下）が検出されていることから、遺構の年代については、9世紀後葉から10世紀初頭頃に位置付けられる。

なお、S I 2 壁穴住居跡と同じように柱穴が壁面に接して掘られている住居跡は、本遺跡に近接する北前遺跡の 11・12号住居跡に類似がある。



1



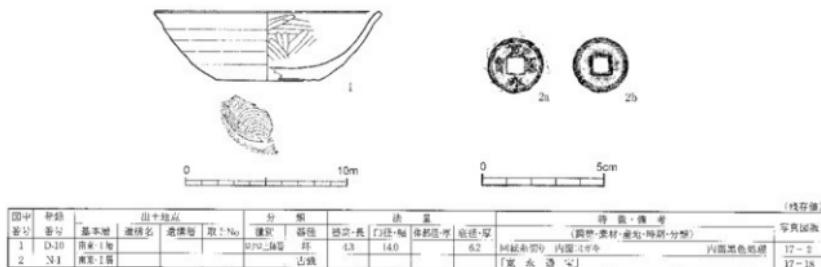
2



3

図中 登録 番号	出土地点 基木層	遺物名 造形名	取上No. 種別	分 類	規 格	計 量	特 徴		参考 文献
							(測定-石材-直徑-高さ-分類)	(測定-石材-直徑-厚)	
1 A-18	SX-2 下部	縹帶文 圓孔上口	縹帶 圓孔	筒形-長	口径-幅 43.5	38.4 33.0			武藏文・竹管文 21-6
2 A-17	SX-2 下部	縹帶文 圓孔上口	縹帶 圓孔	筒形	16.9		4段化粧被子-外壁:十字格抹系、下半円窓状、口沿漫横文・刺文文		22-2
3 A-19	丁層	圓孔上口					口縫沿・武藏文		21-7

第24図 山田本町遺跡出土繩文土器2



第25図 山田本町遺跡 1層出土土器・古鏡

#### 4) その他の遺構

S D 1 溝跡からは、縄文土器片1点が出土しているが、遺構の時期を決めうる資料は出土していない。SK 6・10・11・13・14、SX 1についても時期・性格については明らかでない。

### 8.まとめ

#### 1) 山田上ノ台塚

- ①塚は、舌状にのびた標高57m前後の段丘末端に位置し、直徑約8m・高さ1.2~1.5mの大きさである。
- ②塚の上面には、小堀の敷かれた直徑約2mの平坦面があり、その中央付近に1辺約45cmの上面が平らな方形の石材が置かれている。
- ③小堀の周囲は、大型の河原石で囲まれていた可能性がある。
- ④塚に埋納遺構は作られてない。
- ⑤塚の機能としては、大型の石材を台座として何等かの「もの」を祭るための施設の可能性を考えられる。
- ⑥塚の時期は、下層から平安時代の土器が出土していることから平安時代以降のもので、近隣に中世の遺構がないことから、近世以降に作られたと考えられる。

#### 2) 山田本町遺跡

- ①山田本町遺跡は、標高58~57mの舌状の段丘上に立地する。
- ②縄文時代の竪穴遺構1基・落し穴8基・平安時代の竪穴住居跡1軒などの遺構が発見された。
- ③縄文時代の竪穴遺構は早期未葉ころのもので、直径3.5mの円形である。住居跡の可能性がある。
- ④落し穴は、長さが2m前後・上面幅50cm前後・底面幅5~10cmの大きさで、細長い円形を呈し、両端部の下半が抉られるように掘られ、上半部がオーバーハングするような共通する形態のものである。
- ⑤平安時代の竪穴住居跡は、東壁にカマドを有し、主柱穴は壁面に位置すると考えられ、年代としては9世紀後葉から10世紀初頭頃に位置付けられる。
- ⑥S 1 1 竪穴遺構・SK 9 土坑および表土中からは、縄文時代早期の土器が多數出土した。また、SX 2 遺構からは縄文時代中期初頭大木7a式の土器が出土した。

<参考・引用文献>

- 板垣・農島・寺戸（1981）：「仙台および周辺地域に分布する洪積世末期のスコリア層」『東北地理』37巻1号 P. P. 48~53
- 伊東信郎（1940）：『宮城県遠田郡不動堂村 素山貝塚調査報告』東北帝國大學法文學部 奥羽資料調査部
- 小笠原好彦（1968）：「東北地方における前期末から中期初頭の繩文土器」『仙台湾周辺の考古学的研究』宮城県の地理と歴史 第3集 宮城教育大学歴史研究会編
- 興野義一（1970）：「大木式土器理解のために」『考古学ジャーナル』48 P.P. 20~22
- 工藤哲司（1988）：『富沢遺跡 24次調査 富沢中学校地区発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第113集
- 後藤勝彦（1968）：『宮城県七ヶ浜町吉田浜貝塚〔I〕』『仙台湾周辺の考古学的研究』宮城県の地理と歴史 第3集 宮城教育大学歴史研究会編
- 佐藤・斎野他：（1982）：『北前廻り発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第36集
- 佐藤淳他（1997）：『第4部 川添東遺跡』『相ノ原・大員中・川添東遺跡』仙台市文化財調査報告書第217集
- 主浜光朗（1987）：『山田上ノ台遺跡－昭和55年度発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第100集
- 白鳥良一（1980）：「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』宮城県多賀城跡調査研究所  
（1982）：『土器』『多賀城跡 政府跡本文編』宮城県多賀城跡調査研究所
- 丹羽 茂（1981）：「大木式土器」『繩文文化の研究』第4巻 雄山閣出版 P.P. 43~60
- 藤沼邦彦（1969）：『埋蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚－』宮城県文化財調査報告書第19集 宮城県教育委員会

1 樹木伐採状況（南西より）



2 西半部表土除去状況  
(南西より)



3 表土層断面（西より）



図版1 山田上ノ台塚現況・表土除去状況



1 北半幅部（西より）



2 塚本体部（西より）



3 南半幅部（西より）

図版2 塚表土層断面

1 塚全景（南西より）



2 塚頂部検出状況（西より）



3 塚東部検出状況（東より）



図版3 塚施設検出状況



1 施設礫層断面と積土上面  
(西より)



2 積土部の断面と旧表土上面  
(西より)



3 旧表土層除去後の土層断面  
(西より)

図版 4 塙本体土層断面

1 塚断面北半部（西より）



2 塚断面南半部（西より）



3 塚の下部の状況  
：手前Ⅲ層・奥Ⅱ層上面  
(西より)



図版5 塚断面と塚下部の状況



1 横土除去後の塚（南西より）



2 SK 1 土坑（東より）



3 SX 1 造構（西より）

図版 6 調査後の塚と周辺造構



1 調査区全景（東より）



2 調査区全景（西より）

図版7 山田本町遺跡全景



1 東部の試掘調査区（西より）



2 西部の試掘区とSD 1溝跡  
(東より)



3 SD 1溝跡断面（東より）

図版 8 試掘調査とSD 1溝跡



1 遺構堆積土断面（南より）



2 遺物出土状況（南より）



3 床面検出状況（南より）

図版 9 SI 1 壁穴遺構



1 床面と遺物出土状況（西より）



2 カマド周辺からの遺物出土状況  
(西より)

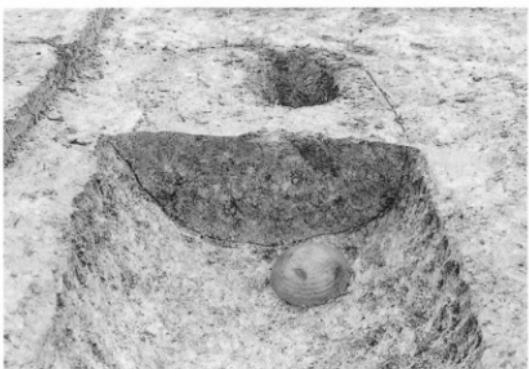


3 床面検出状況（西より）

図版10 SI 2 壁穴住居跡 1



1 掘り方埋土と掘り方底面  
(西より)



2 SK 2 土坑土層断面と出土遺物  
(北より)



3 SK 2 土坑全景 (南より)

図版11 SI2竪穴住居跡 2



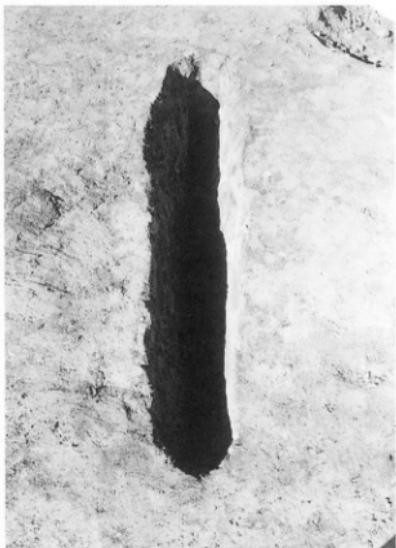
1 SK1 土坑土層断面（南より）



2 SK1 土坑（南より）



3 SK2 土坑（南より）



4 SK3 土坑（南より）

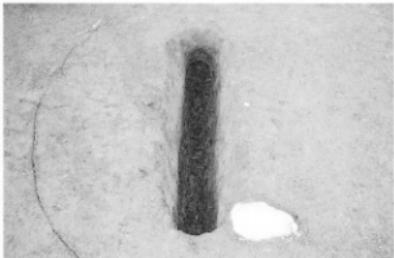
図版12 土坑1（SK1～3）



1 SK 4 土坑 (南より)



2 SK 4 土坑土層断面 (南より)



3 SK 5 土坑 (南より)



4 SK 6 土坑 (南より)



6 SK 7 土坑 (南より)



5 SK 7 土坑土層断面 (南より)

図版13 土坑2 (SK4~7)



1 SK 8 土坑（南より）



2 SK 9 土坑（東より）



3 SK12土坑（南より）



4 東南拡張部遺構検出状況（西より）



5 東南拡張部全景（西より）

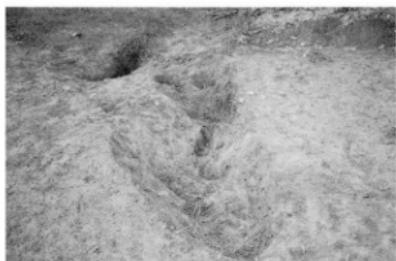


6 SK13・14土坑（南より）



7 SK14土層断面（南より）

図版14 土坑3 (SK 8～12)・東南拡張部



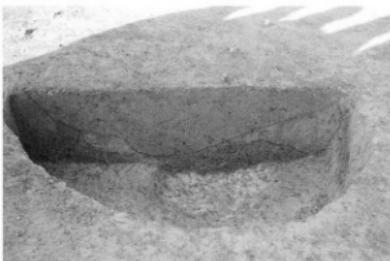
1 SX1 遺構（南より）



2 SX2 遺構土層断面（南より）



3 SX2 遺構遺物出土状況（東から）



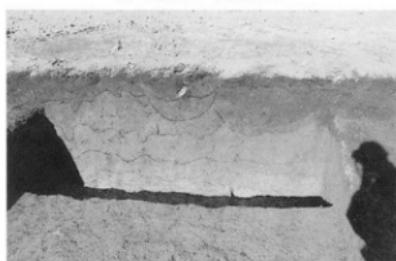
4 SX3 遺構（南より）



5 深掘り 1（南東より）



6 深掘り 1 土層断面（東より）

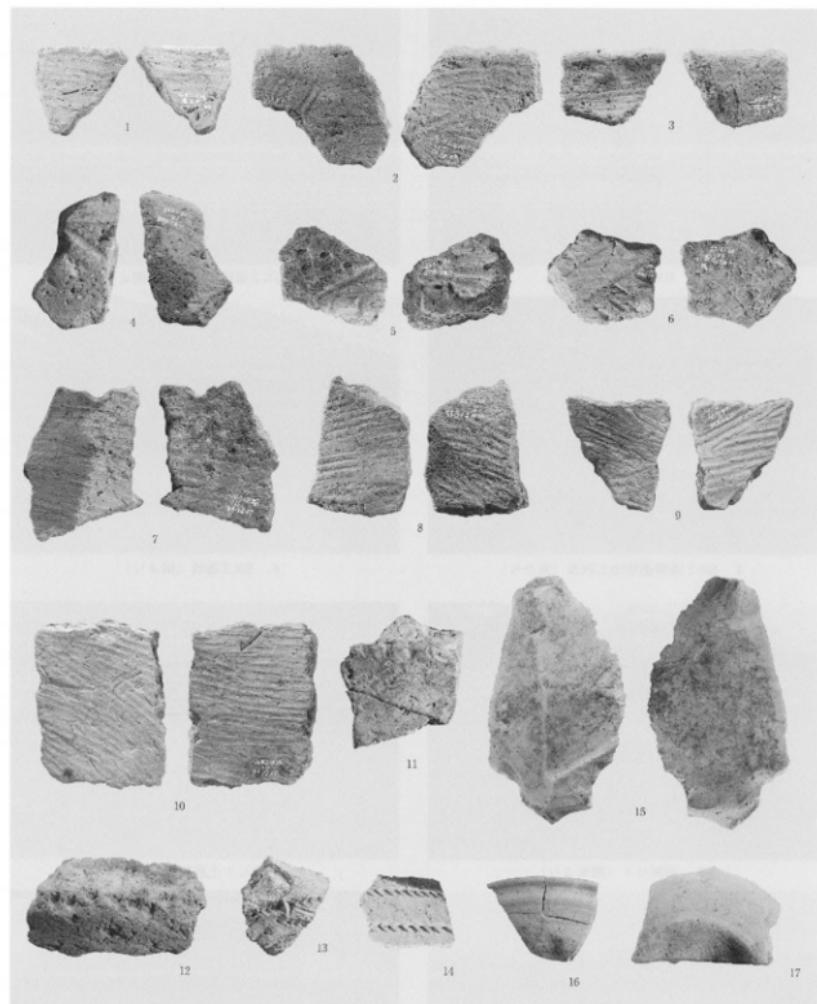


7 深掘り 2 土層断面（南より）



8 深掘り 3 土層断面（南より）

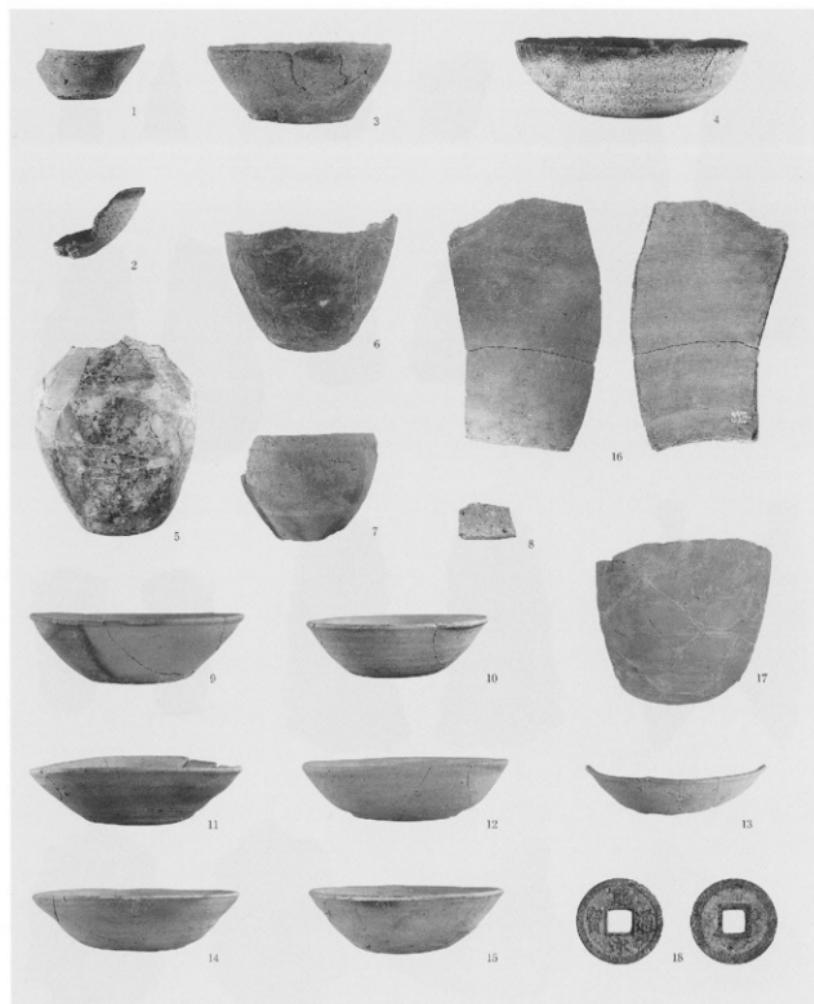
図版15 その他の遺構と深掘り調査区



- 1 A-1 瓦文土器 斧土中 (第9E1)  
 2 A-12 瓦文土器 1層 (第9E2)  
 3 A-2 瓦文土器 盆土中 (第9E3)  
 4 A-9 瓦文土器 1層 (第9E4)  
 5 A-7 瓦文土器 1層 (第9E5)  
 6 A-4 瓦文土器 1層 (第9E6)  
 7 A-3 瓦文土器 1層 (第9E7)  
 8 A-10 瓦文土器 1層 (第9E8)  
 9 A-14 瓦文土器 1層 (第9E9)

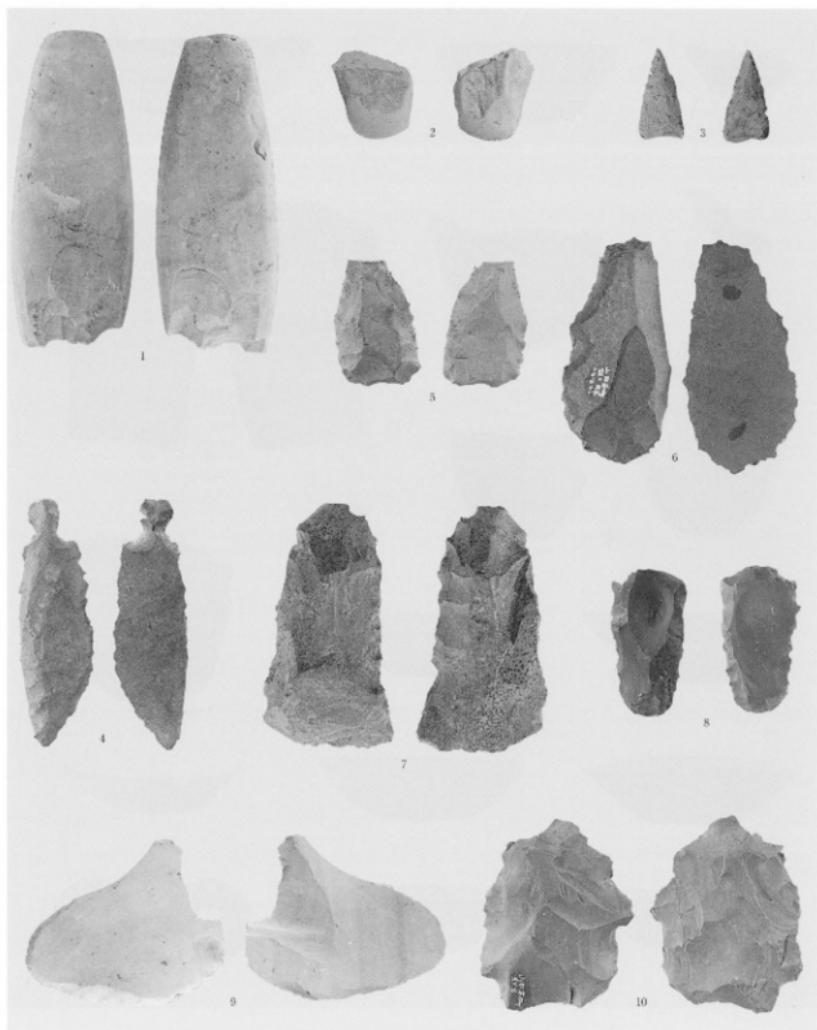
- 10 A-13 瓦文土器 1層 (第9E9)  
 11 A-11 瓦文土器 1層 (第9E10)  
 12 A-9 瓦文土器 1層 (第9E11)  
 13 A-6 瓦文土器 1層 (第9E12)  
 14 A-8 瓦文土器 1層 (第9E14)  
 15 A-4 石器 刃片 1層 (第9E1)  
 16 D-3 瓦文土器 1層 (陶質土) (第9E17)  
 17 D-2 瓦文土器 1層 (陶質土) (第9E16)

図版16 山田上ノ台塚出土遺物



1 D-7 ロクロ土師器 瓢	SI-2 カマド・床 (第14周)	10 SI-6 塘窯器 牙	SI-2 4c層 (第15周2)
2 D-10 ロクロ土師器 瓢	SI-1 瓢 (第25周1)	11 SI-8 塘窯器 牙	SI-2 植痕 (第15周1)
3 D-1 ロクロ土師器 瓢	SI-2 実直 (第14周2)	12 SI-9 塘窯器 牙	SI-2 カマド・床 (第15周1)
4 D-9 ロクロ土師器 瓢	SI-2 SK-2底 (第14周4)	13 SI-3 塘窯器 牙	SI-2 植痕 (第15周3)
5 D-2 ロクロ土師器 瓢	SI-2 瓢直 (第14周6)	14 SI-1 塘窯器 牙	SI-2 4c層 (第15周3)
6 D-5 ロクロ土師器 瓢	SI-2 実直 (第14周7)	15 SI-10 塘窯器 牙	SI-2 植痕 (第15周6)
7 D-4 ロクロ土師器 瓢	SI-2 植直先端 (第14周8)	16 SI-1 塘窯器 瓶	SI-2 4b層 (第15周11)
8 E-4 青磁器 瓢	SI-2 実直 (第15周9)	17 SI-2 塘窯器 瓶	SI-2 SK-1・1層 (第15周10)
9 E-5 青磁器 瓢	SI-2 実直 (第15周10)	18 SI-1 金輪製品 古銭	1層 (第25周2)

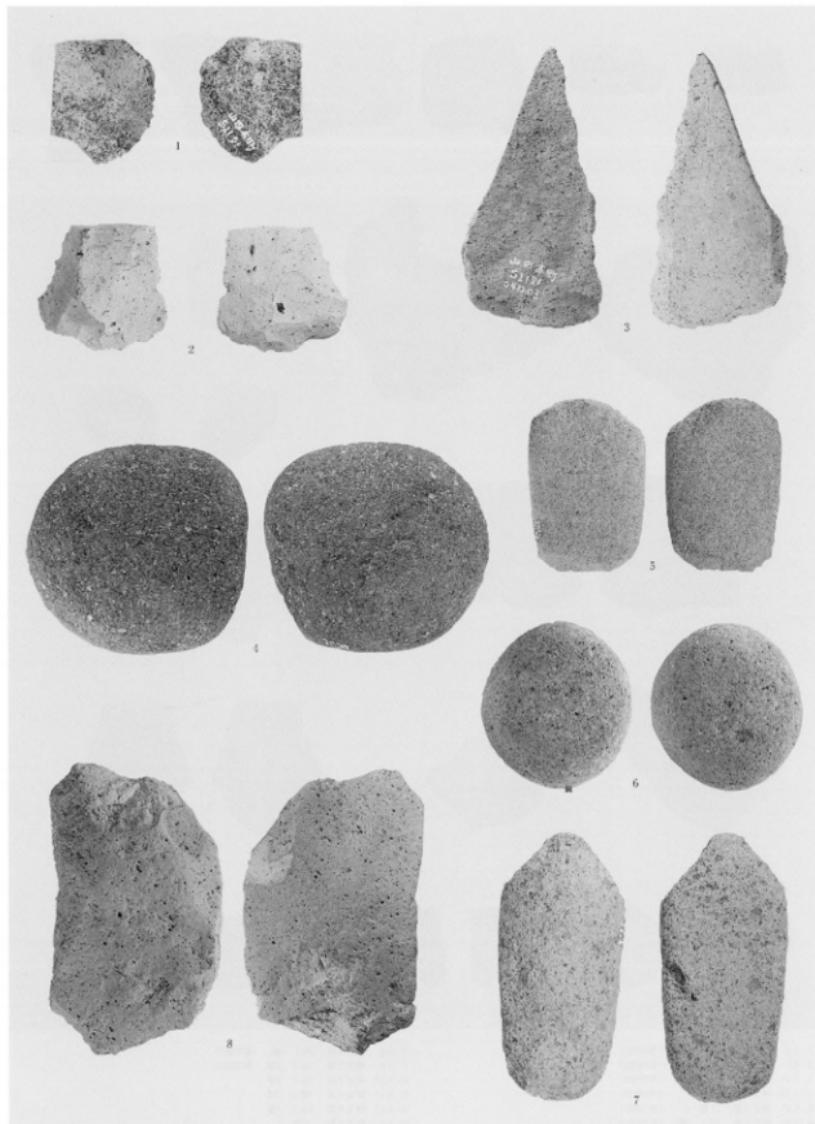
図版17 山田本町遺跡竪穴住居跡・I層出土遺物



1 K-2 石器 石斧 T層 (第20681)  
 2 K-13 石器 石斧 S4-1層 (第20682)  
 3 K-6 石器 石礫 T層 (第20683)  
 4 K-5 石器 石耙 T層 (第20684)  
 5 K-12 石器 石斧 S4-1層 (第20685)

6 K-9 石器 石器 S5-1 層道 (第20687)  
 7 K-3 石器 石器 T層 (第20688)  
 8 K-8 石器 破片 S1-1層 (第21181)  
 9 K-4 石器 石耙 SD-1 1層 (第21182)  
 10 K-18 石器 破片 SX-1 1層 (第21183)

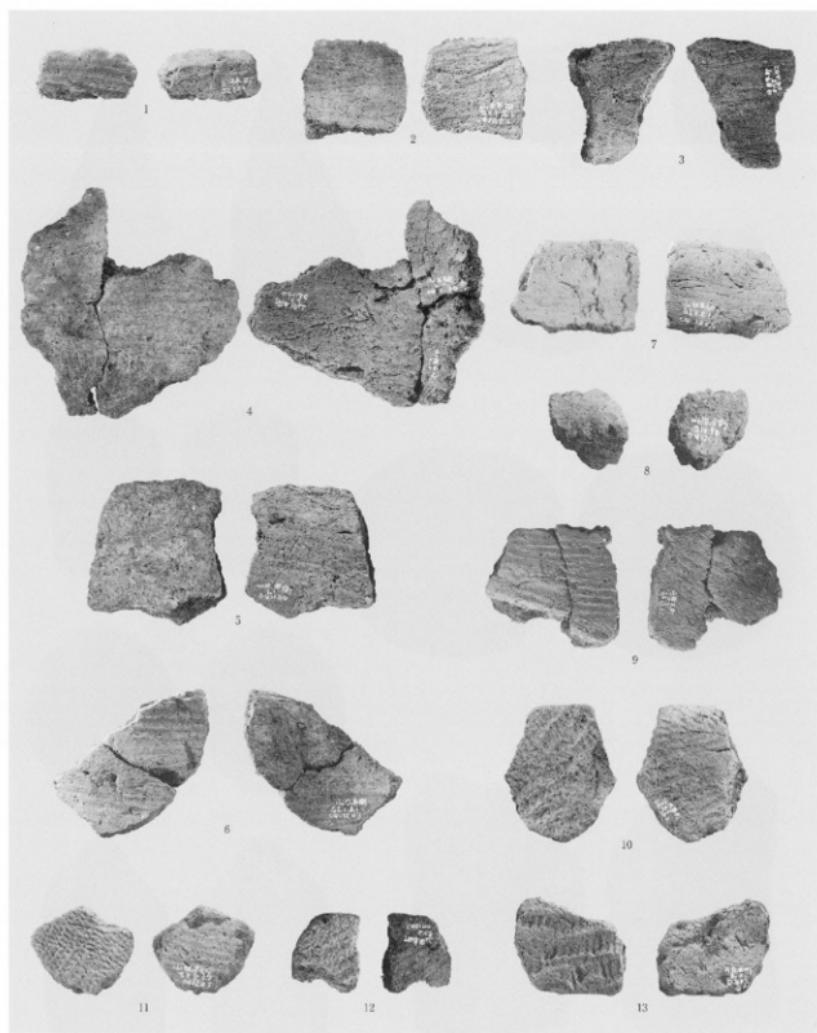
図版18 山田本町遺跡出土石器 1



1 K-10 石器 刃片 S1-1 1層 (第21図4)  
 2 K-11 石器 刃片 S1-1 1層 (第21図5)  
 3 K-7 石器 刃片 S1-1 2層 (第21図6)  
 4 K-17 石器 刃片 S1-1 1層 (第21図1)

5 K-15 石器 刃石 S1-1 底真 (第21図4)  
 6 K-1 石器 刃石-巴石 1等 (第21図2)  
 7 K-10 石器 刃石 S1-1 底真 (第21図3)  
 8 K-14 石器 石核 S1-1 1層 (第21図5)

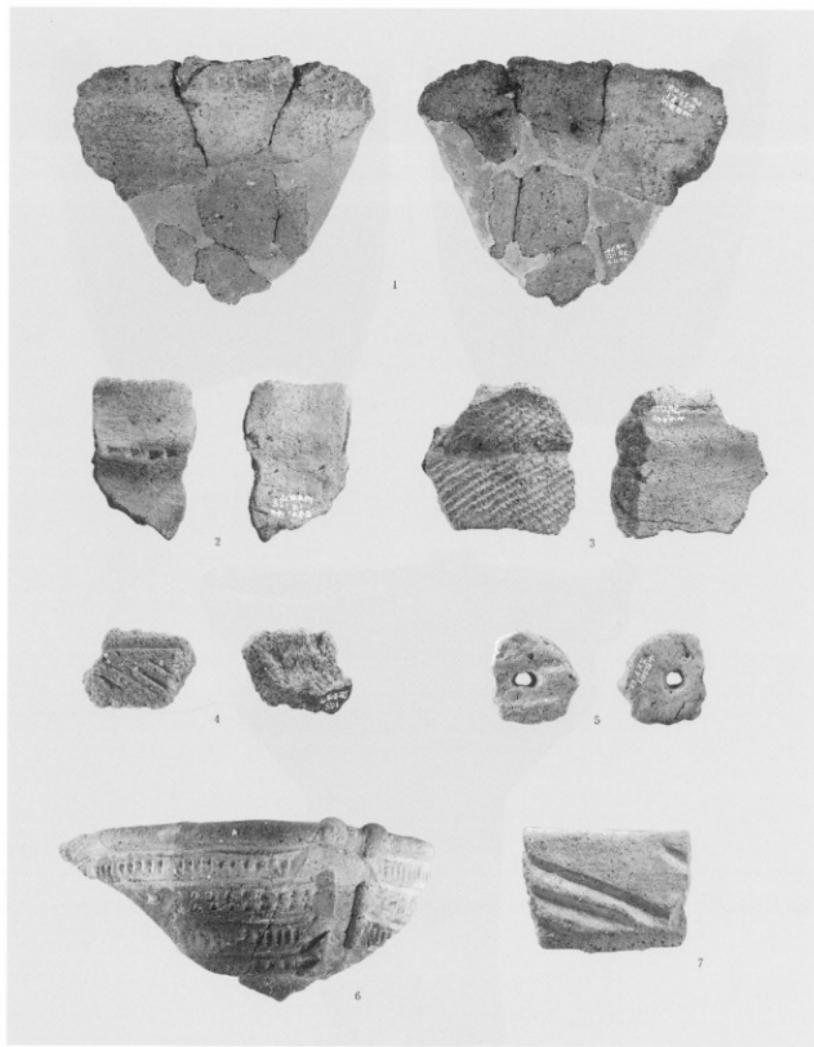
図版19 山田本町遺跡出土石器 2



- 1 A-2 繩文土器 SI-1 1層 (第78081)  
 2 A-7 繩文土器 SI-1 1層 (第78082)  
 3 A-11 繩文土器 SK-4 1層 (第78083)  
 4 A-22 繩文土器 1層 (第78084)  
 5 A-23 繩文土器 1層 (第78085)  
 6 A-4 繩文土器 SI-1 1層 (第78086)  
 7 A-3 繩文土器 SI-1 1層 (第78087)

- 8 A-8 繩文土器 SI-1 1層 (第78088)  
 9 A-9 繩文土器 SK-5 1層 (第78089)  
 10 A-10 繩文土器 SK-6 1層  
 11 A-11 繩文土器 SK-6 1層  
 12 A-12 繩文土器 SK-2 1層  
 13 A-13 繩文土器 1層

図版20 山田本町遺跡出土繩文土器 1



1 A-1 繩文土器 SH-1 1層 (第25図15)  
 2 A-6 繩文土器 SH-1 1層 (第25図14)  
 3 A-25 繩文土器 1層 (第25図17)  
 4 A-9 繩文土器 SH-1 1層 (第25図19)

5 A-15 繩文土器 SX-3 1層 (第25図18)  
 6 A-18 繩文土器 SX-2 1層 (第25図1)  
 7 A-19 繩文土器 1層 (第25図3)

図版21 山田本町遺跡出土繩文土器 2



1a

1b



2

1 A-16 繩文土器 SK-6 東面 (第2084-6)

2 A-17 繩文土器 SX-2 下部 (第24862)

図版22 山田本町遺跡出土縄文土器 3

## II 山田条里遺跡 第9次 発掘調査報告書

### 1. 調査要項

遺跡名	山田条里遺跡（宮城県遺跡登録番号01367）
所在地	仙台市太白区鉤取本町1丁目304他
調査原因	遊技場建築工事
調査対象面積	2,800m <sup>2</sup>
調査面積	51m <sup>2</sup>
調査期間	平成16年4月19日～平成16年4月23日
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課
担当職員	文化財教諭 三塚博之 女川征延

### 2. 調査に至る経過と調査方法

平成16年3月19日付けで延山寛氏より仙台市太白区鉤取本町1丁目304他に於ける遊技場の建築に伴う発掘届が提出された。仙台市教育委員会では申請者と協議のうえ発掘調査を行うこととした。

計画建物の西部と東部に調査区を設定し、それぞれ1区、2区とした。調査地には盛土が厚さ1.2mもあることから、まず重機により1区で11m×15m、2区で11m×8mの範囲の盛土を除去した後に、1区で約3m×10m(30m<sup>2</sup>)、2区で約3m×7m(21m<sup>2</sup>)の調査区を設定した。1層からは手掘りにより調査を行った。上層断面観察を先行するために、1区・2区とも調査区東壁に土層観察用トレンチを設けた。1区・2区とも調査区南壁で下層調査を実施した。

### 3. 遺跡の位置と環境

山田条里遺跡は仙台市街地の南西部、JR長町駅の西方約4kmの地点にあり、太白区山田及び鉤取地区に所在している。遺跡の範囲は東西・南北共に約900mに及び、仙台市内でも有数の広さを誇る遺跡となっている。かつてはその中の東西600m、南北800mの範囲にはほぼ真北方向を基準とした条里型土地割が認められていたが、平成元年から行われた農業基盤整備事業により、現在そのほとんどは新しく区画された水田となっている。本遺跡の調査は平成元年より行われており、近世～近代と平安時代の2時期の水田跡を確認している。遺跡のほぼ中央部には、周囲に堀を巡らせた近世～近代頃の屋敷跡が発見され多量の陶磁器が出土している。

遺跡の北側には標高約200mの青葉山丘陵が東西に延び、南側には名取川を挟んで高館丘陵が位置している。この付近には南方を流れる名取川の河岸段丘が広がり、段丘上には名取川に注ぐ小河川が数多く存在している。遺跡はこれらの小河川が河岸段丘上に形成した緩やかな扇状地に立地している。標高は30～38mである。条里型土地割は遺跡の東部を中心に広がっている。

周辺の遺跡には、北西側の段丘上に縄文時代中期の大規模な集落跡である山田上ノ台遺跡や縄文時代早期の竪穴住居跡が発見された北前遺跡などがある。東側の段丘上には上野遺跡があり、縄文時代中期の土器が多量に出土している。南側の名取川右岸低位段丘上には船渡前遺跡があり、弥生時代中期の土器が出土した他、近世の建物跡や水路跡などが発見されている。

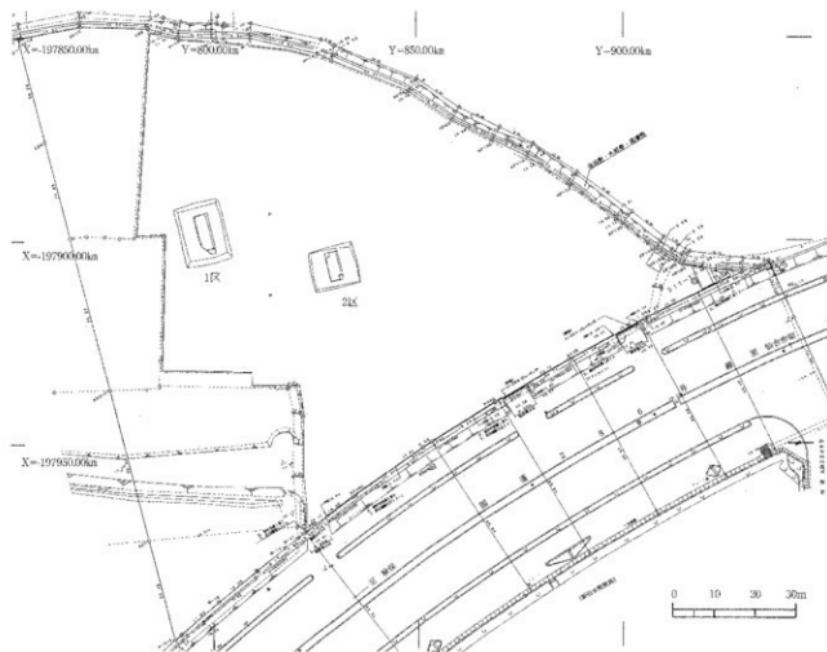


No.	遺跡名	種別	立地	年代	No.	遺跡名	種別	立地	年代
1	山田東里遺跡	散在・本郷・水路跡	段丘・自然地形	縄文、古代、近世	17	高木の森遺跡	集落跡	自然地形	縄文、弥生、古代
2	北前走跡	散在地・集落跡	段丘	古文・古代	18	野々走跡	集落跡	段丘	縄文、古代
3	上野山遺跡	散在地	丘陵地	古文	19	南ノ原遺跡	散在地跡	自然地形	弥生、古代
4	町走跡	散在地	丘陵地	古文、古墳、古代	20	西小原遺跡	散跡	丘陵地	古代
5	八幡走跡	散在地	丘陵地	古文、古代	21	山田遺跡	散跡	丘陵地	古代
6	若狭淀庭八幡跡	散在地	段丘	縄文、古墳、古代	22	沼ノ老跡	散在地	丘陵地	古墳、古代
7	若狭淀庭五箇跡	散在地	段丘	縄文、古墳、古代	23	浜町元走跡	散在地	丘陵地	古墳
8	山田本郷遺跡	散在地・水路跡	段丘	古文	24	雪ノ上・台遺跡	散在地	丘陵地	縄文、古代
9	山田上ノ谷塚	塚	段丘	古代	25	解ノ内遺跡	散在地	自然地形	古墳
10	山田上ノ谷走跡	散在地・先島跡	段丘	古文・本郷・水路跡	26	雪ノ下水路跡	散在地	丘陵地	古代
11	河内通水走跡	散在地	段丘	古代	27	富岡遺跡	散在地・水田跡	丘陵地	古墳、縄文、私生、古墳、古代、近世
12	河内通水走跡	散在地	段丘	古代	28	奈弓瀬走跡	散在地・水路跡	自然地形	縄文、弥生、古墳、古代、近世
13	清木原西遺跡	散在地	丘陵地	古文、古代	29	山口走跡	集落跡、水田跡	自然地形、古墳跡	古文・弥生、古墳、古代、中世
14	竹ノ内遺跡	散在地	段丘	古代	30	清木原散水走跡	散在地	自然地形	縄文、古代
15	清木原西遺跡	散在地	丘陵地	古文、古代	31	雪ノ原跡	散跡	丘陵地	中世
16	谷地前走跡	散在地	段丘	古代	32	下ノ内走跡	散在地	自然地形	縄文、弥生、古墳、古代、中世

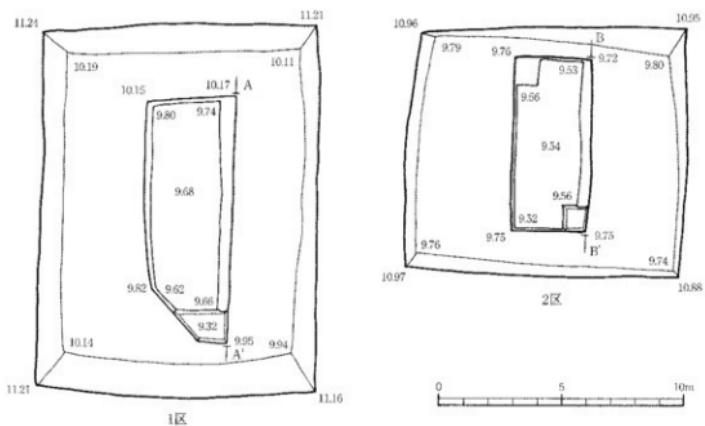
第26図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第27図 調査地点の位置



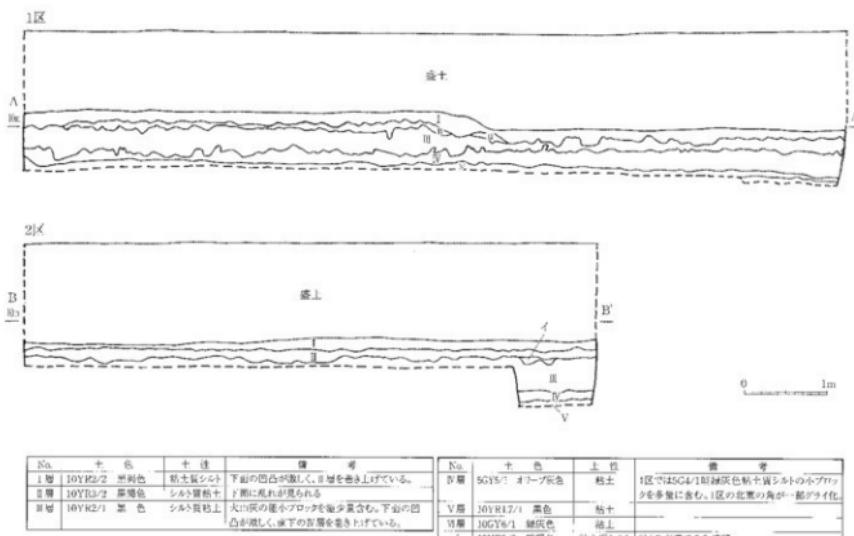
第28図 調査区配置図



第29図 調査区実測図

#### 4. 基本層序

今回の調査地点では1区で6層、2区で5層に分層した。本文中の記述における層名は1区、2区共通である。I層は黒褐色シルト質粘土層であり、土地区画整理前の現代の水田耕作土である。II層は黒褐色粘土質シルト層で、I層による耕作を免れた1区の北半のみに残存し、下面に乱れが見られる。III層は黒色粘土質シルト層で、灰白色火山灰の小プロックを少量含んでおり、下面に乱れが見られる。IV層はオリーブ灰色粘土層で自然堆積層である。1区では暗緑灰色粘土質シルトのV層・緑灰色粘土層のVI層を検出しているが、いずれも自然堆積層である。IV層からVI層はほぼ水平堆積である。



第30図 1区・2区東壁土層断面図

#### 5. 発見遺構と出土遺物

##### 1) II層水田跡

1区では、I層除去後に調査区中央を東西方向に横切る状況でI層水田の擬似畦畔Bを確認している。II層はこの擬似畦畔の北側を中心に残存している。I層による擾拌を受けており残存状況は悪い。II層の下面に凹凸があり、層の下部には直下の層を起源とするプロックが認められることから水田耕作土と考えられる。III層からは中世陶器が出土していることから、中世以降の水田跡と考えられる。II層を除去しIII層上面を検出したが、II層水田に伴う畦畔の痕跡は検出されなかった。

##### 2) III層水田跡

III層は黒色の粘土質シルトで、層厚が最大46cmと厚い。下面の凹凸が著しく、IV層を巻き込んでいることから水田耕作土と考えられる。層中に灰白色火山灰（10世紀前葉降下）の小プロックをごく少量含んでいることから、平安時代の灰白色火山灰以降の水田跡と考えられる。IV層上面ではIII層水田に伴う耕作の痕跡は検出されなかった。

### 3) 出土遺物

1区では南端のIII層下面より、砥石と見られる石製品が1点出土している。

2区ではI層から須恵器片1点、磁器片2点（碗）、陶器の椀の破片2点、陶器の擂鉢の破片2点が出土している。III層からは中世陶器（壺）1点、スクレイパー（？）1点、二次加工のある剥片1点、剥片石器6点が出土している。



区分	番号	出土地点	分類	法面				特徴・備考	(高さ・厚さ・深さ・時相)
				基盤	表面	口沿・縁	底盤・脚		
I	K-2	2区	須恵器	碗	スクリーパー(?)	27	23	0.4	23-1
2	K-3	2区	須恵器	石器	2次加工の瓦礫	18	20	0.4	23-2
3	K-1	1区	須恵器	石製品	瓦	155	38	4.8	自然石利用、焼窯1 須恵器常楽系 瓦
4	I-1	2区	I層	須恵器	擂鉢	38	30	0.7	17C後半 須恵器常楽系 瓦
5	I-2	2区	I層	須恵器	擂鉢	85	20	1.1	17C後半 須恵器常楽系 瓦

第31図 山田条里遺跡出土遺物

### 6.まとめ

- 本調査地点は遺跡の北部に位置し、第5次調査2区の北側の地点にあたる。
- 旧水田から約80cmの深さまでの地層を6層に分けることができた。
- 水田跡はII層、III層が水田耕作土層と判断された。II層は中世以降、III層は平安時代以降の水田層である。
- 遺跡の北部まで水田域が広がることが確認された。

### 参考文献

- 河子島功（1991）：「東北地方 10C頃の降下火山灰について」『中川久夫教授退官記念地質学論文集』  
渡部弘美（1993）：「山田条里遺跡」『仙台平野の遺跡群Ⅲ 平成4年度発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告

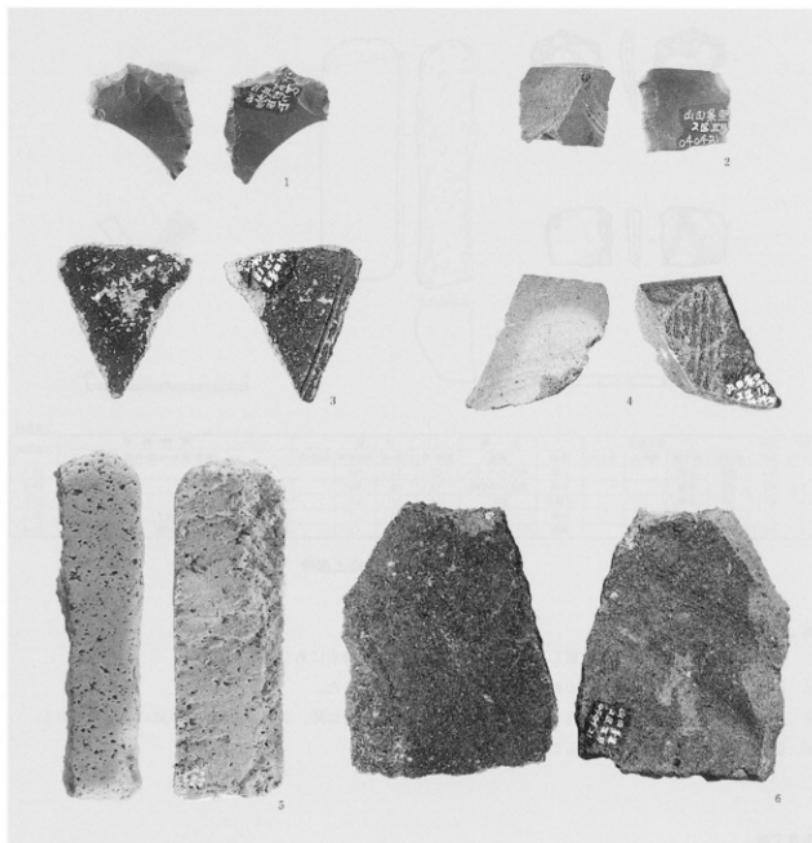
書第170集 仙台市教育委員会

主浜光朗（1999）：「山田条里遺跡—第2次・5次調査」『陸奥国分尼寺ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第238集 仙台市教育委員会

平間亮輔（2000）：「山田条里遺跡—第4次・5次調査」『五本松窯跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第247集 仙台市教育委員会

佐藤 淳（2001）：「山田条里遺跡—第6次調査」『八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第253集 仙台市教育委員会

大倉秀之（2003）：「山田条里遺跡（第7次）発掘調査報告書」『国分寺東遺跡他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第266集 仙台市教育委員会



図版23 出土遺物

1 1区完掘全景（南より）



2 1区東壁北半（西より）



3 1区東壁南半（西より）



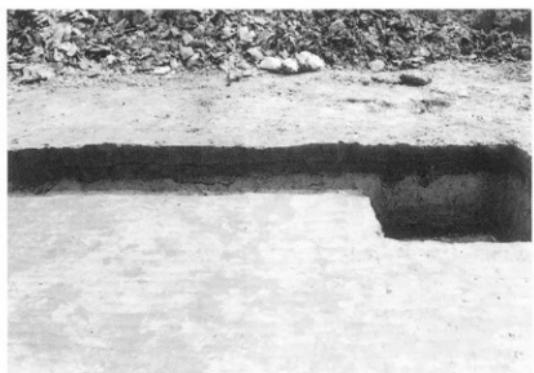
図版24 1区の調査状況



1 遺物出土状況（Ⅱ層下面）



2 2区発掘全景（南より）



3 2区東壁南半（西より）

図版25 1区遺物出土状況と2区の調査状況

## 1. 調査要項

遺跡名	大野田古墳群（宮城県遺跡番号01361）
調査地點	仙台市太白区大野田字王ノ榎4の一部ほか
調査期間	平成16年5月13日～6月14日
調査対象面積	110m <sup>2</sup>
調査面積	110m <sup>2</sup> （掘削面積450m <sup>2</sup> ）
調査原因	給油所建設に伴う地下タンク埋設
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	文化財教諭 女川征延 三塚博之

## 2. 調査に至る経過と調査方法

仙台市太白区大野田字王ノ榎4の一部ほかにガソリンスタンドを新設する計画が、鈴与商事株式会社仙台支店により申請された。当地は、大野田古墳群の範囲内であり、建設計画において、貯蔵用ガソリンタンクが地下4mに埋設されることから、調査の必要が生じた。このため、申請者と仙台市教育委員会との協議の上、建設工事に先駆け記録保存を目的とした発掘調査を実施することとした。

調査は、深さ4mの掘削が行われる地下タンク埋設部分約110m<sup>2</sup>を調査区として行った。

調査対象地は、厚さ1.8mの盛土層と旧表土層があり、調査区前面の崩落と調査によって生じた掘削土壌の堆上の困難が予想された。そのため、盛土及び旧表土排除範囲を調査対象区より広く設定し、法面上傾斜をつけて前面の崩落防止を図った。また、盛土及び旧表土を除去した面のうち、タンク埋設に関係して掘削が行われる範囲外の部分を堆土場とすることによって調査の効率化を図った。

調査地点ではこれまでの周辺部での調査成果から、Ⅲ層における中世の遺構とV層における小溝状遺構群が検出される可能性が推定された。そのため、盛土及び直下のⅠ層（旧水田耕作土）・Ⅱ層（旧水田耕作土下部）までを重機で除去し、Ⅲ層以下から人力による平面的な遺構検出作業を行った。調査区内には土層観察及び排水用の側溝を設けている。V層上面までは、調査区全面の精査を実施し、V層以下は、約2m×約2mの下層調査区を設けて掘り下げた（最下層面での調査範囲は東西約2m×南北約1m）。遺構の測量は、調査区内にY軸が同一の世界測地系の基準点2点を設定して行った。基準点2点の座標値は次のとおりである。（旧来の日本測地系による座標値は測定していない。）

杭A：X = -198284.755m, Y = +3832.5m

杭B：X = -198299.755m, Y = +3832.5m

## 3. 遺跡の位置と環境

大野田古墳群は、仙台市の南部、太白区大野田字王ノ榎、宮、宮脇、竹松、千刈田、塚田に所在しており、地下鉄南北線富沢駅の東側一帯に広がる遺跡である。北西側を奥羽山脈から派生する青葉山丘陵に、北東側を広瀬川に、南側を名取川に囲まれた「郡山低地」と呼ばれる沖積地に立地している。付近一帯は、名取川の支流の一つである太白山に源を発する笊川などが形成した自然堤防や山河源、後背湿地などの沖積地特有の微地形が複雑に発達して



No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	大野反古墳群	円墳	自然施設	古墳
2	戸ノ内遺跡	集落跡	丘陵地、丘陵	縄文、弥生、古墳
3	三井寺遺跡	集落跡	丘陵地	縄文、平安
4	二神寺古墳群	円墳	丘陵地	古墳
5	伏見路跡	散布地	丘陵斜面	古墳
6	上ノ内瀬穴古墳群	被覆地	丘陵斜面	古墳
7	土子内宮跡	被覆地	丘陵斜面	古墳
8	武州古道跡	包含地、水田跡	丘陵地	古墳~近世
9	原遺跡	散布地	丘陵地	弥生、古代
10	原又古道跡	散布地	丘陵地	古墳、古代
11	鳥居溝遺跡	集落跡、水田跡	丘陵地	縄文、弥生、古墳、古代、近世
12	対馬ノ上古墳跡	散布地	丘陵地	縄文、古代
13	白山古跡	集落跡	丘陵地	縄文、弥生、古墳、古代、半径
14	雲又遺跡	散布地	丘陵地	古墳、平安
15	元分孟跡	集落跡、照敷跡	丘陵地	彌生、古墳、古代、近世
16	丁ノ内瀬穴古墳	集落跡	丘陵地	縄文、弥生、古墳、古代、半径
17	穴ノ内瀬穴古墳	集落跡	丘陵地	縄文、弥生、古墳、古代、半径
18	大野田遺跡	散分布地、被覆地	丘陵地	縄文、弥生、古墳、古代
19	丁ノ内造跡	集落跡	自然施設	縄文、弥生、古墳、古代、中世
20	伊豆田造跡	集落跡	自然施設	縄文、古墳、古代
21	王ノ内遺跡	集落跡、照敷跡	自然施設	縄文、弥生、古墳、古代、中世
22	伊古野古墳群	散布地	自然施設	古墳、古代
23	難波城跡	集落跡、照敷跡	自然施設	古墳、近世
24	高井町六丁目遺跡	散布地	自然施設	古墳
25	浜町南側跡	散布地	自然施設	古墳
26	新田南側跡	散布地	自然施設	古墳
27	北瀬遺跡跡	散布地	自然施設	古代
28	美町南側跡	散布地	自然施設	古墳
29	御井跡跡	散布地	自然施設	古墳
30	御治屋前古墳跡	集落跡	自然施設	縄文、古代
31	御治屋敷八丁目跡	集落跡	自然施設	縄文、古代
32	御治屋敷自立塚	散布地	自然施設	縄文、古代
33	六本松跡跡	集落跡	自然施設	古墳
34	御山湖跡	官衙跡、寺跡	自然施設	縄文、弥生、古墳、古代
35	東河原古道跡	集落跡	自然施設	弥生、古墳、古代
36	矢木遺跡	散布地	自然施設	古墳、古代
37	猪俣跡跡	散布地	自然施設	古墳
38	能ヶ原跡	散布地	自然施設	古墳
39	久ノ上廻跡	水田跡	灌漑施設	古墳、古代、中世
40	久ノ上造跡	散布地	自然施設	古墳、古代
41	西台朝倉跡	集落跡、盆地地	自然施設	縄文、弥生、古墳、古代、中世

第32図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第33図 調査地点の位置

いる。大野山古墳群は標高10m前後の自然堤防ないし後背湿地に渡って広がっており、遺跡の構成土壤はシルト・粘土質シルト・砂質シルト・砂が主体を占める。

これまで多くの調査が行われ、平成6年以來仙台市富沢駅周辺地区調整事業に伴う調査が継続的に行われている。春日社古墳・鳥居塚古墳・王ノ塚古墳などの顯在的な古墳のほか、周溝だけが残る古墳も數多く発見されている。古墳以外の遺構としては、古墳時代の竪穴住居跡・古墳時代の木棺墓・古墳時代中期以降から奈良時代以前の畑耕作に係わる小溝状遺構群・平安時代の小溝状遺構群・中世の道路跡・掘立柱建物跡・埠跡・溝跡など、古墳時代以降の各時期の遺構が発見されている。

#### 4. 基本層序

基本層は大別8層、細別10層を確認した。

I 層：灰色シルト。現代の水田耕作土である。層下部に酸化物粒を多量に含む。

II 層：黒褐色粘土質シルト。酸化物の小ブロック・マンガ  
ン粒を多量に含み、灰黄褐色粘土質シルトのブロックを含む。下面に乱れがみられる。

III a 層：にぶい黄褐色粘土質シルト。酸化鉄の小ブロックを多量に含み、層の厚さは3~20cmである。

この層上面が、これまでの調査における中世の遺構検出面である。下面に乱れがなく自然堆積層。

III b 層：暗褐色粘土質シルト。酸化鉄の小ブロック・マンガン粒を含む。層の厚さは2~12cmである。  
下面に乱れがあり、畑耕作土と考えられる。

IV 層：黒褐色粘土質シルト。層の厚さは5~20cmである。下面に乱れがあり、畑耕作土と考えられる。

V 層：褐色粘土質シルト。層の厚さは6~30cmである。

この層上面が、これまでの調査における古墳時代から古代にかけての遺構検出面である。

VI a 層：暗褐色粘土質シルト。炭化物を少量含む。調査区北東端部にのみ分布している。

VI b 層：褐色粘土質シルト。明るい褐色粘土質シルトのブロックを少量含む。東から西に移行するにしたがつて粘性が弱まる。層の厚さは15~45cmである。

VII 層：褐色砂質シルト。にぶい黄褐色砂質シルトのブロックを含む。層下部には確層の土のブロックを含む。  
層の厚さは50cm前後である。

VIII 層：にぶい黄褐色粗砂。層の厚さは5cm以上である。

#### 5. III層発見遺構と遺物

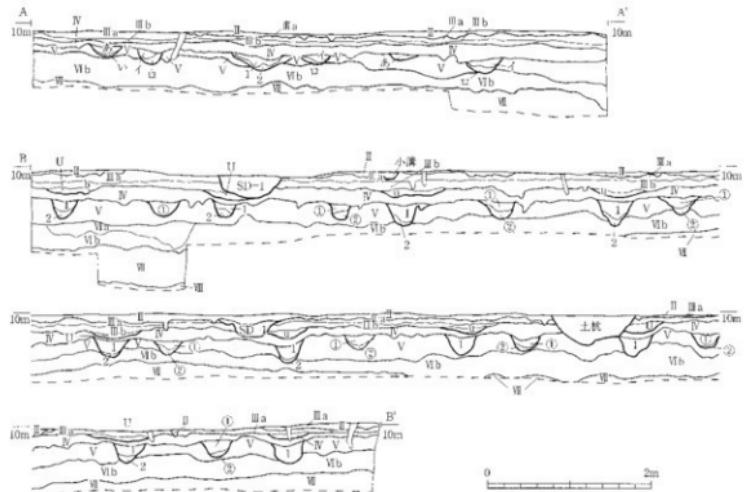
III層上面では、溝跡1条、小溝跡3条、土坑3基、ピット10個が検出された。

##### 1) 溝跡

S D 1 溝跡 調査区北部東壁際で検出された溝曲する溝跡であり、上端幅68~84cm、下端幅21~41cm、深さ16~21cmである。東壁北端から2m部分より南南西へ6.5m伸びてから、ほぼ直角に南東へ折れて2条（S D 1 a 溝跡、S D 1 b 溝跡）に分かれて並行に伸び、東壁中央部から東に伸びる。検出長はS D 1 a 溝跡が8.3m、S D 1 b 溝



第34図 調査区の位置



#### 基本層序

No.	土色	土性	備考
I	2.5YR4/1 黒褐色	シルト	旧木綿跡付。地下部に礫化物を多量に含む。
II	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	マンガン粒を多量に含む。
IIIa	10Y5/2-3 にごく淡褐色	粘土質シルト	炭化物の粘土質シルトブロックを多量に含む。
IIIb	10Y5/4 淡褐色	粘土質シルト	炭化物の粘土質シルトブロックを含む。
IV	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物の粘土質シルトブロックを含む。
V	10YR4/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物の粘土質シルトブロックを含む。
VIa	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。底堅化石のみ確認。
VIb	10YR4/4 淡褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトのブロックを含む。
VII	10YR4/5 淡褐色	砂質シルト	内湾へ北部にかけてシルト質が強くなる。
VIII	10YR4/3 にごく黄褐色	砂	にごく黄褐色粘土質シルトのブロックを含む。 層下に堆土のブロックを含む。

#### IV層款間層

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	酸化物の小ブロックを少量含む。

#### V層小溝状透水層群

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色花上質シルトのブロックを少量含む。
2	10YR4/4 淡褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトのブロックを少量含む。

#### V層小溝状透水層C群

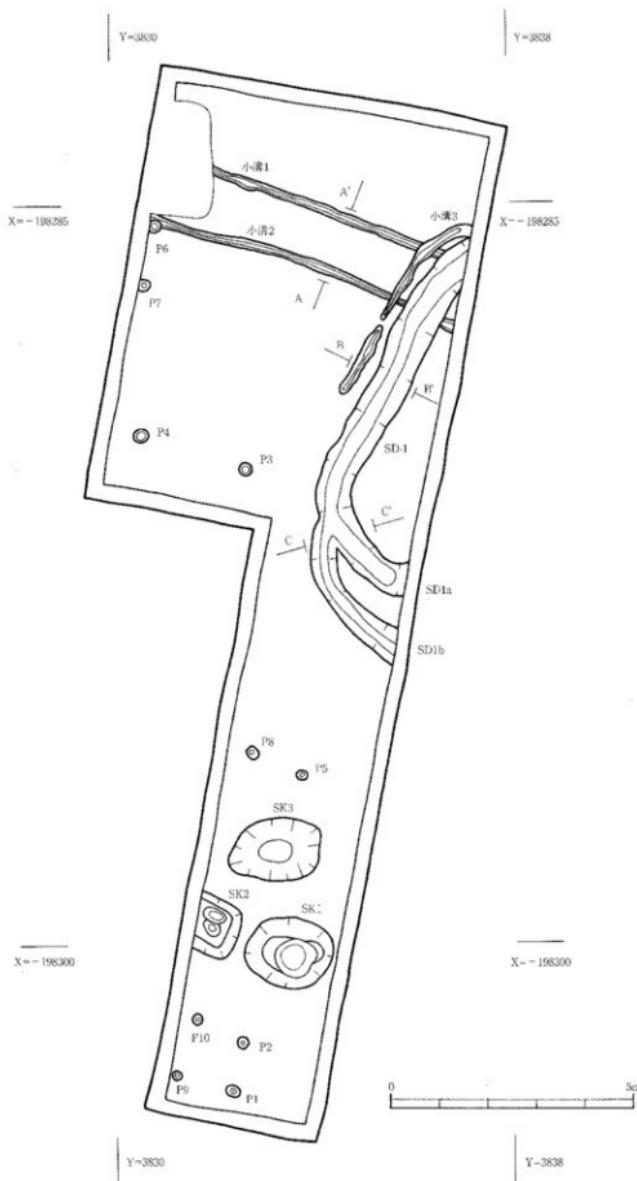
No.	土色	土性	備考
あ	10YR6/3 淡褐色	粘土質シルト	にごく黄褐色粘土質シルトのブロックを少量含む。
い	10YR5/4 にごく黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトの小ブロックを含む。

#### V層小溝状透水層D群

No.	土色	土性	備考
①	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトの小ブロックを少量含む。
②	10YR4/4 淡褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトのブロックを少量含む。

第35図 北壁・東壁断面図

跡が9.4mである。溝跡の南北両端とも調査区東側への伸びが東壁の断面により確認されている。断面形は北部では舟底形を呈しており、壁面の立ち上がりは底面から上部まで緩やかな傾斜になっているが、南部では断面は逆台形、壁面の立ち上がりは底面から上層にかけて北部よりも傾斜が急である。2条が並行する部分の規模は、SD 1a溝跡が上端幅51~62cm、下端幅32~36cm、深さ0~16cm、SD 1 b溝跡は上端幅40~63cm、下端幅13~21cm、深さ15~24cmである。SD 1 a溝跡の深さは、分岐部分が最も深く南東に伸びるに従い浅くなるため東壁にみられる断面はSD 1 b溝跡の1条だけである。堆積土は2層に分けられ、上層が黒褐色の粘土質シルト、下層が暗褐色の粘土質シルトである。堆積土中からは、縄文土器片1点、弥生土器片1点、時期不明の土師器片が5点出土している。小溝1・2を切っている。



第36図 III層検出遺構配置図

## 2) 小溝跡

小溝1 調査区北部で検出さ

れた直線状に伸びる小溝跡で

あり、上端幅15~25cm、下端

幅4~11cm、深さ3~5cm、検出長5mである。方向はN-59°-Wで、断面形は浅い舟底形を呈している。

堆積土は2層に分けられ、上層は暗褐色粘土質シルト、下層が黒褐色粘土質シルトであり、各層とも基本層Ⅲ層のブロックを含んでいる。堆積土中からは須恵器片1点、時期不明の土器片1点が出土している。SD1溝跡・小溝3に切られている。

小溝2 調査区北部で検出された直線状に伸びる小溝

跡であり、上端幅9~19cm、下端幅3~11cm、深さ3~6cm、検出長6.9mである。方向はN-59°-Wで、断面形は浅い舟底形を呈している。堆積土は2層に分けられ、上層は暗褐色粘土質シルト、下層が黒褐色粘土質シルトであり、各層とも基本層Ⅲ層のブロックを含んでいる。遺物は出土していない。SD1溝跡・小溝3に切られている。東壁に断面が見られるため調査区の東に伸びていると考えられる。

小溝3 調査区北部東壁際でSD1溝跡と並行する形で検出された。東壁部は湾曲している。上端幅8~25cm、下端幅3~13cm、深さ0~4cm、検出長は4.2mである。東壁から0.3m、N-82°-Wに伸びてから緩やかに湾曲し、N-30°-Eの方向で3.4m伸びる。断面形は浅い逆台形を呈しており、堆積土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。小溝1・2を切っている。

## 3) 土坑

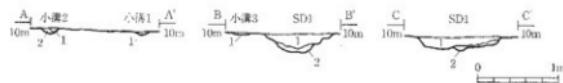
S K 1 土坑 調査区南部で検出された土坑である。長軸1.8m、短軸1.4mの楕円形で最深部での深さは57cmである。断面形は緩やかな舟底形を呈している。最深部は円形状の落ち込みとなっている。落ち込みの上端東側及び西側の壁面は傾斜が緩やかである。堆積土は灰黄褐色砂質シルトで、暗褐色シルト及び黒褐色シルトのブロックを含んでいる。堆積土中からは時期不明の土器片3点が出土している。

S K 2 土坑 調査区南部で検出された土坑であり、西部は調査区外に伸びる。検出部分での長軸は0.9m、短軸は1.1mで、平面形は隠丸方形と推測される。深さは底面まで51cmであるが底面には楕円形のビット状の落ち込みがあり、最深部での深さは60cmである。断面形は逆台形を呈している。堆積土は灰黄褐色砂質シルトで、暗褐色シルト及び黒褐色シルトのブロックを含んでいる。遺物は出土していない。

S K 3 土坑 調査区南部で検出された土坑である。長軸1.9m、短軸1.3mの不整楕円形で、深さは59cmである。断面形は幅の広い舟底形を呈している。堆積土は灰黄褐色砂質シルトで、暗褐色シルト及び黒褐色シルトのブロックを含み下層ほどブロックは大きく、量も多くなる。堆積土中からは時期不明の土器片が2点出土している。

## 4) ピット

ピットは10個検出した。直径20~30cm、深さ15~30cmで全てが円形である。今回の調査においては組み合せ等により建物などを復元するには至らなかった。堆積土から出土した遺物は時期不明の土器片1点である。



小溝1及び小溝2

層位	上色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	基本層Ⅲ層の中プロックを中混む。
2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	基本層Ⅲ層の小プロックを少混む。

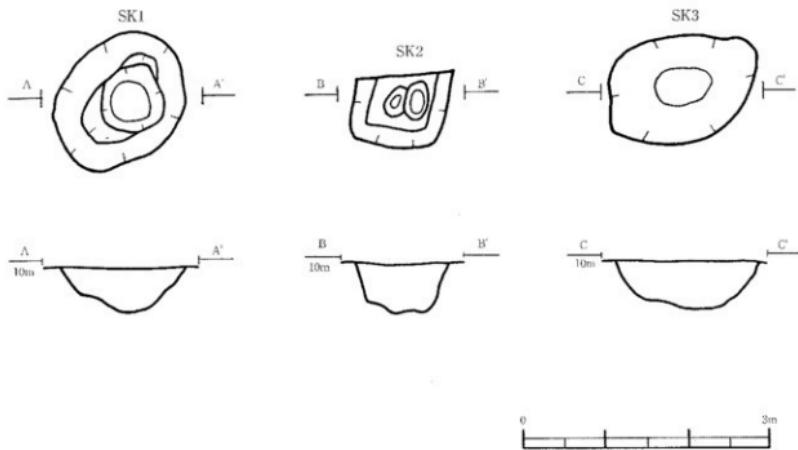
小溝3

層位	上色	土性	備考
1	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	

SD1

層位	上色	土性	備考
1	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	下層の暗褐色粘土質シルトの小プロックを多量に含む。
2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	上層の薄褐色粘土質シルトの小プロックを中混む。

第37図 溝跡断面図



## 6. IV層発見構造と遺物

IV層上面では、小溝跡2条、畝間跡11条が検出された。

### 1) 小溝跡

小溝4 調査区北西端で検出された直線状の小溝跡である。上端幅12~28cm、下端幅3~6cm、深さ4~8cm、検出長1.2mであるが、西端は擾乱による削平を受けているため調査区から西へ伸びるかは不明である。方向はN-79°Wで、断面形は開いたU字形を呈している。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。

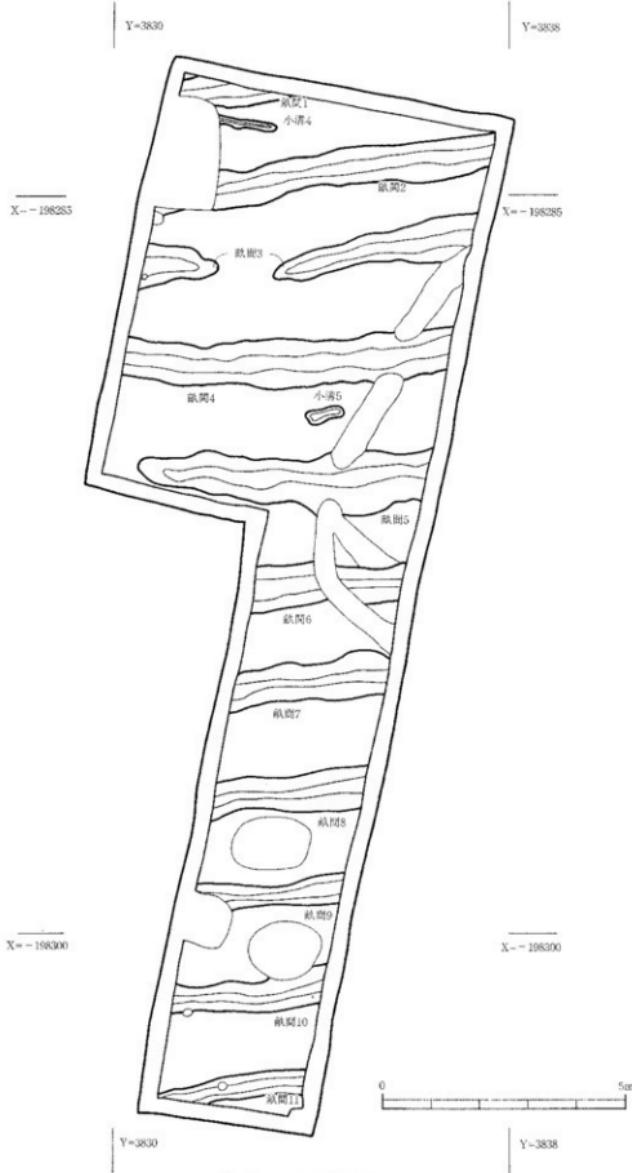
小溝5 調査区中央やや北寄りで検出された小溝跡である。上端幅14~28cm、下端幅12~18cm、深さ6cm、検出長0.8mである。方向はN-75°Eで、断面形は開いたU字形を呈している。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。

### 2) 畝間跡群

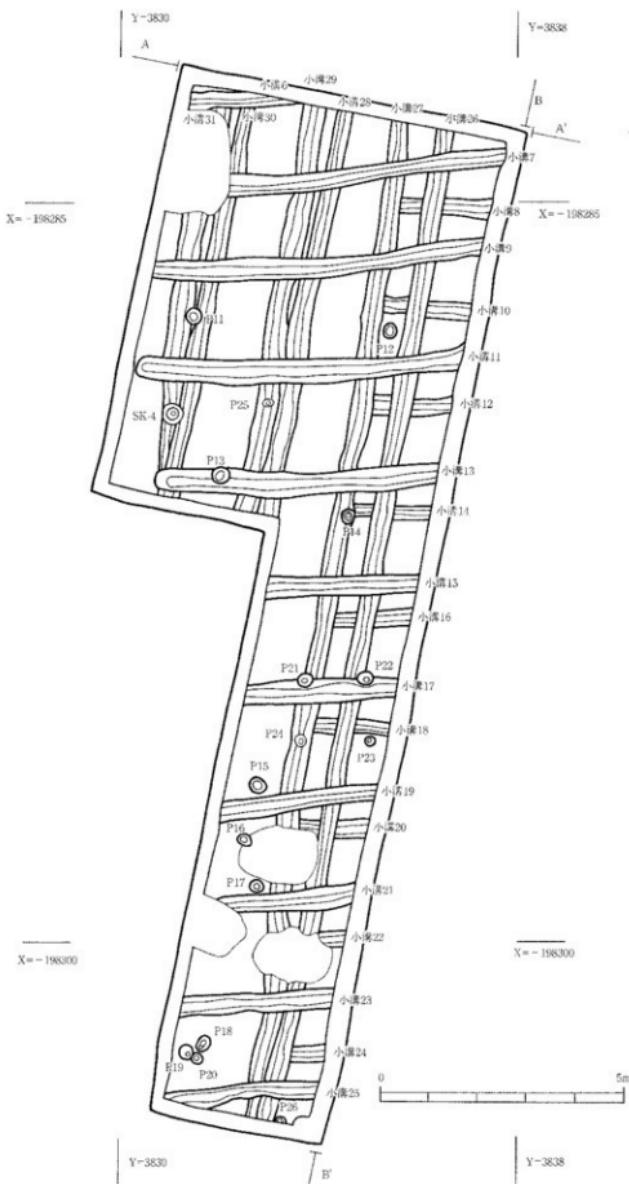
畝間跡群 調査区全域で、東西に伸びる畝間跡を11条検出した。畝状の高まりは今回の調査によって検出することはできず、壁面の断面観察によっても確認できないため削平されたものと考えられる。畝間跡は方向と間隔から一連の畑耕作のものと遺存した一時期の構造群であると捉え、畝間跡群とする。上端幅39~125cm、平均82cm、下端幅12~44cm、平均22cmであるが、上端下端とも出入りが著しい。畝間跡の深さは3~14cm、平均8cm、検出長は2.5~6.6mである。畝間3及び5は調査区内で途切れる。東西の壁面で全ての畝間跡の断面が確認できたため、調

SK1			
部位	土色	土性	塊
1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	暗褐色シルトの小ブロックを多量に含む。 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。
SK2			
部位	土色	土性	塊
1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	暗褐色シルトの小ブロックを多量に含む。 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。
SK3			
部位	土色	土性	塊
1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	暗褐色シルトの小ブロックを多量に含む。 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。 下部はヒツツリが大きく、茎は多くなる。

第38図 土坑平面・断面図



第39図 IV層検出構造配置図



第40図 V層検出遺構配置図

査区外の東西両方向に続いていると思われる。畠間跡は緩やかな湾曲をもって伸び、方向はN-82°-89°-Eを基準としている。上端間は1.3~1.5mとほぼ同一間隔で並行している。断面形は浅い舟底形を呈している。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトである。堆積土中から時期不明の土師器片が15点出土している。

## 7. V層発見遺構と遺物

V層上面では、小溝状遺構群4群26条、土坑1基、ピット16個が検出された。

### 1) 小溝状遺構群

検出した小溝跡は26条であり、整理段階及び掲載図（第40図）では通し番号（小溝6~31）を付している。方向や長さ・切りあい関係によって、A群・B群・C群・D群の4群に分けられる。各小溝跡の属する群をまとめると以下のようになる。

小溝状遺構群A群：小溝-6・7・9・11・13・15・17・19・21・23・25

小溝状遺構群B群：小溝-26・28・30

小溝状遺構群C群：小溝-27・29・31

小溝状遺構群D群：小溝-8・10・12・14・16・18・20・22・24

小溝状遺構群A群 調査区全域にわたって東西に伸びる小溝跡である。D群を切るB群・C群を切っており小溝状遺構群中で最も新しい。上端幅36~52cm、平均45cm、下端幅9~24cm、平均19cmである。深さは12~30cm、平均23cmで西から東に向けて若干深くなる。検出長は3~6.6mである。小溝11及び13は調査区内で途切れる。小溝11・13の西端の位置がこの群の西端を示している可能性がある。小溝11・13の西端部より西側は、調査区内外では検出されなかった。小溝跡はわずかな湾曲を示しながらN-83°-89°-Eの方向を示し、上端間1.4~1.7mとほぼ同一間隔で並行しており、断面形は舟底形である。堆積土は2層に分けられ、上層が黒褐色粘土質シルト、下層が褐色粘土質シルトである。堆積土中からは図示した縄文時代後期中葉の縄文上器片2点（A-1・A-2）のほか、縄文上器片1点、非クロロ上師器片1点、時期不明の土師器片15点、石器剥片1点が出土している。IV層検出畠間群と同様の方向性と検出長であり、調査区内での位置も上下で重なるように一致する。

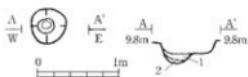
小溝状遺構群B群 調査区全域を南北に伸びる小溝跡である。A群に切られ、C群・D群を切っている。上端幅31~46cm、平均40cm、下端幅6~24cm、平均15cmである。深さは13~20cm、平均17cmである。検出長は8.3~20.6mである。方向はN-9°~11°-E、上端間1.5~1.9mで並行しており、断面形は舟底形である。堆積土は2層に分けられ、上層が暗褐色粘土質シルト、下層がにぶい黄褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。

小溝状遺構群C群 調査区全域を南北に伸びる小溝跡として検出した。A群・B群に切られ、小溝状遺構群D群を切っている。上端幅44~52cm、平均48cm、下端幅15~29cm、平均23cmである。深さは5~13cm、平均9cmである。検出長は8.3~20.8mである。方向はN-9°-Eを基準としているが、小溝27は、調査区南端から4mの地点でN-2°-Wの方向から1.5m伸びてからN-12°-Eに方向が変わる。また、小溝27は調査区南端部から2.9mより南側はB群の小溝26に切られる。他の2条も南に寄るにつれて東に若干湾曲しB群に切られる。上端間は1.5m前後ではほぼ同一間隔で並行している。断面形は幅広い舟底形を呈している。堆積土は2層に分けられ、上層は黒褐色粘土質シルト、下層がにぶい黄褐色粘土質シルトである。堆積土中からは図示した弥生時代中期の弥生土器片1点（B-1）のほか、B-1と同一個体と思われる弥生土器片4点、非クロロ上師器片1点、時期不明の土師器片6点が出土している。

**小溝状遺構群D群** 小溝27より東側の調査区東半部のみに分布する。A群の間に東西に伸びる小溝跡として検出された。下端幅25~43cm、平均36cm、下端幅8~17cm、平均13cmである。深さは14~20cm、平均16cmである。検出長は0.6~1.8mである。方向はN~88°~Eで、上端間1.6~1.8mとほぼ同一間隔で並行している。断面形は開いたU字形を呈している。堆積土は2層に分けられ、上層が黒褐色粘土質シルト、下層が褐色粘土質シルトである。堆積土中から縄文土器片1点が出土している。

## 2) 土坑

**S K 4 土坑** 調査区の中央部や北東の小溝30及び31の底面で検出された土坑である。平面形は円形で南北軸45cm、東西軸42cmである。底面までの深さは14cmであるが、底面中央部にピット状の落ち込みがあり、最深部での深さは24cmである。堆積土は2層に分けられ、上層が黒褐色粘土質シルトで、下層はぼく黄褐色粘土質シルトである。遺物は出土していない。

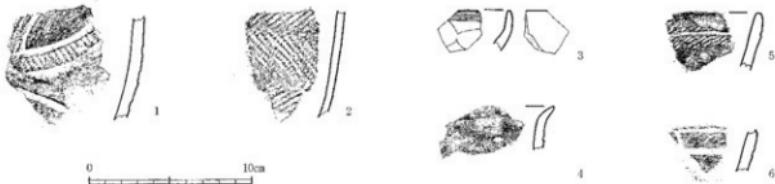


SK 4		層位	土色	土性	標	考
1	10YR3/2 黒褐色	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	ト壁のこぼい黄褐色粘土質シルトの小ブロックを 含む。	
2	10YR5/4 カハ・黄褐色	2	10YR5/4 カハ・黄褐色	粘土質シルト	ト壁の黒褐色粘土質シルトの小ブロックを含む。	

第41図 SK 4 土坑平面・断面図

## 3) ピット

ピットは16個検出した。直径20~28cmの円形で、深さは14~34cmである。今回の調査においては組み合わせ等により遺物などを復元するには至らなかった。堆積土から出土した遺物には時期不明の土器片が5点ある。



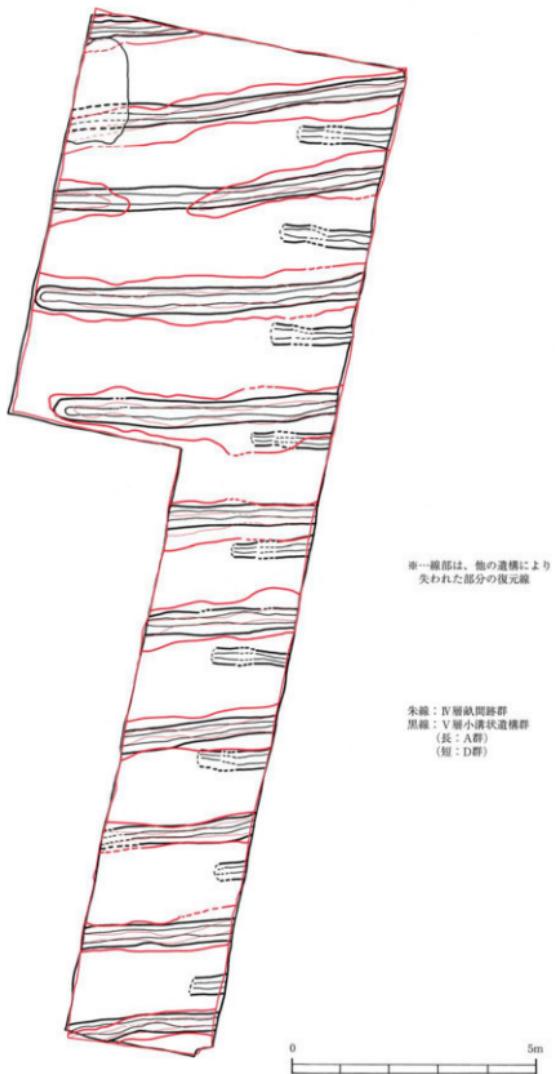
### 大野田古墳群出土遺物

回中	登録番号	出土地点	分類	法 量(cm)	特 徴・備 考				写真 図版						
					基本番	遺構名	遺構記	取上No.	種別	設置	岩高・長	L径・幅	發達度基	底坪・裏	
1	A-2	小溝19	縄文土器	1	-	-	-	-	鉢	-	-	-	-	-	26-2
2	A-3	V層	縄文土器	2	-	-	-	-	鉢	-	-	-	-	-	26-4
3	C-1	IV層	土器片	3	-	-	-	-	环	-	-	-	-	-	26-5
4	B-1	小溝27	付生土器	4	-	-	-	-	甕	-	-	-	-	-	26-6
5	A-1	小溝9	縄文土器	5	-	-	-	-	鉢	-	-	-	-	-	26-1
6	A-4	IV層	縄文土器	6	-	-	-	-	鉢	-	-	-	-	-	26-3

第42図 出土遺物実測図

## 8. 下層調査状況

これまでの大野田古墳群の調査及び隣接する王ノ壇遺跡の調査で、縄文時代の遺構が検出されていることから、



第43図 IV層歛間跡群とV層小溝状造構群

本調査区においても縄文時代の遺構を確認するために下層調査を行った。調査区北東部に東西2m×南北2mの調査区を設定し、V層以下を人力により砂礫層となる堆積まで約1.1m掘り下げて遺構検出作業及び断面観察を行ったが、遺構は発見されなかった。

## 9. 基本層中の出土遺物

出土した遺物は、II層では、縄文土器片4点、非クロクロ土師器片5点、ロクロ土師器片3点、時期不明の土師器片19点が出土した。III層では、縄文土器片1点、非クロクロ土師器片2点、ロクロ土師器片1点、時期不明の土師器片10点が出土した。IV層では、縄文土器片3点、図示した非クロクロ土師器片1点（C-1）ほか非クロクロ土師器片6点、時期不明の土師器片38点が出土した。V層では、図示した後期中葉の縄文土器片1点（A-3）ほか縄文土器片17点、非クロクロ土師器片4点、須恵器片1点、石器剥片6点、時期不明の土師器片20点が出土した。

VI層では、図示した後期中葉の縄文土器片1点（A-4）が出土した。

## 10. 小溝状遺構群から畝間跡群・IIIa層までの畑耕作の変遷

小溝状遺構群と畝間跡群及びIIIa層の堆積については次のような変遷が考えられる。

- ① D群が掘削され、東西方向の畝による畑作が行われていた。調査区内で西端を検出しており畑は小溝27より東に広がっていたものと考えられる。  
(耕作土はIV層)
- ② C群がD群に直交する形で掘削され、南北方向の畝による畑作が行われるようになった。  
(耕作土はIV層)
- ③ B群がC群に並行する形で掘削され、C群同様の南北方向の畝による畑作が行われるようになった。何らかの理由で新たに畝を東側に移動させて再構築したものと考えられる。  
(耕作土はIV層)
- ④ A群がB群と直交する形で掘削され、東西方向の畝による畑作が行われるようになった。小溝13及び11の西端を検出したため、おそらく調査区を西端境界として畑は東に広がっていたものと推測される。  
(耕作土はIV層)
- ⑤ A群の畑作が続く中で、畝山からの耕作上IV層の崩落等によって畝間に灰褐色土が堆積した。畝間跡群の西端は検出していないため、A群の畑（歴）は規模は不明であるが西に伸びたものと考えられる。
- ⑥ 続いて、畝間堆積上を除くIV層直上のIIIb層下面にも凹凸がみられことから、IIIb層を耕作土とする畑作が行われるようになったと考えられる。  
(耕作土はIIIb層)
- ⑦ その後、何らかの理由により耕作土IIIb層の畝山は削平され、下面に亂れがなく自然堆積層と考えられるIIIa層が、削平後のIIIb層を覆うように広く堆積した。

## 11.まとめ

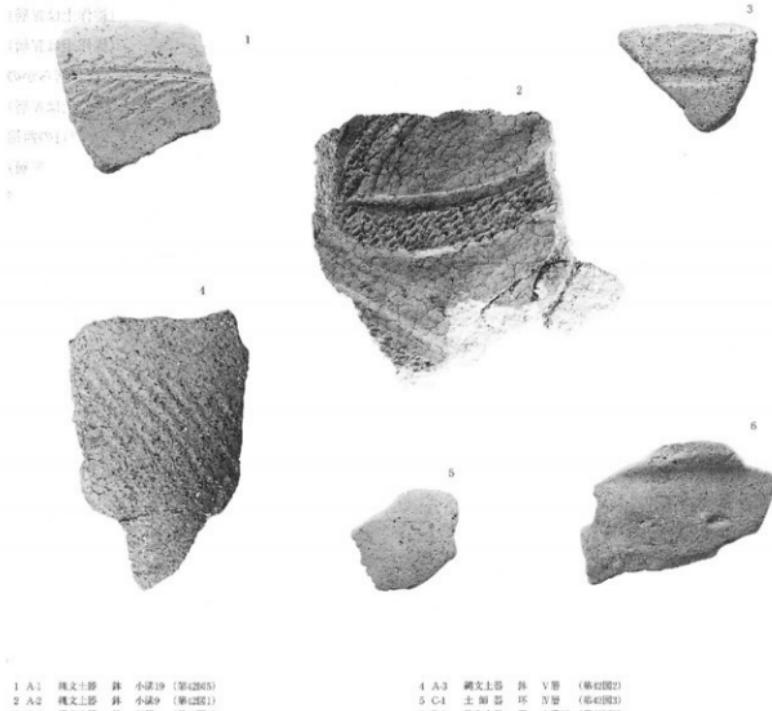
- ① 今回の調査区は遺跡の東端であり、王ノ塙遺跡に隣接する。標高は11.7mである。
- ② III層上面では溝跡1条、小溝跡3条、土坑3基、ピットが検出された。
- ③ IV層上面では小溝跡2条、畝間跡11条が検出された。
- ④ 畝間跡は、ほぼ同一方向・同一間隔で検出されたが、歴状の高まりは確認できなかった。
- ⑤ 畝間跡群の検出により、これまでの周辺の調査でIV層はV層で検出される遺構の掘り込み面と捉えられていたが、畑耕作に関わる遺構面であることが確認された。
- ⑥ V層上面では小溝状遺構群4群、土坑1基、ピットが検出された。
- ⑦ 小溝状遺構群の新旧は方向性・重複関係により、D群→C群→B群→A群の順に新しくなる。
- ⑧ 小溝状遺構群A群は、IV層上面で検出した畝間跡群と上下に重なる位置に検出された。
- ⑨ ⑦・⑧により調査区周辺での畑耕作の大まかな変遷を捉えることができた。

⑩ 各造構の時期を決定できる遺物が出土していないため、今回の調査成果による時期の明示はできないが、周辺での調査成果によると、Ⅲ層検出造構は中世、Ⅳ層上面検出造構は古代から中世、Ⅳ層は古代、V層検出造構は古墳時代から古代である。

## 参考・引用文献

- 渡邊千誠他：2000『大野田古墳群・王ノ塚遺跡・六反田遺跡・富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書』  
仙台市文化財調査報告書243集
- 小川淳一他：2000『王ノ塚遺跡・都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ』仙台市文化財調査報告書249集
- 佐藤 甲二：1993『下ノ内浦遺跡・第4次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書173集
- 神成 浩志：1995『下ノ内浦遺跡・第5次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書202集
- 渡部弘美他：2003『国分寺東遺跡他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書266集
- 太田 昭夫：1994『中田南遺跡・古代・中世の集落跡の調査』仙台市文化財調査報告書182集

図版26 出土遺物



図版26 出土遺物



1 遺構検出状況（北より）



2 SK1 土坑断面（南西より）



3 SK2 土坑断面（東より）



4 SK3 土坑断面（南より）



5 SD1 小溝1～3検出状況（北より）

図版27 Ⅲ層検出遺構1



6 SD 1、小溝1～3検出状況（西より）



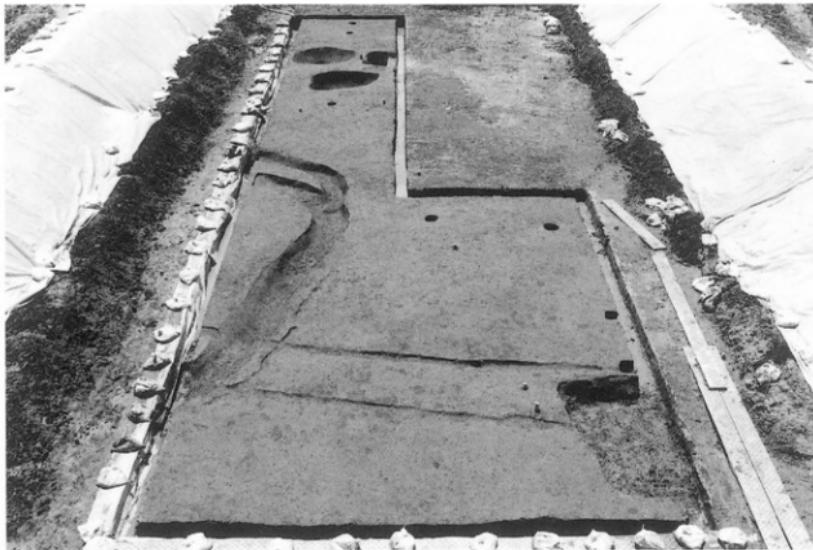
7 SD 1、小溝1～3完掘（西より）



8 SD 1、小溝3断面（南より）

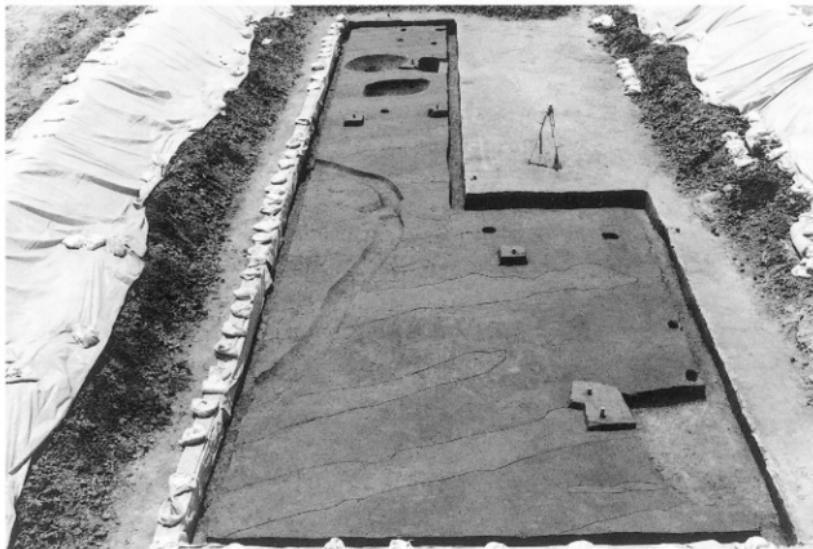


9 SD 1断面（南より）

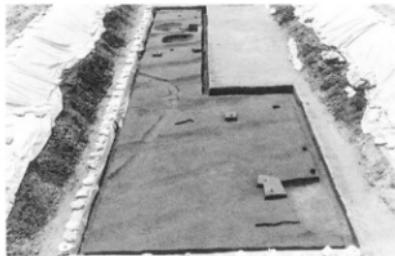


10 遺構完掘全景

図版28 Ⅲ層検出遺構 2



11 造構検出状況（北より）



12 造構完掘全景（北より）



13 突間跡完掘状況（北より）

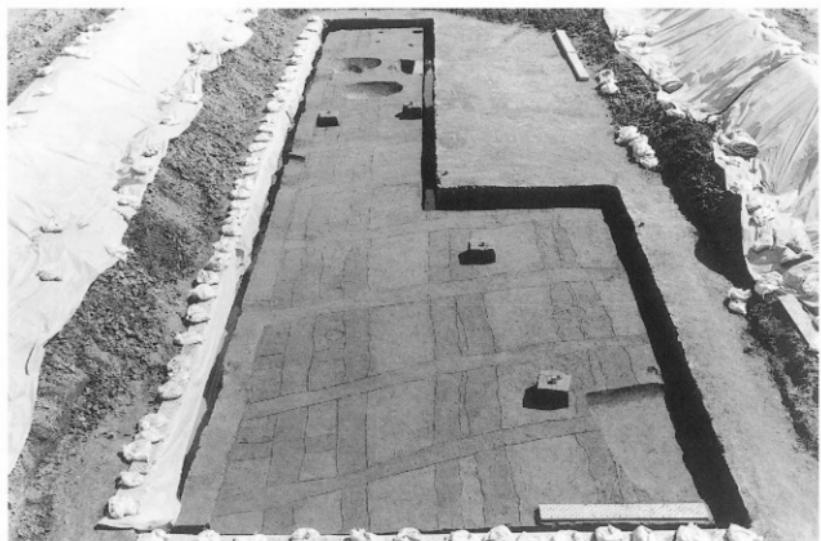


14 小溝4完掘状況（南より）

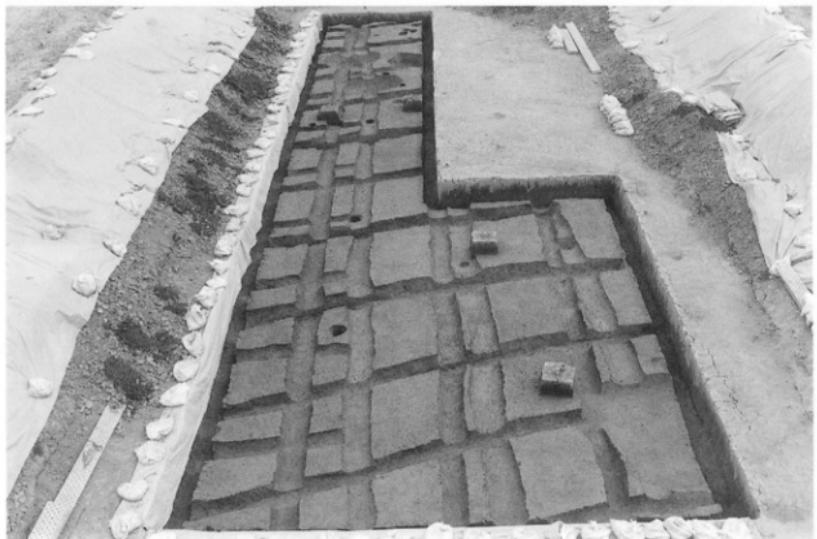


15 小溝5完掘状況（南より）

図版29 IV層検出造構



16 遺構検出状況（北より）



17 遺構完掘全景（北より）

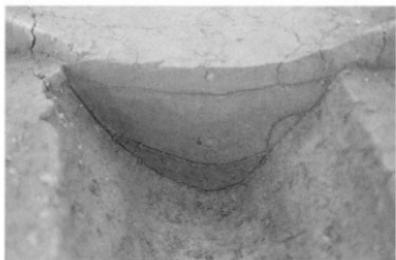
図版30 V層検出・完掘全景



18 小溝状遺構群検出状況・北部（西より）



19 小溝状遺構群完掘・北部（西より）



20 小溝11（A群）断面（西より）



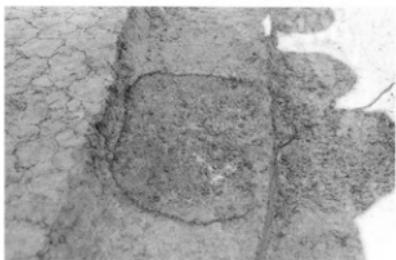
21 小溝15（A群）断面（西より）



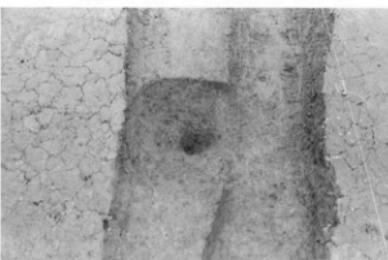
22 小溝28（B群）・29（C群）断面（南より）



23 小溝30（B群）・31（C群）断面（南より）



24 SK 4 検出状況（南より）



25 SK 4 完掘（南より）

図版31 V層検出遺構



26 東壁断面 北部（西より）



27 東壁断面 中央部（西より）



28 東壁断面 南部（西より）

図版32 東壁断面



29 北壁断面 東部（南より）



30 北壁断面 西部（南より）



31 調査完了全景（北より）

図版33 北壁断面・調査完了全景



# IV 後河原遺跡 第5次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺跡名	後河原遺跡（宮城県遺跡番号01273）
調査地点	仙台市太白区中田町字後河原17-18・18-15
調査期間	平成16年6月17日～18日
調査対象面積	90m <sup>2</sup>
調査面積	36m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治

## 2. 調査に至る経過と調査方法

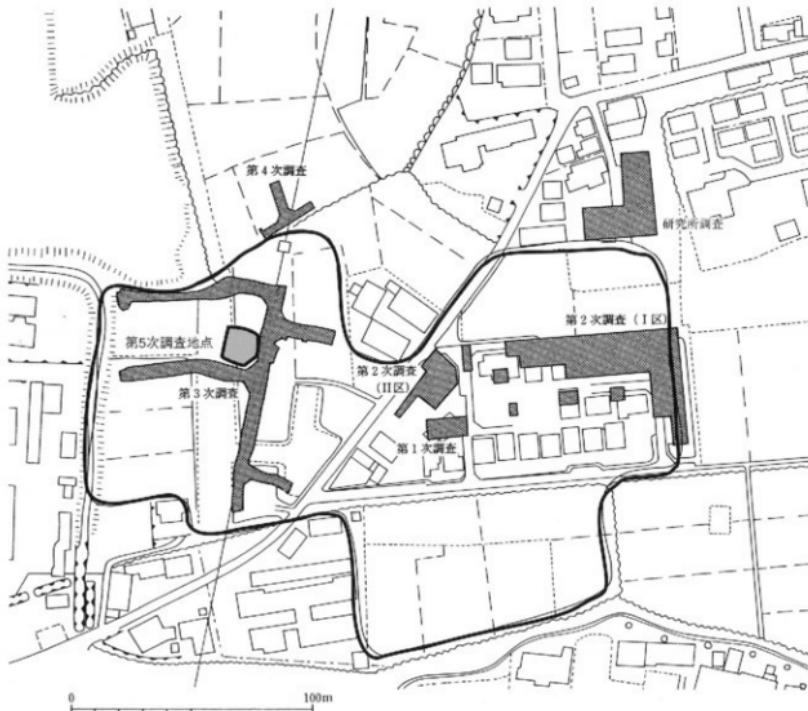
本調査は、平成16年5月27日付けで、斎藤信也氏より、深さ8.5mの鋼管杭の打ち込みを伴う個人住宅建築に伴う発掘届が提出されたので、確認調査を実施しその上で、必要な場合は本調査を行なう旨を回答した。確認調査は、平成16年6月17日に、6m×6mの調査区を設定して実施し、溝跡1条と挿立柱建物跡1棟が検出されたので、検出遺構およびその下層について引き続き本調査を行なった。



後河原遺跡 <遺跡地名表>

No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	後河原遺跡	官衙営所・本居跡	自然埋没	春秋・古代～近世	8	津川遺跡	設屯地	自然埋没	古墳・古代
2	七芯井	敷石施	自然埋没	古代	9	介人遺古跡	門跡	自然埋没	古墳(集落?)
3	中田西遺跡	集落・生糞跡	自然埋没	春秋・古代～近世	10	城北遺跡	門跡	自然埋没	古墳
4	眞津中遺跡	散石施	自然埋没	古墳・古代	11	アノ内遺跡	墓道・方郭構造	自然埋没	古墳・古代～中世
5	洋津北遺跡	散石施	自然埋没	古墳・古代	12	因原大塚跡	墓道・方郭構造	自然埋没	古墳・古代～中世
6	内手遺跡	敷石施	自然埋没	古代	13	野柳北遺跡	壁跡	自然埋没	古墳・古代
7	中田西中遺跡	生糞・壁跡	自然埋没	古墳・古代					

第44図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第45図 遺跡の範囲と調査地点の位置

### 3. 遺跡の位置と環境

後河原遺跡は仙台市の南端、名取市との境に近く、JR南仙台駅の南東約1kmに位置する。付近一帯は名取川が形成した自然堤防と後背湿地・旧河道が複雑に入り組んだ地形となっており、遺跡の中心となる標高6m前後の自然堤防の北側には旧河道が存在する。南側には後背湿地が広がっており、遺跡の一部は後背湿地に及んでいる。

遺跡の北側を流れる名取川対岸の富沢地区は、自然堤防の形成が早く、縄文時代中期頃から集落が形成されているが、中田地区周辺の沖積地に遺跡が形成されるようになるのは、弥生時代になってからで、後河原遺跡や戸ノ内遺跡・安久東遺跡・中田南遺跡などで弥生土器が出土している。古墳時代になると戸ノ内遺跡と四郎丸館跡にかけての地域や安久東遺跡などに集落と方形周溝墓がつくられ、生活の様子が明らかになってくる。以後、古墳時代・奈良時代・平安時代を通して次第に多くの遺跡が形成され、遺跡の分散・拡大が認められる。中世には安久東遺跡、中田南遺跡・四郎丸館跡に屋敷なしし城館が形成されている。

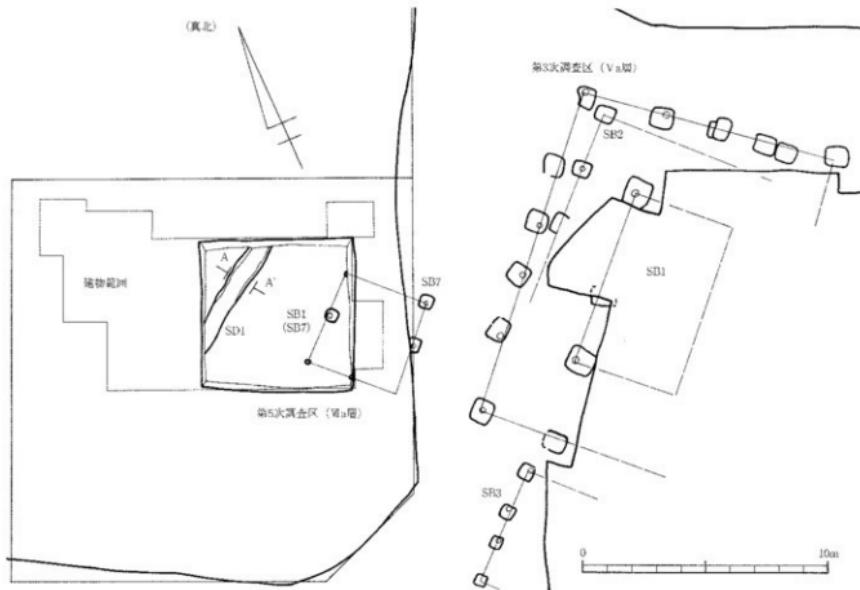
後河原遺跡のこれまでの調査では、古墳時代前期（弥生時代までさかのぼる可能性あり）から平安時代・中世・近世の水田跡・古代の堅穴住居跡・掘立柱建物跡・畠跡などの遺構が検出され、遺物は弥生時代から近世までの各時代のものが出土している。今回の調査区に隣接して行なわれた第3次調査では、基本層が大別10層・細別21層に

分けられ、自然堤防部のV b層で7世紀末から8世紀前半の堅穴住居跡と掘立柱建物跡・畑耕作跡が、V a層で9世紀後半から10世紀前半の堅穴住居跡と掘立柱建物跡・畑耕作跡が、IV層から10世紀前半頃の掘立柱建物跡や溝跡が、III層から平安時代遣構の畑耕作跡が検出されている。また、自然堤防から後背湿地にかけての地区のVI a 1層・VI a 2層・VI b層は古墳時代中期から古墳時代前期の水田跡で、VI b層水田の上段は弥生時代に遡る可能性がある。

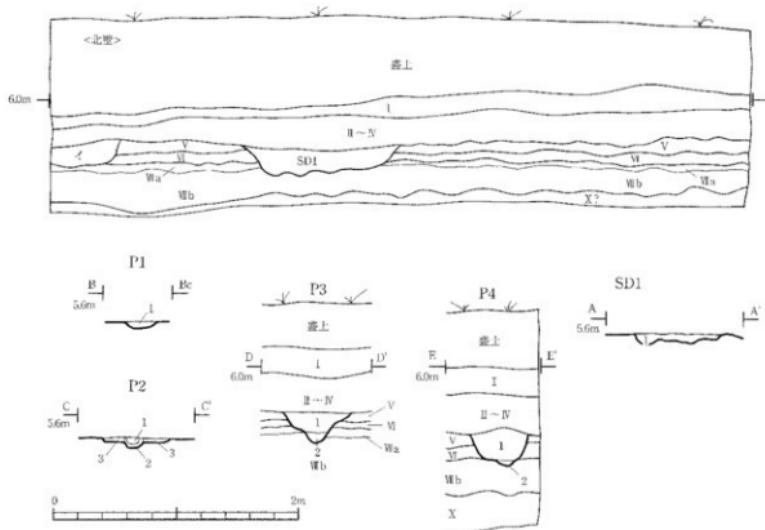
今回の調査地点は、第3次調査のIV層で検出されたS B 7掘立柱建物跡の延長線上に位置することから、この時期の遣構が存在する可能性が考えられた。またVI a 1層以下の古墳時代水田跡の北隣付近に当たり、その遊びの有無の確認も調査の課題となった。

#### 4. 基本層序

本調査では、第3次調査の層序に対応させて土層を分別した。現表土は宅地造成に伴う盛土層が60~80cmある。I層は層厚10~20cmの暗オリーブ灰色のシルト層で、宅地造成以前の水田耕作土である。II・III・IV層に対応する土層は分層できなかったが、灰白色火山灰粒をまばらに含むぶい黄褐色の砂質シルト層（II~IV層）が20~30cm存在した。II~IV層は、畑の耕作土層であると観察された。V層は褐色土を斑状に含む黒褐色の粘土質シルト層で、層厚は10cm前後である。VI層は層厚が10cm前後の暗褐色の粘土質シルト層である。VI a層は層厚5cm前後の黒褐色のシルト質粘土層である。土層が薄く、VI a 1層とVI a 2層に細分することはできなかった。VI b層は黒色の粘土層である。第3次調査のⅦ層・Ⅸ層に対応する土層は確認できず、VI b層の下層は第3次調査のX層と対応すると考えられる黒褐色の粘土層となる。



第46図 検出遺構と周辺の遺構



後河原遺跡 <土層注記>

層No.	土色	土性	備考
I	2.5m付近 10YR4/2	紅褐色 砂質シルト	田水山耕作土
II - III 10YR4/2	に赤い斑塊 赤褐色	砂質シルト 底土質シルト	底色水田灰土をばらに含む
V 10YR5/2	黒褐色	砂質シルト	下部に時接土上のブロックを少量含む
W 10YR4/4	緑褐色	粘土質シルト	褐色土を底質に含む
Va 10YR2/2	黒褐色	シルト質粘土	高粘土質土、高幅で20cmの 柱状。
Vb 10YR2/1	黑色	粘土	
X? 10YR5/6	黒褐色	シルト質粘土	
イ 10YR4/5	に赤い斑塊	砂質シルト	

層No.	土色	土性	備考
P <sub>c</sub> I 10YR3/4	暗赤褐色	粘土質シルト	黑褐色土を少量含む
P <sub>c</sub> II - III 10YR4/2	灰褐色	シルト質粘土	柱状下部に含む
V 10YR4/4	黒褐色	粘土	柱状下部に含む
W 10YR4/2/3	黒褐色	粘土質シルト	柱状下部に含む
P <sub>d</sub> I 10YR4/2	暗褐色	シルト質シルト	褐色土及び赤褐色土をブロック状に含む
P <sub>d</sub> II 10YR4/4	褐色	粘土質シルト	褐色土を多量に含む
P <sub>d</sub> III 10YR4/2	灰褐色	シルト質粘土	褐色土上及び黑褐色土をブロック状に含む
P <sub>d</sub> IV 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	柱状下部に含む

第47図 調査区北壁断面図・遺構断面図

## 5. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、V層上面を的確に検出できなかったため、遺構の検出作業はⅦa層上面とⅦb層上面で実施した。Ⅶa層上面で柱穴3基と溝跡1条が検出されたが、調査区壁面の精査の結果、これらの遺構はV層上面からの掘り込まれていることが確認された。Ⅶa層上面およびⅦb層では水田遺構は発見できなかった。なお、Ⅶa層以下の土層については、調査区壁面の精査を行ない、畔壁等の遺構や水田土壤の存在を示すような土層底面の乱れ、下層の巻き上げ等の検討を行なったが、そのような痕跡を確認することはできなかった。

### 1) 挖立柱建物跡

S B 1 挖立柱建物跡 Ⅶa層上面で、方形の掘り方の輪郭がわかる柱穴1個、柱痕部分の円形の落ち込み2個の3個が検出された。また、溝跡区東壁断面で1個の柱穴断面が確認された。4個の柱穴は、西辺で3個2間、南辺で2個1間分が並び、直角に折れて建物の2辺を構成する。西辺の全長は2間・400cmで、柱間寸法は北から185cm・215cmである。南辺の柱間隔は183cmである。P2の掘り方は、1辺約50cmの方形で、柱痕跡は直径15~18cmの円形を呈する。調査区壁面で観察される本來の遺構検出面であるV層上面からの深さは、最も深い部分で約30cmである。

柱の太さから考えると、柱穴の深さが30cmでは浅すぎるので、本来の掘り込み面はさらに上位にあり、基本層のII～IV層が畠として耕起された際に木米の掘り込み面が失われたことが考えられる。

この建物は、検出された位置と層位から、3次調査の際にV層上面で検出されたS B 7 挖立柱建物跡の西辺部に当たるものと考えられる。両調査の状況から、この遺構は、東西2間・南北2間の建物であることが判明した。南辺の全長は350～380cmと推定され、南北方向(北東から南西方向)にわずかに長い建物である。建物の方向は東辺でN-32°-EWを測り、第3次調査で検出された4面に底を持つと推定される大型のS B 1 挖立柱建物跡とは同一方向を向いている。

柱穴からの出土遺物はない。

## 2) 溝跡

S D 1 溝跡 調査区の北辺から西辺にかけて斜めに検出された。この溝跡もV层で検出されたが、本来はV層上面で検出できるものである。溝の幅は、上面でⅦa層面では約70cmであるが、北壁にかかる断面のV層上面では約130cmある。V層上面からの深さは20cm前後で、断面形は深いU字形を呈する。堆積土は、暗褐色の粘土質シルトで、黒褐色土を含む。溝跡の底面には、細かな凹凸が連続して全面で観察できる。掘削具の痕跡と理解される。出土遺物はない。

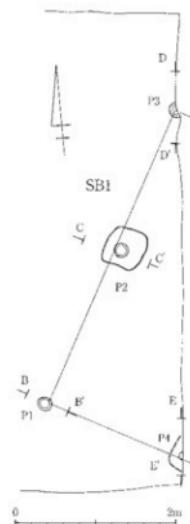
S D 1 溝跡は、S B 1 挖立柱建物跡の西辺から3m前後隔ててこれと平行する方向でのびている。溝跡を北に延長すると、第3次調査の5区北端で検出されたS D 8 溝跡(現耕作土直下Ⅶb層検出・幅70～80cm・断面形深いU字形)に続く方向でのびている。両溝跡の西側では掘立柱建物跡が検出されていないので、この溝がV層上面で検出された建物群の西方を区画する施設の可能性があると考えられる。さらに、この溝を南方に延長して、これに直角に交わる溝を探すと、3次調査 S D 30 溝跡(現耕作土直下VI層検出・幅13cm・断面形深いU字形)があり、建物群南辺のY字型施設の可能性もあると推察される。

## 3) VIIa層以下の下層遺構の調査

3次調査においては、VIIa 1層・VIIa 2層・VIIb層において水田遺構が検出されているが、今回の調査ではVIIa層対応層が薄く水田遺構は検出されなかった。また、比較的土層の厚かったVIIb層も下面の乱れや下層を巻き込んだ土壤も観察されず、水田遺構は発見できなかった。第3次調査における3区と5区の交点付近で検出された等高線に沿うように北西から南東方向にのびるS D 28 溝跡よりも北側の標高が高い側で水田遺構が検出されなかつことと一致する。VIIa 1層・VIIa 2層・VIIb層を通して、S D 28 溝跡が水田域の北側を画していたと考えられる。

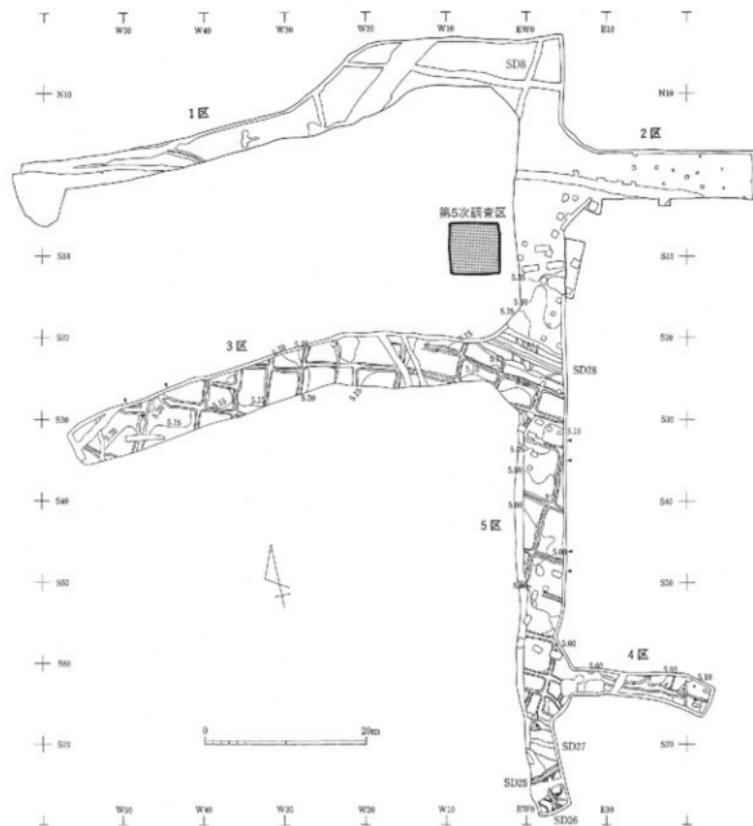
## 6.まとめ

- ①本調査区は、後河原遺跡第3次調査の3区と5区の交点の北西側に位置する。
- ②調査の結果、VIIa層上面でV層上面から掘り込まれた挖立柱建物跡1棟と溝跡1条が検出された。
- ③挖立柱建物跡は、第3次調査検出のS B 7 挖立柱建物跡と同一の遺構で、その西部に当たる。この結果、この建物は東西・南北とも2間であることが明らかになった。
- ④溝跡は、V層検出の建物群の方向とは一致し、その西辺を区画する施設の可能性が考えられる。



第48図 SB 1 堀立柱建物平面図

⑤第3次調査ではⅦa 1層・Ⅶa 2層・Ⅶb層で水田跡が発見されているが、本調査区には水田が営まれた形跡を検出することができなかった。第3次調査区で検出されたS D28溝跡より北側の標高が高い地域は非耕作域であった可能性が考えられた。



第49図 第3次調査区VIIa'層水田跡と本調査区

（参考・引用文献）

平間亮輔他（1999）：「後河原遺跡 第3次・4次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第236集



1 VIIa層上面での遺構検出状況  
(南より)

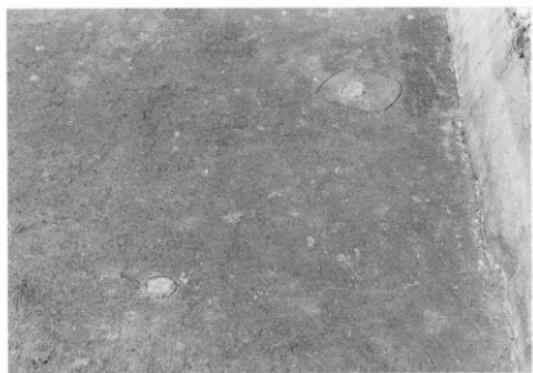


2 SD 1 溝跡土層断面 (南より)

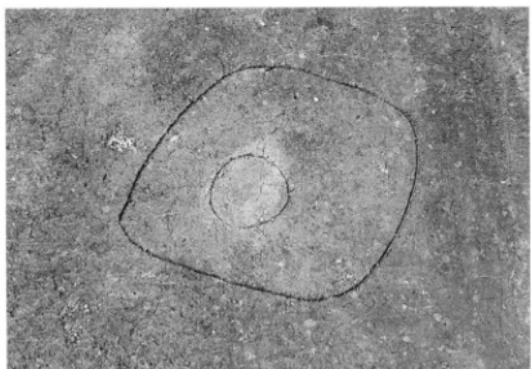


3 SD 1 溝跡完掘状況 (南より)

図版34 遺構検出状況とSD 1 溝跡



1 P1・P2検出状況（南より）



2 P2検出状況（南より）



3 P1・P2・P3完掘状況  
(南より)

図版35 SB 1 堀立柱建物跡

1 P3土層断面（西より）



2 P1土層断面（南より）



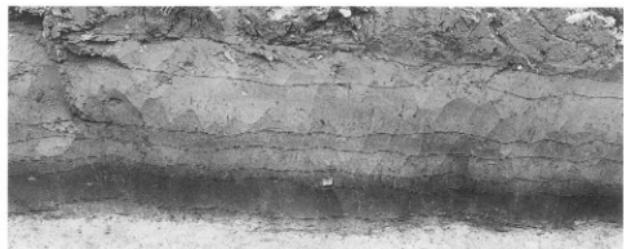
3 VIIa層上面全景（南より）



図版36 SB1 堀立柱建物跡の断面とVII層全景



1 南壁断面と下層調査  
トレンチ  
(北より)



2 南壁中央部 (北より)



3 東壁南半部とP4  
(西より)



4 北壁土層断面  
(南より)

図版37 基本層断面

# V 高田A遺跡 第5次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺 跡 名 高田A遺跡（宮城県遺跡番号01256）  
 調 査 地 点 仙台市若林区上飯田三丁目444、446-1、443-1  
 調 査 期 間 確認調査 平成16年6月23日～6月24日  
 本 調 査 平成16年9月1日～9月8日  
 調査対象面積 584.59m<sup>2</sup>  
 調査面積 192m<sup>2</sup>  
 調査原因 宅地造成に伴う道路建設  
 調査主体 仙台市教育委員会  
 調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係  
 担当職員 主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治

## 2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成16年6月3日付で、地権者である中川新市氏、中川浩伸氏より宅地造成計画の協議書が提出されたことにより実施した。開発地域は、遺跡登録範囲の東部とその隣接地にあたる。現道から宅地分譲地への計画道路敷設工事が実施されるため、南北道路部分に2本のトレンチ（1区・2区）と、東西道路に2本のトレンチ（3区・4区）を設定して平成16年6月23日～6月24日に確認調査を行なった。

その結果、東西道路の西端から約15mの範囲（4区）に遺物包含層及び溝跡が検出されたので、この部分を対象とした本調査を実施するに至った。



No	遺跡名	種類	立地	時代	No	遺跡名	種類	立地	時代
1	高田A遺跡	散在地	自然埋蔵	古代	7	今泉遺跡	集落跡・墓	自然埋蔵	縄文・近世
2	上飯田三丁目祓	祓	自然埋蔵	中世	8	慈志遺跡	散在地	自然埋蔵	古代
3	上里史遺跡	散在地	自然埋蔵	古墳・古代	9	下飯田遺跡	散落跡・墓	古墳・古代・中世	
4	田辺跡	城跡	自然埋蔵	中世	10	下飯田集落変遷跡	円満	溝跡	古墳
5	田辺跡	散在地	河川敷	古墳	11	高田所生遺跡	散落跡・墓	溝跡	先史・古墳・古代
6	高田B遺跡	散落跡	自然埋蔵	縄文・古墳					

第50図 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 3. 遺跡の位置と環境

高田A遺跡は、JR仙台駅の南東6km付近の若林区上飯田三丁目に所在する。調査地点は、仙台南部道路今泉インターチェンジより北西約800mのところに位置しており標高は4.5mである。仙台市街地南部の地形を見ると、東側にはいわゆる「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野がみられる。名取川と広瀬川は遺跡の西方約1.4m地点で合流し、遺跡の周囲には両河川によって形成された自然堤防と後背湿地が広がり、旧河道も観察される。遺跡は、その中の自然堤防を主として立地している。本遺跡では、平成5年に1次調査を、平成13年に2次・3次調査を、平成14年に4次調査を行っている。その結果、弥生時代から平安時代頃の河岸跡・溝跡・土坑・ピットなどが検出され、弥生土器・土師器・赤焼土器・須恵器・瓦・石製品などが出土している。今回の本調査区は自然堤防から後背湿地にかけて位置する。

本遺跡の南方約200mに位置する高田B遺跡は、弥生時代中期の遺構・遺物が主体をなし、さらに縄文時代後期の堅穴住居跡・中世の建物跡・溝跡・道路跡・中世から近世にかけての4時期の水田跡などが確認される複合遺跡であり、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・木製品などが出土している。特に高田B遺跡から出土した弥生土器は多種多様であり、編年研究においても貴重な資料となっている。

また本遺跡の東方約200mに位置する今泉遺跡は、中世から近世にかけての城館跡が遺跡の中心をなし、城館跡からは数多い中世の陶磁器や近世の陶磁器などが出土している。縄文時代後期から古墳時代にかけての遺構・遺物や平安時代の集落跡も確認されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡となっている。



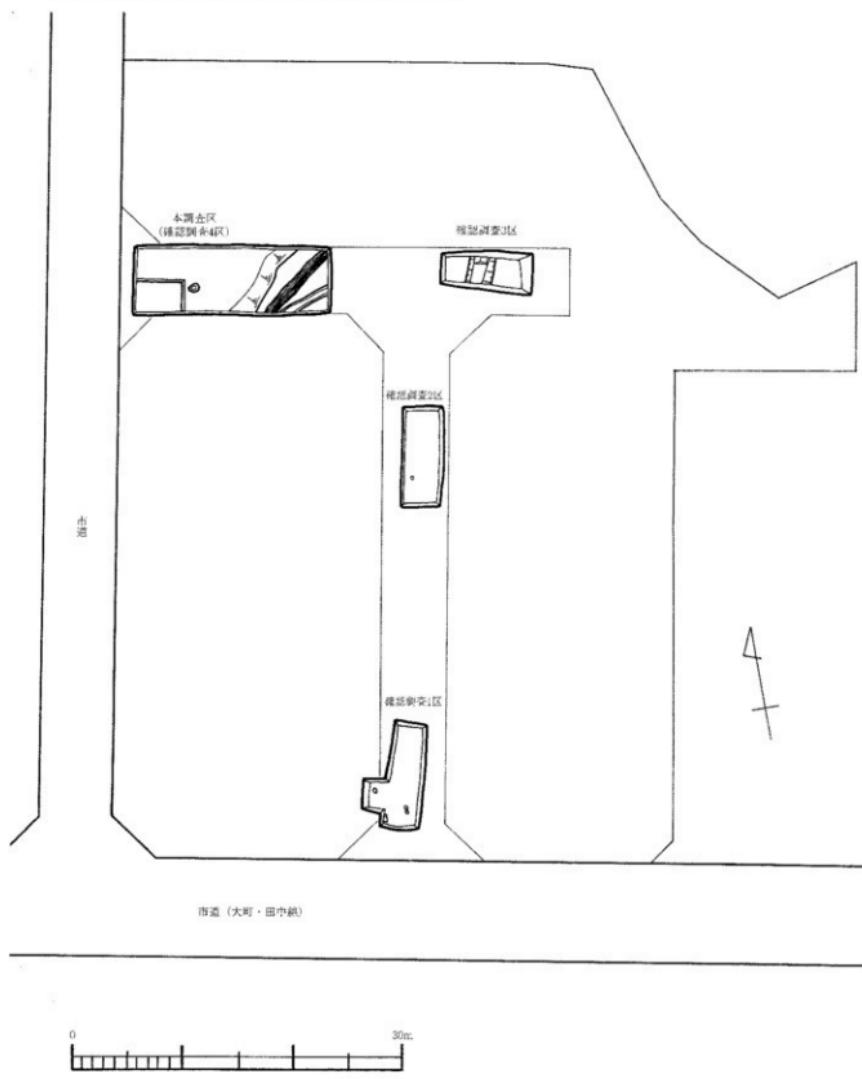
第51図 第5次調査区の位置

### 4. 基本層序

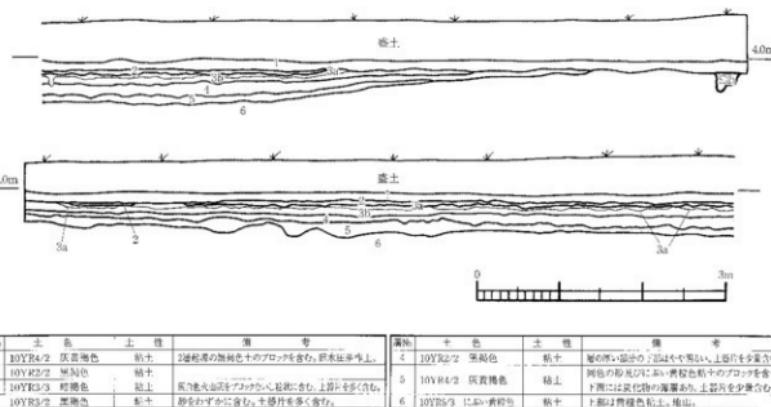
本調査区で確認した基本層は、1層・2層・3a層・3b層・4層・5層・6層の7層に分けられた。1層は、4次調査におけるⅠ層に相当する。2層～5層は、4次調査におけるⅡ層に相当する。6層は、4次調査におけるⅢ層に相当する。1層は2層起源の黒褐色土のブロックを含む灰黄褐色粘土層で旧水田耕作土である。2層は黒褐色粘土層である。3a層は灰白色火山灰をブロックないし粒状に含む暗褐色粘土層である。3b層は砂をわずかに含む黒褐色粘土層である。4層は下部がやや明るい黒褐色粘土層である。5層は同色の砂及びにぶい黄橙色粘土のブロックを含み下面に炭化物の薄層がある灰黄褐色粘土層である。6層は上部が黄橙色粘土のにぶい黄橙色粘土層である。

2～5層は自然堤防上からの流入土が堆積して形成されたと考えられる遺物包含層である。

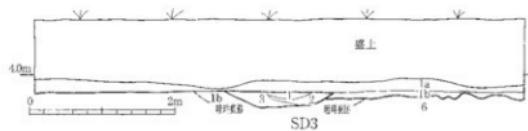
また確認調査3区では1層が1a層と1b層に細分された。



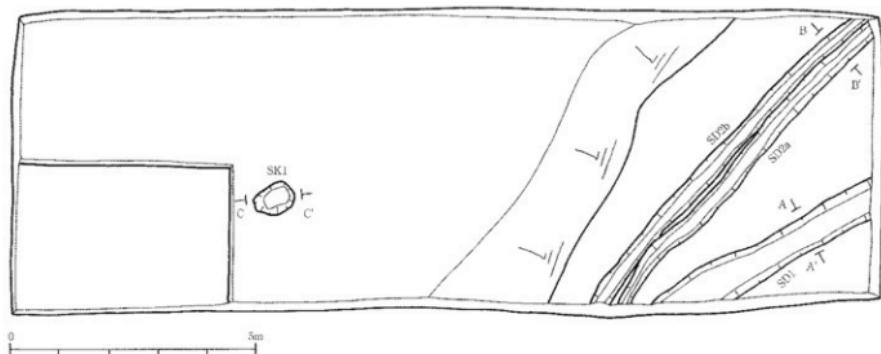
第52図 開発区域と調査区配置図



第53図 本調査区北壁断面



第54図 確認調査 3区北壁断面



第55図 本調査区平面図

## 5. 発見遺構と出土遺物

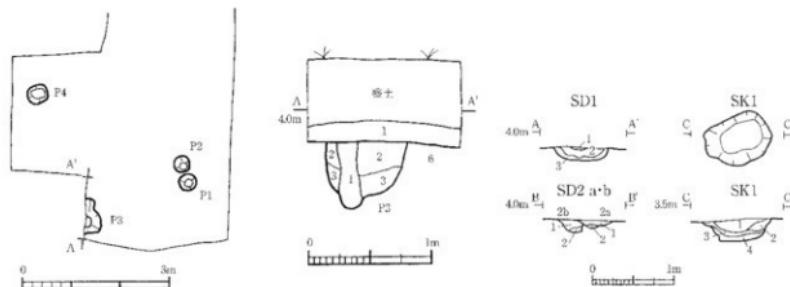
本調査区は東側の約3分の1が高く、西側の約3分の2が低くなっている。高低差は45cmほどであり、低くなっている西側に2~5層が流入して遺物包含層が形成されている。東側では、6層上面から溝跡2条が検出され、西側では、遺物包含層の下(6層上面)から土坑1基が検出された。

確認調査1区~3区も含めると、溝跡3条、土坑1基、ピット5基、遺物包含層が検出された。

### 1) 溝跡

S D 1 溝跡 本調査区東南端部の6層上面で検出した。上端幅約70cm、下端幅約50cm、深さは約15cmである。ほぼ東から西に延びており、断面形は舟底状である。底部の幅が広く、壁は急に立ち上がる。堆積土は3層に分けられ、1層には灰白色火山灰(「十和田a」915年降下)がブロック状で含まれている。遺物は非ロクロ土器器高坏(C-1)とロクロ土器器坏(D-1)のほか、土器器片が10数点出土している。堆積土や出土遺物から、この溝跡は平安時代頃の遺構と考えられる。

S D 2 溝跡 本調査の東半部の6層上面で検出した。北東方向の溝跡であり、精査した結果 S D 2 a溝跡と S D 2 b溝跡の新旧2条に分けられた。S D 2 a溝跡は S D 2 b溝跡より新しく、上端幅約40cm、下端幅約10cm、深さ約10cmである。断面形は底部の幅が狭い舟底状であり、壁は緩やかに立ち上がる。S D 2 b溝跡は S D 2 a溝跡より古く、検出部分の上端幅約35cm、下端幅約15cm、深さ約15cmである。断面形は不整な舟底状であり、北西の壁は緩やかに



#### 確認調査1区

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/4 に赤みを帯びる褐色	シート質粘土	泥炭質土
6	10YR5/5 黄褐色	シルト	砂地

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/3 細褐色	シート	青褐色土のブロックを多く含む。

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/3 細褐色	シート質粘土	青褐色土のブロックを多く含む。

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/3 細褐色	シート質粘土	青褐色土のブロックを多く含む。

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/3 細褐色	シート質粘土	青褐色土のブロックを多く含む。

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/3 細褐色	シート質粘土	青褐色土のブロックを多く含む。

番号	土色	土性	備考
1	10YR5/3 細褐色	シート質粘土	青褐色土のブロックを多く含む。

#### SD1

番号	土色	土性	備考
1	10YR3/3 灰褐色	粘土	灰白色火山灰をブロック状に含む。
2	10YR3/2 黄褐色	粘土	
3	10YR3/3 灰褐色	粘土	青褐色粘土中に細い青褐色土のブロックを多く含む。

#### SD2a

番号	土色	土性	備考
-	10YR4/2 黄褐色	粘土	部分的に黄褐色粘土のブロックを含む。
2	10YR5/6 黄褐色	粘土	青褐色粘土の小ブロックを多量に含む。

#### SD2b

番号	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黄褐色	粘土	黄褐色粘土のブロックを多量に含む。
2	10YR5/6 黄褐色	粘土	青褐色粘土の小ブロックを多量に含む。

#### SK1

番号	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黄褐色	粘土	黑色泥土をせきだに含む。
2	10YR3/2 黄褐色	粘土	黒色泥土に青褐色土のカツラを含む。土中に黑色物を含む。

番号	土色	土性	備考
3	10YR3/2 黄褐色	粘土	青褐色土を含む。
4	10YR3/2 黄褐色	粘土	青褐色土を含む。

#### 確認調査2区

番号	土色	土性	備考
1	10YR3/3 灰褐色	粘土質シルト	青褐色土のブロックを多く含む。

第56図 遺構実測図

立ち上がり、南東の壁は急に立ち上がる。SD 2a溝跡・SD 2b溝跡ともに堆積土は2層に分けられ、それぞれ土師器片が10数点出土している。溝跡の年代を確定することはできなかった。

SD 3溝跡 確認調査3区のほぼ中央で検出した南北方向の溝跡である。上端幅約140cm、下端幅約70cm、深さは約20cmである。断面形は舟底状である。堆積土は3層に分けられ、遺物は出土していない。耕地整備前の水田耕作土と思われる1b層上面で検出されていることから、近年の水路跡であると考えられる。

## 2) 土坑

SK 1 土坑 本調査区の中央部や西寄り、遺物包含層である5層を除去した6層上面で検出された。平面形は楕円形を呈し、長軸（東西）約80cm、短軸（南北）約60cm、深さ約25cmである。断面形は不整な舟底状で、底部の幅が広く、壁はやや急に立ち上がる。堆積土は4層に分けられ、遺物は出土していない。

## 3) ピット

確認調査1区で4基、確認調査2区で1基の計5基を検出した。P 3を除くピットの平面形は円形を基調とし、大きさは直径30~40cm、深さ20~25cmほどである。P 2からクロコ土師器片が出土している。柱痕跡が確認されたのはP 3のみである。P 3は確認調査1区の南部西壁沿いで検出した。南北に長い不整な椭円形を呈し、柱痕跡の直径は15~20cmである。P 3の北西部を拡張して、建物跡のびを追跡したが、北西や北東方向にのびていないことから、建物は南西方向に展開するものと考えられる。年代は明らかでない。

## 4) 遺物包含層

遺物包含層は深さ45cmの凹地に形成されており、5層（2・3a・3b・4・5層）に細分された。

2層は層厚が5~10cmほどで、磨耗した土師器片が6点と須恵器片が4点出土している。

3a層は層厚が5~10cmほどで、灰白色火山灰（「十和田」915年降下）が斑状に含まれている。3b層は層厚が10~15cmほどである。ロクロ土師器壺（D-2・3）、須恵器壺（E-2）、須恵器甕（E-3・4）のほか、磨耗した土師器片や須恵器片が合わせて100点近く出土している。このうちロクロ土師器壺（D-2・3）は切り離し不明であるが、須恵器壺（E-2）は底部が回転糸切りされている。堆積土や出土遺物から平安時代頃に堆積した層と考えられる。

4層は層厚が10~20cmほどで、数十点の磨耗した土師器片が出土している。土師器にロクロを使用したものが混じっていないことから平安時代よりも古い層であると考えられる。

5層は層厚が10~20cmほどで、石製模造品（K-1）、土鍤（P-1）のほか、数十点の磨耗した非ロクロ土師器片が出土している。出土遺物から古墳時代中期以降の層と考えられる。

なお包含層から出土した遺物は、全て小片散在的で、土師器は摩滅・風化が進んでいることから、低地部への流入土中に混じった2次的な堆積物と考えられた。

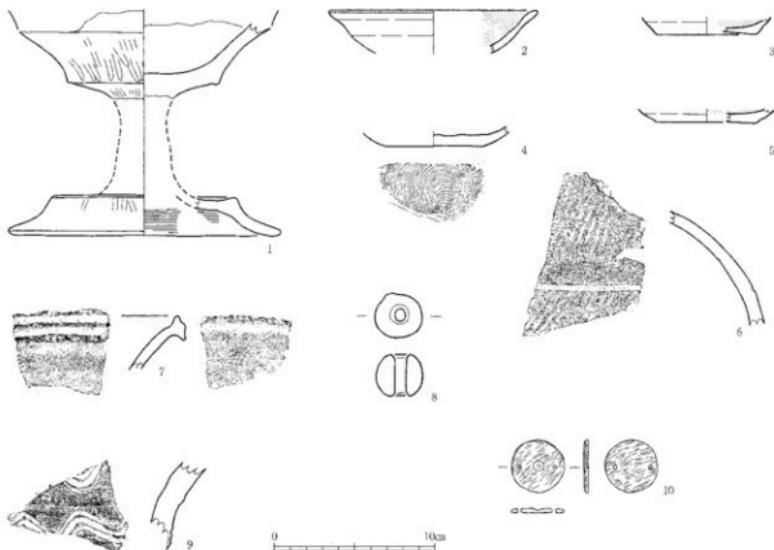
## 5) その他の出土遺物

本調査区の1層からは、須恵器甕（E-1）のほか、数十点の磨耗した土師器片、須恵器片が出土している。

## 6.まとめ

① 今回の調査では、溝跡4条（SD 1・2a・2b・3）、土坑1基（SK 1）、ピット5基（P 1~5）が検出され、本調査区からは遺物包含層が検出された。

- ② SD 1 溝跡は上部に灰白色火山灰が認められること、ロクロ土師器が出土していることなどから平安時代頃の遺構と考えられる。
- ③ SD 2 a・b 溝跡は土師器片が数点出土しているが、時期は不明である。
- ④ SD 3 溝跡は新しい遺構で、耕地整理前の水田の水路であると考えられる。
- ⑤ SK 1 土坑は基本層5層の下面から検出されており、古墳時代中期には存在したと考えられる。
- ⑥ P 1～5は、P 2からロクロ土師器片が出土しているが、それぞれ時期は明らかでない。
- ⑦ 包含層の年代は出土遺物等から2層が平安時代以降、3a・3b層が平安時代、4・5層が古墳時代頃と考えられる。



図中 番号	登録 番号	出土地名	分類	状 態	特 徴				資料 参考	写真 図版 No.
					石器	土器	骨	貝		
1	C-1	本興寺区	石器	SD1 2層	土師器 蓋	安積 (14.0) (14.0)	—	—	17.0	井筒外周ヘアリ内面ハガキ(セイセイカツラ)レリ共通Wリナ 内面黒色處理
2	D-1	木賀寺区	—	SD1 2層	土師器 片	2.7 (1.0)	—	—	—	—
3	D-2	木賀寺区	3層	土師器 片	—	(1.0)	—	—	6.0	内面黒色處理、内外面、切り削し不規
4	E-2	木賀寺区	3層	土師器 片	—	(1.0)	—	—	—	—
5	D-2	木賀寺区	3層	土師器 片	—	(0.9)	—	—	—	—
6	L-4	本興寺区	3層	土師器 片	—	—	—	—	—	—
7	E-1	木賀寺区	1層	土師器 片	—	—	—	—	—	40-6
8	F-1	本興寺区	3層	土師器 片	—	—	—	—	—	40-2
9	E-2	木賀寺区	3層	土師器 片	—	—	—	—	—	40-5
10	K-1	本興寺区	3層	—	—	—	—	—	—	40-3

第57図 出土遺物

## (引用・参考文献)

渡部弘美他 (1994) :「高田A遺跡」『年報15』仙台市文化財調査報告書第189集

渡部紀他 (2002) :「高田A遺跡(第2・3次調査)」「小鶴城跡ほか発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第261集

豊村幸宏他 (2003) :「高田A遺跡第4次調査」「圓分寺東遺跡他発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第266集



1 本調査区全景（東より）

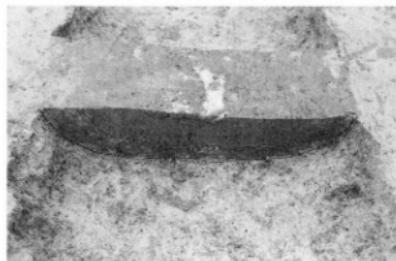


2 本調査区全景（南より）



3 本調査区北壁土層断面

図版38 本調査区全景・土層断面



1 SD 1 溝跡断面（南より）



2 SD 2a・2b溝跡断面（南より）



3 SK 1 土坑断面（南より）



4 確認調査1区南半部（東より）



5 P 3 断面（東より）



6 確認調査2区全景（南より）

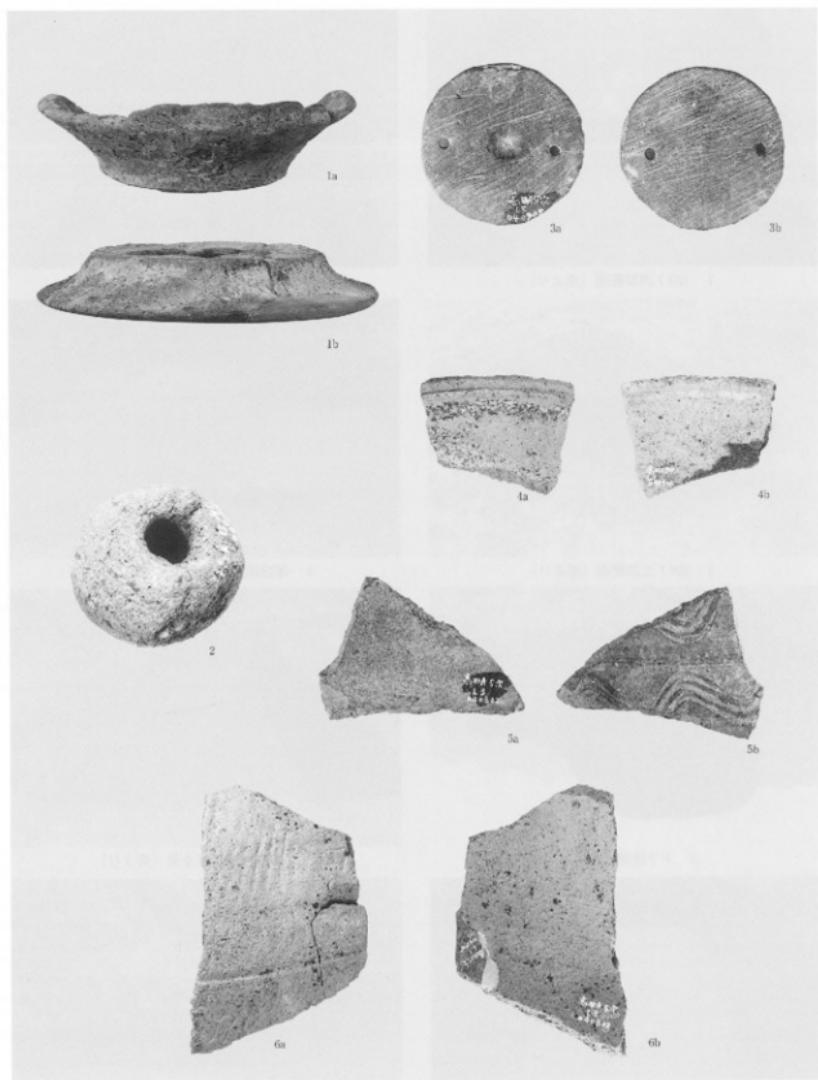


7 確認調査3区全景（東より）



8 SD 3 溝跡断面（南より）

図版39 検出遺構・確認調査区



1 G-1 土器器 高环 SD1 2层 (第3781)  
 2 F-1 土器品 土块 本调查区 5层 (第3788)  
 3 K-1 石质器皿 扁板 本调查区 5层 (第3786)

4 E-1 陶器器 壶 本调查区 1层 (第3787)  
 5 E-3 陶器器 壶 本调查区 2层 (第3789)  
 6 E-4 陶器器 壶 本调查区 3层 (第3796)

図版40 出土遺物

# VI 鴻ノ巣遺跡 第8次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺跡名	鴻ノ巣遺跡（宮城県遺跡番号01034）
調査地点	仙台市宮城野区岩切三所南163
調査期間	平成16年6月29日
調査対象面積	88m <sup>2</sup>
調査面積	18m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治

## 2. 調査に至る経過と調査方法

本調査は、平成16年6月7日付けで、地権者石森公夫氏より、杭打ちを伴う基礎工法の住宅建築に伴う発掘届が提出されたので、確認調査を実施し、そのうえで必要な場合は本調査を実施する旨を回答した。確認調査は、平成16年6月29日に実施した。建物予定地に3m×6mのトレーニングを設定して調査を行なったところ、調査区内から多数の土器片が出土したため、引き続き本調査を実施した。敷地の制約があったため、調査区の拡張は行なわず、当初設定したトレーニングのみを掘下げて調査を終了した。



第58図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第59図 調査区の位置

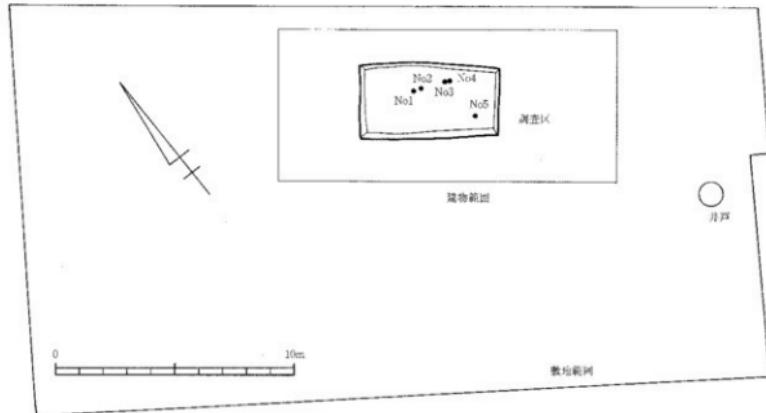
No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	鴻ノ巣遺跡	集落	自然報道	古墳・古代・中世
2	新宿子遺跡	居住地	自然報道	古墳
3	東光寺遺跡	城郭・寺院	丘陵	中世
4	東光寺空手跡	城跡	丘陵	中世
5	岩切遺跡	居住地	自然報道	中世

No.	遺跡名	種別	立地	時代
6	羽黒山遺跡	居住地	丘陵	中世・近世
7	今市遺跡	居住地	自然報道	古代・中世・近世
8	田ノ口遺跡	城跡	自然報道	古墳・古代・近世
9	伊達遺跡	居住地	自然報道	古墳・古代・中世

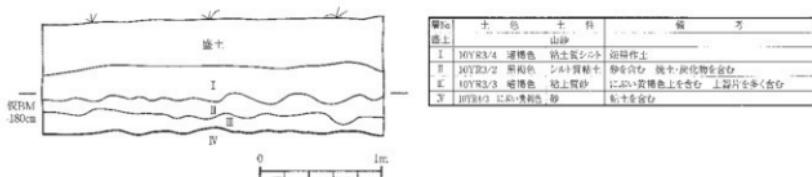
### 3. 遺跡の位置と環境

鴻ノ巣遺跡は、仙台市北西部のJR岩切駅の南西0.5kmに位置し、仙台市北部を流れる七北田川右岸に形成された標高8m前後の自然堤防に立地する。遺跡の北東近くには、宮谷丘陵の東端が迫り、平野部と丘陵部の境界付近に当たる。南西側は緩やかに下がって広大な後背湿地へと移行する。

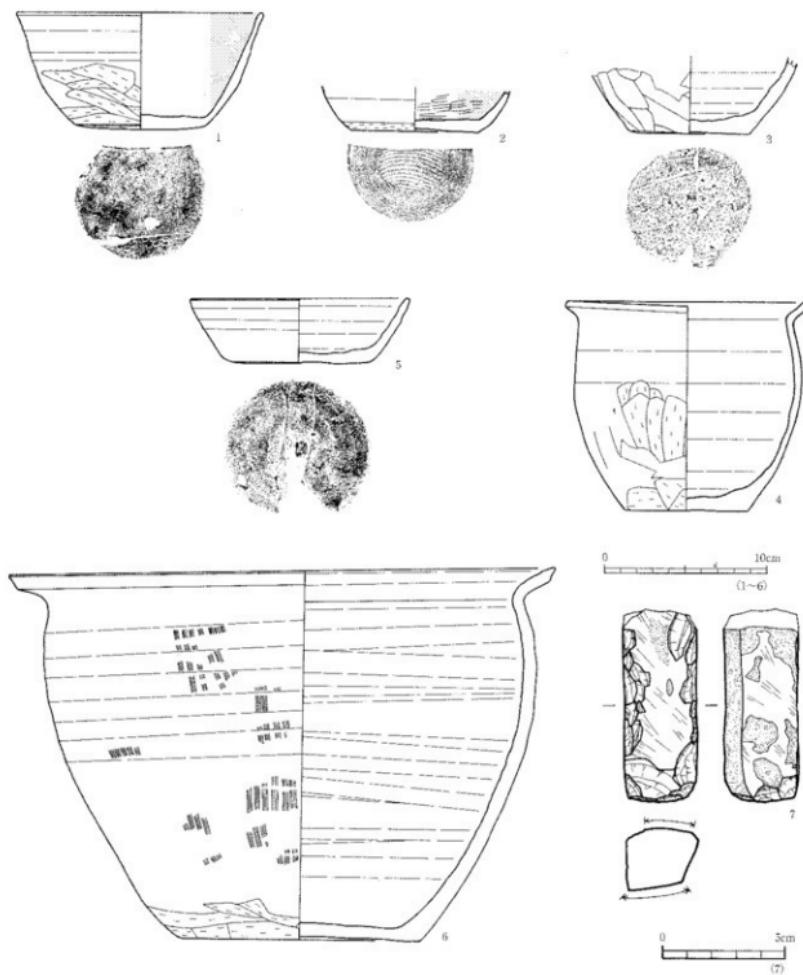
周辺の沖積地は、縄文時代の遺跡は明らかでないが、弥生時代中期になると多賀城市山王遺跡で水出跡が発見され、この頃から歴史の舞台に登場する。古墳時代前期になると山王遺跡に方形周溝墓が形成され、鴻ノ巣遺跡や今市遺跡でも遺物が発見されるようになる。古墳時代中期には鴻ノ巣遺跡に大規模な集落が形成され、第7次調査では、柵列とその外側を巡る溝に囲まれている集落の一部が確認されている。古墳時代後期から終末期にかけては、山王遺跡に集落が形成され、新田遺跡では祭祀に関係すると考えられる200個体以上の土器がまとめて出土した遺構が発見されている。鴻ノ巣遺跡でも同期の土器が約60個まとめて出土している。奈良時代になると、遺跡の北東約3kmの低丘陵に多賀城が造営される。以後周辺地域は陸奥国の中心として栄え、多賀城南面の七北田川左岸の新田遺跡・山王遺跡・市川橋遺跡には計画的な土地地割と道路が整備され、都市的な空間が出現し、集落はじめ多くの遺構が形成される。奈良時代から平安時代にかけては、鴻ノ巣遺跡や、今市遺跡にも集落が形成されるが、七北田川左岸地域と比較すると遺構はまばらで閑散としている。中世になると北西の丘陵に国史跡となっている岩切城が築かれ、対岸の洞ノ口遺跡にも城館が形成される。また、岩切城のある丘陵の裾部には中世の東光寺が建立され、靈場として信仰を集め、周辺には多くの板碑や石窟仏が祀られている。中世の岩切は、古代以来の東



第60図 調査区配置と遺物出土地点



第61図 調査区西壁断面図



番号	器種	所十文古 基本名	遺構名	施上部	分類	直 径 (cm)	特 徴	外 形 ・ 施 工		
								器種	内面-色 色地	
1	D-2	口縁		No.2	口上土器	5.7	L/H=2.5	8.0	底部-内側 内面-褐色地	(測量-直角-均等-分岐)
2	D-1	口縁			口下土器	2.7		7.8	底付-内側-灰褐色	
3	D-3	口縁		No.3	口下土器	4.9		7.4	外側-ナラ	
4	D-4	口縁		No.4	口上土器	13.1	L/H=1.5	7.5	外側-コロ-ナラ	
5	E-1	口縁			口下土器	4.1	13.5	8.6	底部-内側-白切込	41-3 (1-2)
6	R-2	口縁		No.1	底盤	23.5	39.6	14.6	外側-コロ-ナラ-底 底盤付-内側-白	41-1 (1-4)
7	K-1	口縁			底盤	7.9	3.0	2.5	底盤付-内側-白	

第62図 鴻ノ巣遺跡出土遺物

街道と七北田川の水上交通路との交点としても栄え、中世の文書には、このあたりに「冠屋市場」と「河原宿五日市場」の二つの「市」があったと記載されており、鴻ノ巣遺跡はこのどちらかにあたると考えられている。鴻ノ巣遺跡のこれまでの調査では、市の存在を証明するだけの遺構は発見されていないが、屋敷を区画する溝跡や掘立柱建物跡・井戸跡など多数の遺構や多くの遺物が発見され、この時期の繁栄を示している。

#### 4. 基本層序

約40cmの盛土層があり、I層は層厚20~30cmの暗褐色の粘土質シルト層で、近年の畑の耕作土である。その下のII層は層厚10~20cmの黒褐色シルト質粘土層で、砂や炭化物・焼土を含む。III層は層厚が10~20cmの暗褐色の粘土質砂層で、土器片を多く含む。いわゆる遺物包含層である。IV層はにぶい黄褐色の砂層で地山となっている。調査日の前日に降雨があったせいもあり、III層の掘削時に地下水がにじみ出し、IV層面では全面から湧水を生じた。全体的に、地下水位が高い土地であると判断される。

#### 5. 発見遺構と出土遺物

III層が遺物包含層で、多数の土器片と共に、数個体分の土師器と須恵器がまとめて出土した。これらの遺物に伴う遺構は確認されず、またIII層を除去したIV層上面でも遺構は検出されなかった。

##### III層遺物包含層

遺物包含層の層厚は10~20cmで、出土した土器は土師器と須恵器である。全体的に上器片が出土する他、3ヵ所で1~数個体分の上器がまとめて出土している。まとまって出土した土器も全体が復元できるものではなく、一部が欠損する個体ないし部分的な破片であった。層中に散在する破片については、2次的な堆積物、まとまって出土した破片については、その場に投棄された遺物である可能性が考えられる。

土師器は、ロクロ使用以前のものとロクロを使用したものとが混在しているが、ロクロ使用以前のものはいずれも壊滅した小破片である。まとまった状態で出土した個体は、いずれもロクロを使用した段階のもので平安時代の遺物と考えられる。壺1個体（第62図1）、甕2個体（第62図3・4）がある。壺の底部は底部と体部下半が手持ちヘラケズリ調整されている。土師器甕は、いずれも小型のものである。須恵器は、甕が1個体（第62図6）ある。体部と口縁部の境がわずかに括れ、口縁が強く外反する。器高の割に広口のものである。ロクロ土師器と同期頃と考えられる。

#### 6.まとめ

①本調査区は、鴻ノ巣遺跡の西端部の中央付近に位置する。

②基本層III層は、土師器と須恵器などからなる遺物包含層で、出土した土器のうち一括で出土した破片はいずれも平安時代のものと考えられることから、この包含層の形成年代も平安時代と判断される。

##### 参考文献

仙台市教育委員会（2004）：「鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第280集



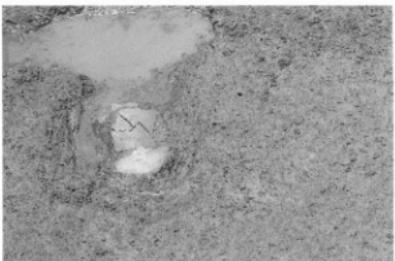
1 III層検出状況（東より）



2 土器出土状況 1 : No. 1・2 (東より)



3 土器出土状況 2 : No. 3・4 (東より)



4 土器出土状況 3 : No. 5 (東より)



5 西壁土層断面 (東より)



6 IV層上面検出状況 (東より)



7 出土遺物

- 1 E-2 瓢箪形 壺  
2 E-1 瓢箪形 环  
（第62図6）  
（第62図5）

- 3 D-4 土師器 壺  
4 K-1 石製品 砕石  
（第62図4）  
（第62図7）

図版41 調査状況と出土遺物



# VII 洞ノ口遺跡 第11次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺跡名 洞ノ口遺跡（宮城県遺跡番号01372）  
 調査地点 仙台市宮城野区岩切字小見1番2他  
 調査期間 平成16年7月21日～8月3日  
 調査対象面積 3,572m<sup>2</sup>  
 調査面積 403m<sup>2</sup>  
 調査原因 店舗建設  
 調査主体 仙台市教育委員会  
 調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係  
 担当職員 主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治

## 2. 調査に至る経過と調査方法

本調査は、平成16年7月1日付けで、仙台市岩切駅東土地区画整理組合理事長 加藤久雄氏より店舗建設工事に伴う発掘届が提出されたことにより実施した。第3次調査1区で検出されたSD7溝跡と、第1次調査8・9区で検出されたSD1001溝跡のび・方向を確認することを目的とした。店舗建築予定地の中央よりやや北側（A棟か

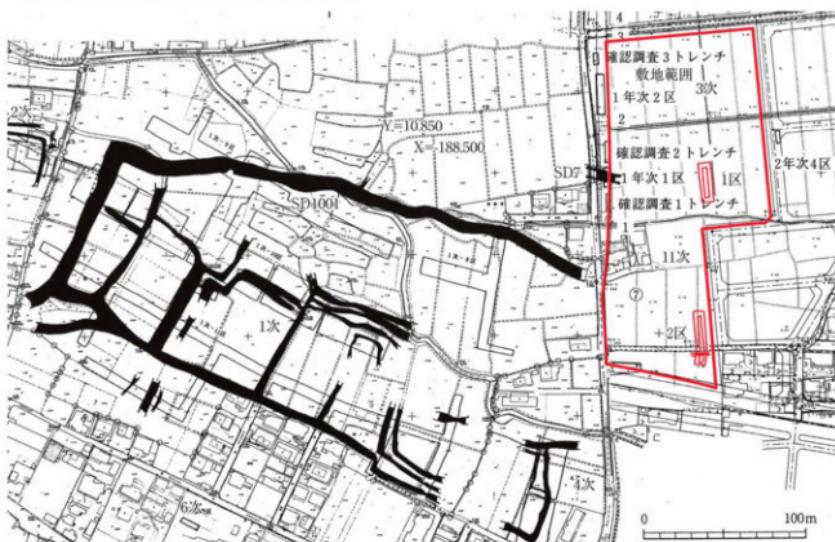


No	遺跡名	種別	立地	時代
1	前川11遺跡	城郭	自然地形	古墳・古代～近世
2	羽切遺跡	城郭	丘陵	中世
3	新田門遺跡	包含地	自然地形	古代
4	東光寺経跡	板塁	丘陵	中世
5	東光寺遺跡	城郭	丘陵	中世
6	若宮南遺跡	包含地	丘陵	國文・古代～近世
7	羽切曲道跡	包含地	丘陵	中世・近世
8	仁野坂遺跡	城郭	丘陵	中世

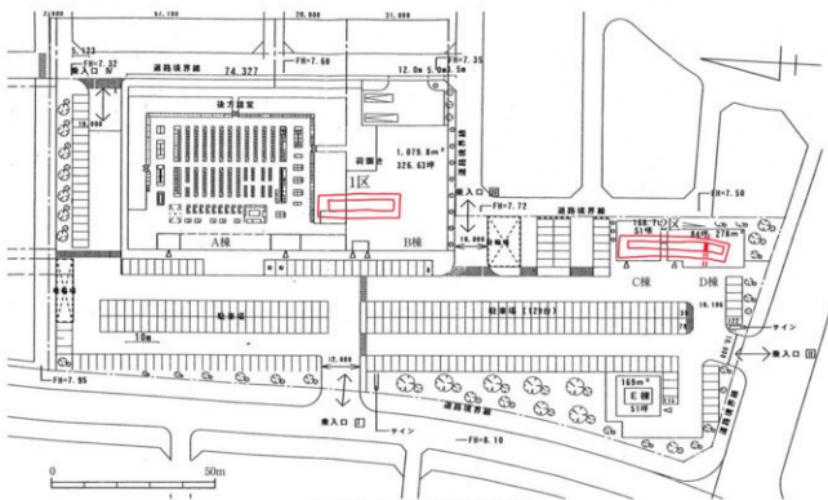
No	遺跡名	種別	立地	時代
9	今市遺跡	集落	自然地形	古代・中世・近世
10	渡ノ里遺跡	聚落	自然地形	古墳・古代・中世
11	新田遺跡	聚落	自然地形	古墳・古代・中世
12	山王遺跡	集落	自然地形	孫生・古墳・古代
13	当川性遺跡	官街開通跡	自然地形	國文・中世
14	加瀬庄跡	包含地	丘陵地	國文・古墳
15	多賀城跡	官街	丘陵	古墳・中世

第63図 遺跡の位置と周辺の遺跡

らB棟にかけて)の箇所には第3次調査1区で検出されたSD7溝跡の延長を確認するための1区を設定し、店舗建築予定地のはば南端(C棟からD棟にかけて)の箇所には第1次調査8・9区で検出されたSD1001溝跡の延長を確認するための2区を設定し調査を行なった。



第64図 洞ノ口遺跡の堀跡と第11次調査区の位置



第65図 計画建物と調査区配置

### 3. 遺跡の位置と環境

洞ノ口遺跡は、仙台市北西部のJR岩切駅の北約500mに位置する遺跡であり、七北田川の左岸の自然堤防並びにその後背湿地に立地している。標高は5m~8mで、七北田川沿いが高く北東に向かって徐々に低くなっている。

本遺跡周辺には、弥生時代以降の遺跡が数多く分布しており、そのほとんどは七北田川両岸の丘陵面と自然堤防上に集中している。古代の陸奥国府であった多賀城が本遺跡の東方に位置しており、岩切から多賀城跡にかけての自然堤防上には、新田遺跡・山上遺跡・市川橋遺跡などの弥生時代から中世にかけての遺跡が分布している。また本遺跡付近には中世に「たかのこう（多賀の国府）」があったという説もあり、七北田川の右岸には「国府の津」に由来するとも言われる鴻ノ果遺跡や今市遺跡、左岸には史跡岩切城跡・東光寺遺跡・若宮前遺跡など多くの遺跡が分布している。

### 4. 基本層序

1区では大別9層・細別12層、2区では大別13層・細別25層に分けられた。

#### 1) 1区の基本層序

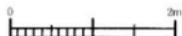
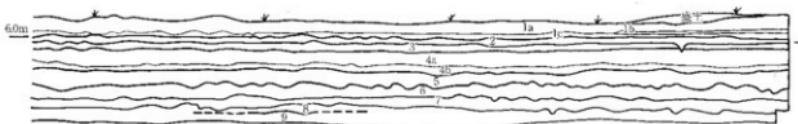
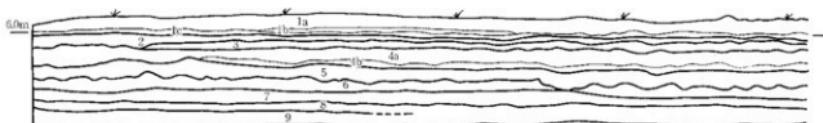
1a層：オリーブ黒色シルト質粘土。旧水田耕作土。

1b層：黒褐色シルト質粘土。酸化鉄を粒状に含む。旧水田耕作土下部。

1c層：暗灰黄色粘土。1層水田による2層上面の酸化鉄が集積する層。

2層：灰黄褐色粘土。水田耕作土と思われる。

3層：灰黄褐色粘土。2層よりやや暗い。上面に酸化鉄が集積する。水田耕作土と思われる。



層No.	土 色	上 質	備 考
1a	5Y3/3 オリーブ黒色	シルト質粘土	旧水田耕作土。
1b	2.5Y3/1 黒褐色	シルト質粘土	酸化鉄を粒状に含む。旧水田耕作土下部。
1c	10YB4/2 磁赤褐色	粘土	1層水田による2層上面の酸化鉄集積層。
2	10YR4/2 磁赤褐色	粘土	水田耕作土。
3	10YR1/2 磁赤褐色	粘土	2層よりやや暗い。上面に酸化鉄集積。水田耕作土。
4a	10YR4/2 磁黄褐色	粘土	マンガ付根・酸化鉄粒を多く含む。上面に酸化鉄集積。水田耕作土上部がややくぼむ。下部に泥化食害層。

層No.	土 色	上 質	備 考
4b	7.5Y3/4/4 褐色	粘土	酸化鉄集積層。
5	10YR4/1 磁灰色	粘土	黒褐色土をまだらに含む。下部に灰白色尖山灰のブロックを部分的に含む。水田耕作土。
6	2.5Y3/1 磁オリーブ黒色	粘土	酸化鉄を含む。
7	10YR1/7/1 黑色	粘土	粘性強い。植物遺体を含む。
8	5GY7/1 磁オリーブ黒色	シルト質粘土	植物遺体を少含む。
9	N15/0 黑色	粘土	粘性強い。

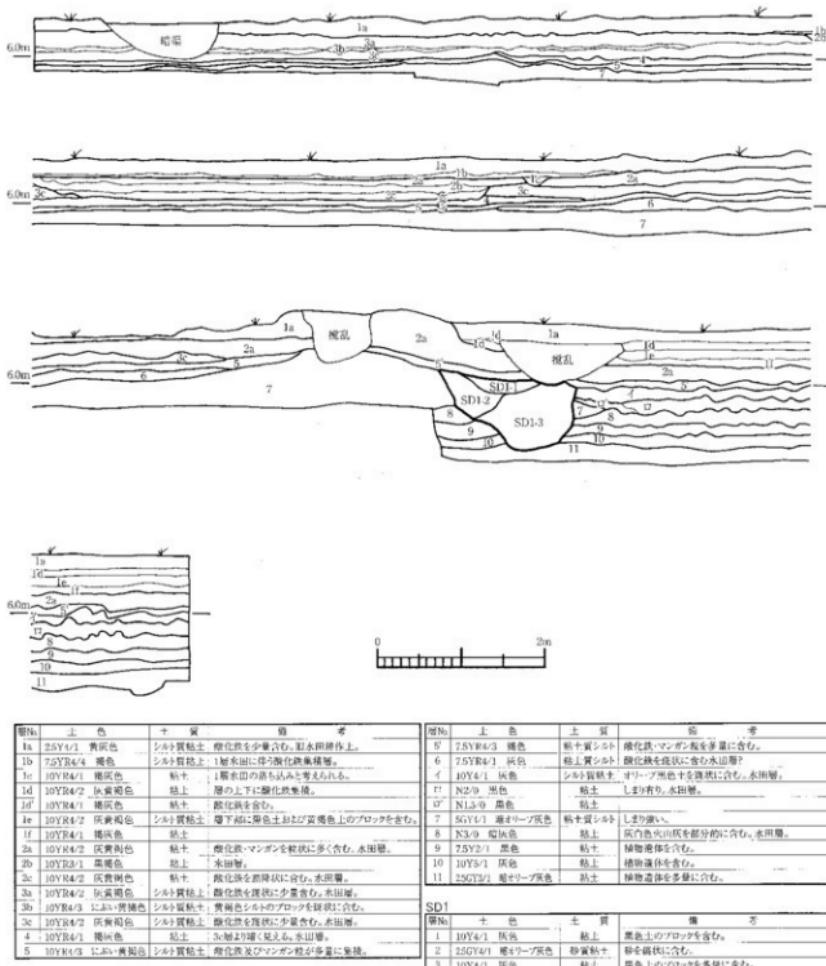
第66図 1区西壁断面

- 4 a 層：灰黄褐色粘土。マンガン粒および酸化鉄粒を多量に含む。上部に酸化鉄が集積する。水田耕作土と思われる。上部がやや明るく上下 2 層に細分することも可能である。
- 4 b 層：褐色粘土。酸化鉄が集積する層。
- 5 層：褐灰色粘土。黒褐色土をまだらに含む。下部に灰白色火山灰のブロックを部分的に含む。水田耕作土と思われる。
- 6 層：暗オリーブ灰色粘土。
- 7 層：黒色粘土。粘性強い。植物遺体を含む。
- 8 層：暗オリーブ灰色シルト質粘土。植物遺体を少量含む。
- 9 層：黒色粘土。粘性強い。

## 2) 2 区の基本層序

- 1 a 層：黄灰色シルト質粘土。酸化鉄を少量含む。旧水田耕作土。
- 1 b 層：褐色シルト質粘土。1 層水田に伴う酸化鉄が集積する層。
- 1 c 層：褐灰色粘土。1 層水田の落ち込みと考えられる。
- 1 d 層：灰黄褐色粘土。層の上下に酸化鉄が集積する。
- 1 d' 層：褐灰色粘土。酸化鉄を含む。
- 1 e 層：灰黄褐色シルト質粘土。層下部に黒色土および黄褐色土のブロックを含む。
- 1 f 層：褐灰色粘土。
- 2 a 層：灰黄褐色粘土。酸化鉄およびマンガンを粒状に多く含む。水田層。
- 2 b 層：黒褐色粘土。水田層。
- 2 c 層：灰黄褐色粘土。酸化鉄を霜降状に含む。水田層。
- 3 a 層：灰黄褐色シルト質粘土。酸化鉄を斑状に少量含む。水田層。
- 3 b 層：にぶい黄褐色シルト質粘土。黄褐色シルトのブロックを斑状に含む。
- 3 c 層：灰黄褐色シルト質粘土。酸化鉄を斑状に少量含む。水田層。
- 4 層：褐灰色粘土。3 c 層より暗く見える。水田層。
- 5 層：にぶい黄褐色シルト質粘土。酸化鉄およびマンガン粒が多量に集積する。
- 5' 層：褐色粘土質シルト。酸化鉄およびマンガン粒を多量に含む。
- 6 層：灰色粘土質シルト。酸化鉄を斑状に含む。水田層と思われる。
- イ 層：灰色シルト質粘土。オリーブ黒色土を斑状に含む。水田層。
- ロ 層：黒色粘土。しまり有り。水田層。
- ロ' 層：黑色粘土。
- 7 層：暗オリーブ灰色粘土質シルト。しまり強い。
- 8 層：暗灰色粘土。灰白色火山灰を部分的に含む。水田層。
- 9 層：黑色粘土。植物遺体を含む。
- 10 層：灰色粘土。植物遺体を含む。
- 11 層：暗オリーブ灰色粘土。植物遺体を多量に含む。

調査区が後背湿地に位置する 1 区と自然堤防に近い 2 区との 2ヶ所に離れているため、土性・土色等に違いが見られる。自然堤防に近い 2 区は 1 区よりも層が厚く堆積しており、多くの層に分けることができた。

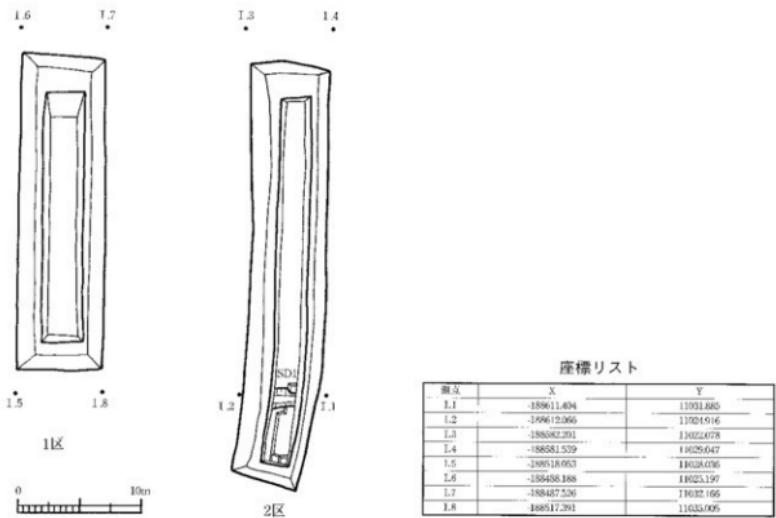


第67図 2区東壁およびSD1溝断面

## 5. 発見遺構と出土遺物

### 1) 1区

遺構・遺物は検出されなかった。



第68図 1区・2区平面図

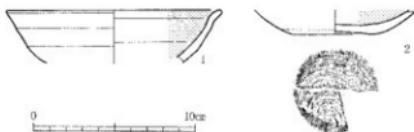
## 2) 2区

溝跡が1条検出されている。

S D 1 溝跡 調査区の南部で検出した。基本層8層（灰白色火山灰を含む）の上部に位置する5'層上面で検出されている。8層に灰白色火山灰（「十和田a」915年降下）が含まれていることから、この溝跡は平安時代以降に掘削されたものと考えられる。上端幅約150cm、底面幅約60cm、深さは約80cmである。ほぼ東から西に延びており、断面形は舟底状である。堆積土は3層に分けられ、遺物は出土していない。

## 3) 出土遺物

2区の8層中からロクロ土師器坏片（D-1・2）が出土している。



図中 番号	登録 番号	出土地点			分類	基盤	特徴・諸芳	写真 図版
		出土地区	基本層	遺構名			(調整・重量・素材・実施・時期)	
1	D-1	2区	8層	—	七脚器	环	G3.0 (13.9) — 内外削コリ後、内面黒色处理	1
2	D-2	2区	8層	—	土器器	环	(L3) — 5.1 内外削コロ後、背面黒色处理、内面削き、底部切毛系切り	2

第69図 出土遺物

#### 4) 基本層序の対応

本調査各区の層の対応および3次調査との対応を試み、まとめたのが以下の表である。

本 調 査		3 次 調 査	
1区	2区	層序	時期・特徴など
1a層	1a層	I 層	現代・昔歴など
2 層	2a～2c層	II 層	現代の水田層
3 層	3aまたは3c層	III 層	古代の水田層
4a層	4または4層	IV 層	中世の水田層
5 層	6層	V 層	古代の水田層

#### 6.まとめ

- ① 今回の調査では、1区からは遺構・遺物が検出されず、2区から溝跡1条（SD1）が検出された。
- ② 1区から溝跡が検出されなかつことにより、第3次調査1区で検出されたSD7溝跡は直線的に東の方向にはのびずに、方向を変えていることが考えられる。
- ③ 2区で検出されたSD1溝跡は幅1.5mほどであり、第1次調査8・9区で検出されたSD1001溝跡が幅7～8mの規模であることから、これとは関連が薄いものと考えられる。SD1001溝跡も、検出部の東端から本調査区までの約80mの間に方向を変えていることが推定される。

#### 〈引用・参考文献〉

主浜光朗他（2001）：「洞ノ口遺跡（第3・6次調査）」『八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第253集

吉岡恭平他（2002）：「洞ノ口遺跡（第8次調査）」『小幡城跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第261集



1 1区全景（南より）

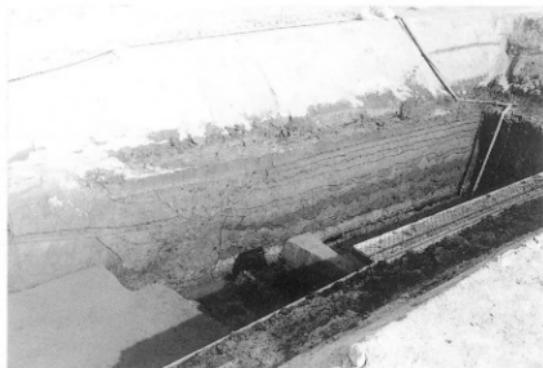


2 1区西壁断面（南端部）



3 2区全景（北より）

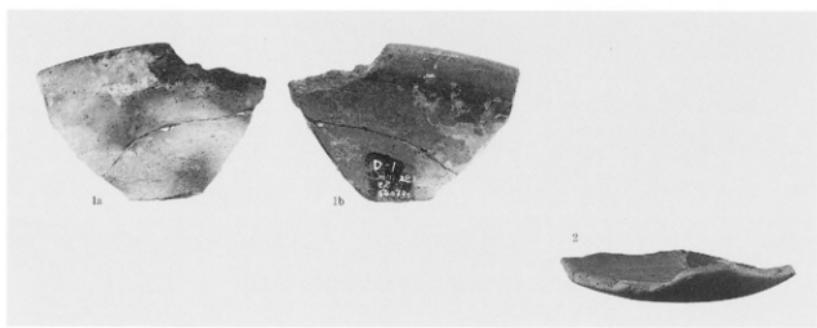
図版42 調査区全景・土層断面



1 2区東壁・SD 1溝跡断面  
(南端部)



2 SD 1溝跡全景 (東より)



1 D-1 土器 環 2区 8層 (第60図1)

2 D-2 土器 環 2区 8層 (第60図2)

3 出土遺物

図版43 溝跡・出土遺物



## VIII 南小泉遺跡 第41次 発掘調査報告書

### 1. 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡番号01021）
調査地点	仙台市若林区一本町23-1
調査期間	平成16年7月12日～15日
調査面積	78m <sup>2</sup>
調査面積	27m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建築
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	主査 工藤哲司 文化財教諭 三塚博之 今野秀治

### 2. 調査に至る経過と調査方法

本調査は、平成16年6月24日付で、地権者武田 亨氏より、深さ70cmの基礎掘削を伴う住宅建築に伴う発掘届が提出されたので、確認調査を実施し、その上で必要な場合は本調査を実施する旨を回答した。確認調査は、平成16年7月12日に実施した。建物予定地に3m×9mのトレーナーを設定して調査を行なったところ、調査区の北東部で竪穴住居跡等の遺構が検出されたため、引き続き本調査を実施した。住居跡は、建築予定建物の北東隅に当たっていたために、調査区の拡張は行なわず、検出部分のみを掘下げて調査を終了した。



No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	古小泉遺跡	散在	自然凹地	縄文～近世	9	印旛土遺跡	散在	自然凹地	古墳・古代
2	高尾塚山崩	古代堆积地	自然凹地	古墳（前歴）	10	印旛土遺跡	散在	自然凹地	古代・近世
3	石垣城跡	砦跡	自然凹地	改変	11	神ノ御跡	宝削形	自然凹地	古代
4	青垣御石垣跡	城郭	自然凹地	古代・中世～近世	12	牛頭山西岸	散在	自然凹地	幕末・明治・古代
5	佐野御石垣跡	城郭	自然凹地	古代・中世～近世	13	牛頭城跡	砦跡	自然凹地	小字
6	山新塚山崩	円墳	自然凹地	古墳（後歴）	14	猿石新切条痕跡	未確認	曲脊崖地	三代
7	蛇塚古墳	円墳？	自然凹地	古墳（後歴）	15	牛之原遺跡	台地	後晉崖地	不明
8	保原古墳	円墳？	自然凹地	古墳（後歴）	16	牛之原西面	裏落・散在	自然凹地	鎌倉～中世

第70図 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 3. 遺跡の位置と環境

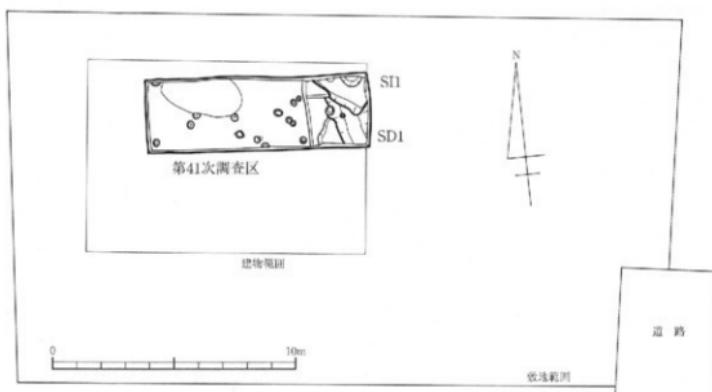
仙台市の東部は、北から七北田川・名取一広瀬川・阿武隈川の3河川が形成した「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野が広がり、河川の流域には扇状地・自然堤防・後背湿地・旧河道からなる複雑な地形を形成している。仙台湾と呼ばれる海岸部には3列の浜堤や潟湖性の低地が認められる。南小泉遺跡は、七北田川と名取一広瀬川に挟まれた、沖積平野の名取一広瀬川寄りの発達した標高10m前後の自然堤防上に立地している。

仙台市内では大きな遺跡のひとつで、東西約2km・南北約1kmの範囲に広がる。これまでの調査で、縄文時代の遺物包含層が確認され、その後弥生時代中期の土器棺墓、古墳時代全期と奈良・平安時代の集落跡、中・近世の屋敷跡などが発見されている。長期にわたり遺跡が形成され、様々な構造が存在している。

遺跡の東方1kmの中在家南遺跡からは、弥生時代中期の多数の木製品や古墳時代前期の方形周溝墓群が発見されている。遺跡内には、全長110mの前期の前方後円墳である遠見塚古墳がある。西に隣接する若林城内には埴輪を有する古墳がある。北西側には後期の円墳である法領塚古墳などがある。奈良時代になると、遺跡の北西1kmに陸奥国分寺・国分尼寺が建立される。近世には伊達政宗の隠居城として若林城が造営される。以上のようにこの地域は、縄文時代以来、遺跡が形成され、特に古墳時代以降は陸奥国の中心地域として栄えたところである。



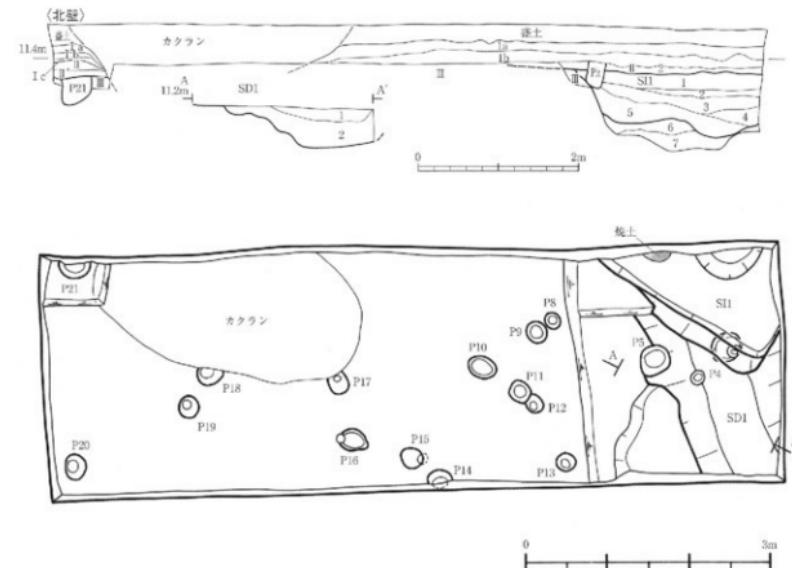
第71図 調査地点の位置



第72図 調査区配置図

#### 4. 基本層序

調査地点は、20cm前後の盛土がある。その下のⅠ層は近年の畑の耕作土である。Ⅰ層上部の層厚約15cmの黒褐色シルト層（Ⅰa層）と、下部の層厚約20cmの黄褐色シルト層（Ⅰb層）の上下2層に分けられる。北西部ではⅠb層下に炭化土と焼土を多量に含む土層（Ⅰc層）が存在する。Ⅱ層は褐色の粘土質シルト層で、Ⅰ層からⅢ層への漸移層的な土層である。Ⅲ層は褐色の粘土質シルト層で、この地区的いわゆる地山を形成しており、この層の上面で遺構が検出されている。



調査区断壁

層No.	上 色	土 性	備 考
盛土	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土・粗玄土
Ⅰa	10YR2/3 黑褐色	シルト	泥漬け土・炭化物粒・焼土粒を含む
Ⅰb	10YR3/6 黄褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
Ⅰc	10YR3/3 に5a-青褐色	シルト	炭化物・土中に多量に含む
Ⅱ	10YR4/4 開色	粘土質シルト	明黄色シルトのブロックを多量に含む
SD1			
層No.	土 色	土 性	備 考
1	10YR4/4 黄褐色	シルト	粘土・粗玄土
2	10YR4/4 黄褐色	シルト	多量の炭化物と少量のマンガン粒を含む
3	10YR4/4 に赤褐色	シルト	褐色のシルトのブロックを多量に含む
4	10YR4/4 黄褐色	シルト	黒褐色土のブロックを多く含む
5	10YR4/6 紅色	シルト	褐色シルトのブロックを多量に含む
6	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	下部に焼土・炭化物を含む
7	10YR5/6 青褐色	粘土質シルト	褐色・炭化物のブロックを含む 刻の方陣土

層No.	土 色	土 性	備 考
Ⅲ	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	炭化物とマンガン粒を多量に含む
Ⅳ	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	地主
SI-1	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	多量の炭化物と少量のマンガン粒を含む
2	10YR4/4 に赤褐色	粘土質シルト	褐色のシルトのブロックを多量に含む
3	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土のブロックを多く含む
4	10YR4/6 紅色	粘土質シルト	褐色シルトのブロックを多量に含む
5	10YR4/6 紅色	粘土質シルト	下部に焼土・炭化物を含む
6	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	褐色・炭化物のブロックを含む 刻の方陣土
7	10YR5/6 青褐色	粘土質シルト	下部面に炭化物を含む 刻の方陣土

第73図 調査区断面・構造実測図

## 5. 発見遺構と出土遺物

発見遺構は、溝跡1条・竪穴住居跡1軒・ピット21基がある。溝跡と竪穴住居跡はⅢ層上面で検出されているが、ピットは、Ⅱ層が分布する部分では、Ⅱ層上面で検出される。

### 1) 溝跡

S D 1 溝跡 調査区の東端で検出された。南北方向にのびる。東側の壁面上部は調査区の外側となっている。北側は S I 1 竪穴住居跡に切られている。検出部の幅は上面で約160cm・底面で約50cm・深さ約50cmで、断面形は逆台形を呈する。堆積土は2層に分けられ、上部は褐色のシルト、下部は暗褐色の粘土質シルトで、両層とも地山起源の黄褐色土のブロックを多量に含み、人為的に埋められた可能性がある。

遺物は、堆積土中から、外面にハケメ調整後ヘラミガキされた土師器片が1点出土しているだけである。

### 2) 竪穴住居跡

S I 1 竪穴住居跡 トレンチの北東部で検出された。磁北に対して約45°振れている。大部分は調査区外となっており、検出部分は、竪穴住居跡の南側の角付近である。調査部分の南西壁は長さ約2.4m、南東壁が約70cmである。検出面から床面までの深さは60cm前後あり、残りは非常によい。堆積土は、褐色ないしにぶい黄褐色の粘土質シルト層からなり、5層に分けられる。検出部の床面には焼土粒や炭化物が薄く分布する。トレンチ北壁付近の住居対角線上の部分は床面が緩やかに凹んでいる。住居の角から約2m西側寄りの南西壁から約30cm内側の部分は、直径25cm程の円形に焼けている。調査範囲では柱穴そのほかの施設は検出されなかった。

住居跡の掘り方底面は大きな凹凸があり、深い部分の埋め土は40cm近い厚さがある。掘り方の埋め土は地山起源の黄褐色の粘土質シルトである。

堆積土が厚く、保存状態が良好な割に、調査部分からの出土遺物は少なく、堆積土中から土師器片が4点出土しているだけである。出土した4点の土師器は、いずれも磨耗が著しい小片で、所属時期は特定できない。

### 3) ピット群

壁面で検出されたものを含めて、21基のピットが検出された。平面形は、直径20cmから40cmの円形のものである。検出面からの深さは10cmから20cmである。柱痕跡はP19で検出されただけである。柱の並びが想定されるものもない。ピットは、Ⅱ層からの掘り込みが確認されているものがあることから、溝跡や竪穴住居跡よりも新しい時期の遺構の可能性が考えられる。P 8 からロクロ使用の坏片を含む土師器片が2点出土している。

## 6.まとめ

- ①本調査区は、南小泉遺跡の北辺の西部に当たる。
- ②調査の結果Ⅲ層上面で竪穴住居跡1軒と溝跡1条などの遺構が検出された。
- ③竪穴住居跡は溝跡を切っている。
- ④竪穴住居跡の準積土中から土師器片が4点出土したが、詳細な時期は不明である。



1 Pitの調査と遺構検出状況  
(東より)



2 遺構完掘状況 (東より)



3 北壁東部土層断面 (南より)

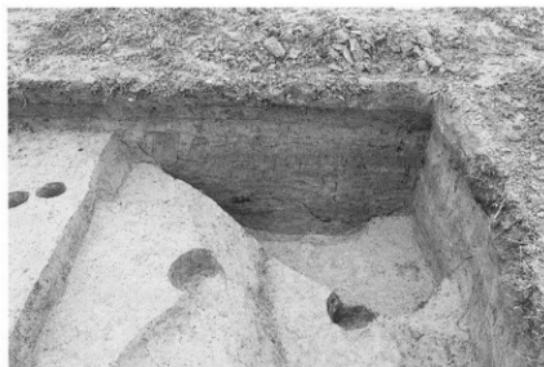
図版44 調査区の概要



1 床面で検出された炭化物  
(西より)



2 床面と焼土の状況 (西より)



3 住居の堆積土層断面 (南より)

図版45 壁穴住居跡の状況

# IX 南小泉遺跡 第42次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

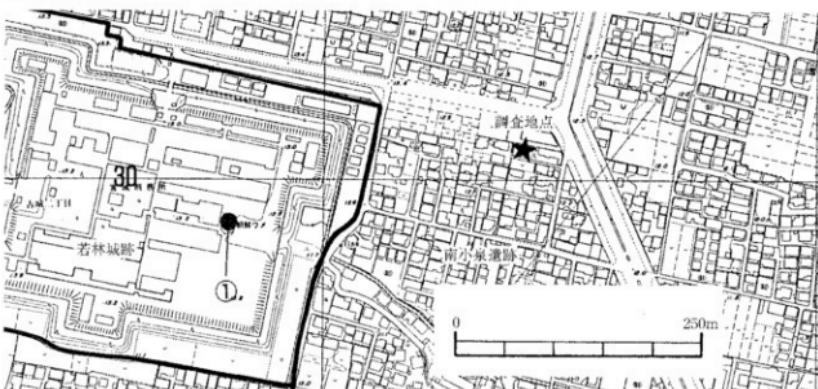
遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡番号01021）
調査地点	仙台市若林区南小泉四丁目18-18
調査期間	平成16年8月23日～8月25日
調査対象面積	96.32m <sup>2</sup>
調査面積	38m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治

## 2. 調査に至る経過と調査方法

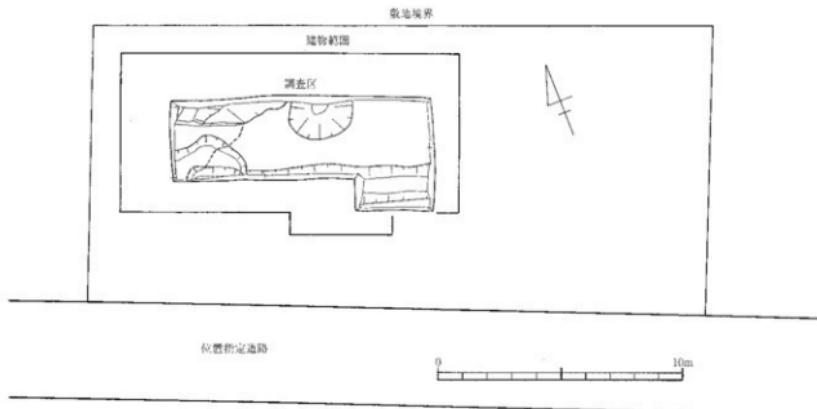
今回の調査は、平成16年6月21日付けて、地権者澤畠 道氏より、深さ4.0mの鋼管杭打ちを伴う木造2階建て個人住宅建築工事に伴う発掘届が提出されたので、確認調査を実施し、そのうえで必要な場合は本調査を実施する旨を回答した。確認調査は平成16年8月23日に実施した。建物予定地に東西11m×南北3mのトレンチを設定して調査を行なったところ、調査区内から溝跡1条と土坑1基、その他の遺構3基が検出されたため、引き続き本調査を実施した。溝跡の規模を確認するため、調査区の東端部を南側に東西3m×南北1.5mほど拡張した。重機によりⅠ層～Ⅲ層を排除し、現地表下約60cmのⅣ層上面で人力による遺構検出作業と遺構の掘り込みを行なった。

## 3. 遺跡の位置と環境

遺跡の環境については第41次発掘調査報告書を参照されたい。今回の調査地点は、遺跡の南部にあたり、標高は13.0mである。



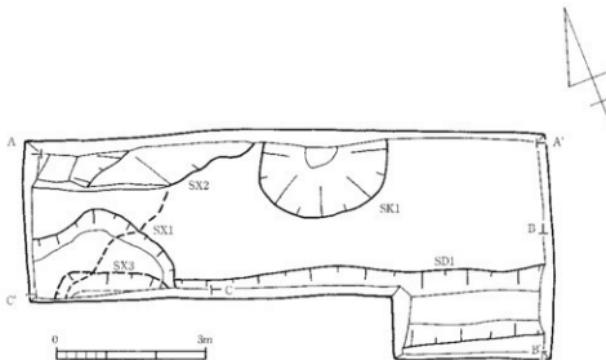
第74図 第42次調査区の位置



第75図 調査区配置図

#### 4. 基本層序

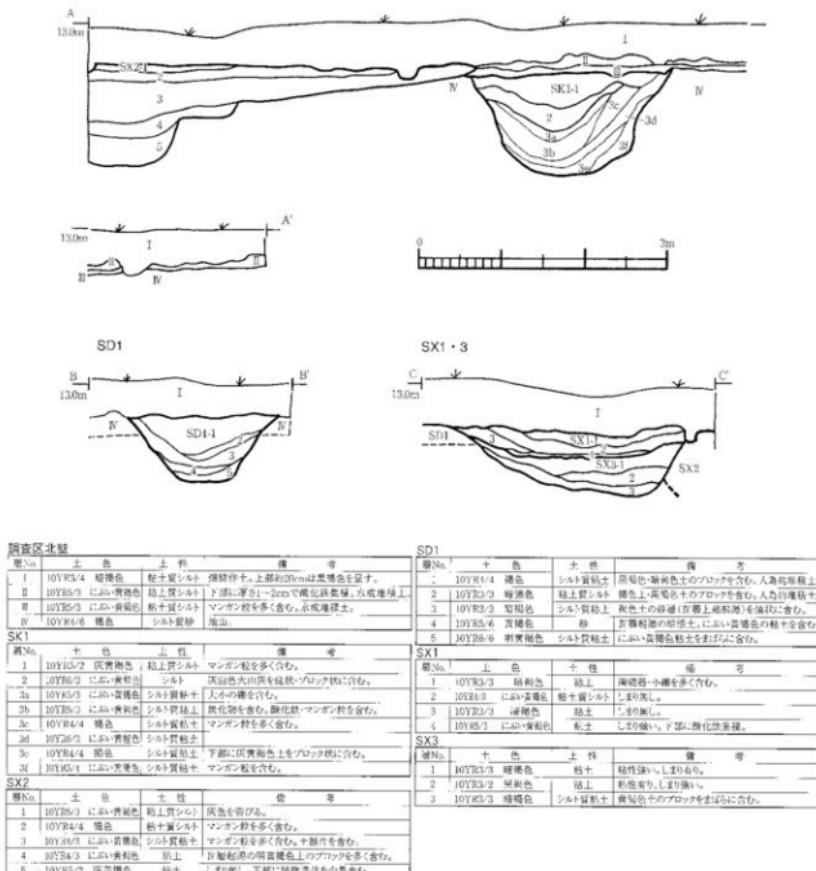
調査区で確認した基本層は、I層からIV層まで大別4層である。I層は上部約20cmが黒褐色を呈す暗褐色粘土質シルト層の畑耕作土である。II層は下部に厚さ1～2cmで酸化鉄が集積するにぶい黄褐色粘土質シルト層で、水成堆積の状況を呈している。III層はマンガン粒を多く含むにぶい黄褐色粘土質シルト層で、水成堆積の状況を呈している。IV層は褐色シルト質砂層である。



第76図 造構配置図

#### 5. 発見遺構と出土遺物

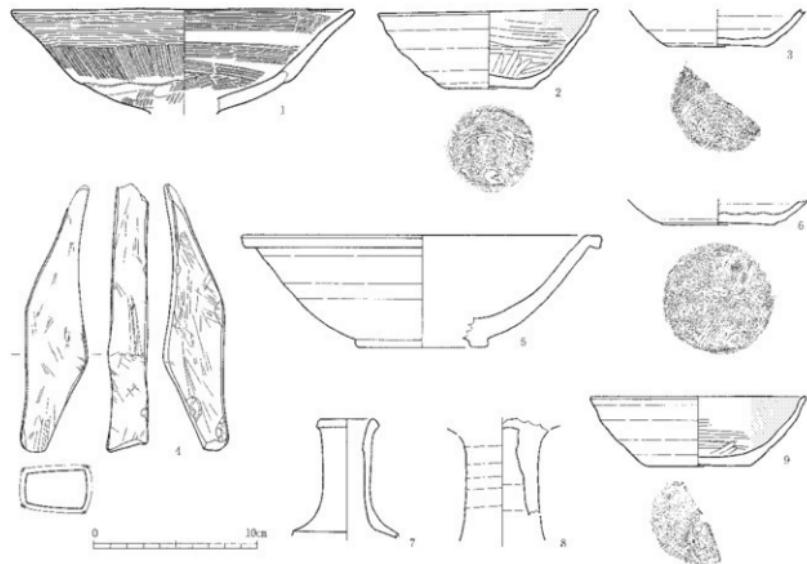
検出された遺構は、溝跡1条・上坑1基・その他の遺構3基である。



第77図 調査区北壁および溝構断面

## 1) 溝跡

**S D 1 溝跡** 調査区の南端部で検出した。S X 1・3 違接に切られている。上端幅約180cm、下端幅約60cm、深さは約80cmである。ほぼ東から西に延びており、断面形は逆台形状である。堆積土は5層に分けられ、1・2層は人為的堆積で、3~5層は自然堆積である。3層にはIV層上部起源の褐色砂層を縞状に含み、4層はIV層起源の堆積土で黄褐色砂層である。遺物は須恵器坏（E-1）のほか、土師器片と須恵器片が数点出土している。溝跡の年代確定はできなかった。



図号	分類	出土地点	基木層	遺構名	遺構層	段上No	分	整	法	管	特徴・備考			参考文献		
											種別	断面	断高・長	口径・幅	外径・厚	(測量・費材・重光・時様・分類)
1 C-1			SK1	2層				土器部	扁平	(6.4)	(20.8)				外腹ハラメ、口内ナメ 内腹ハケメ	45.1
2 D-1			SK1	3層				上師器	环	4.9	13.4				内面筋帯透跡、へら底き 内外面ロクロ 底部脚部系切口	45.2
3 E-3			SK1	2層				下師器	环	(2.3)					内外面ロクロ(底)系切口	45.4
4 K-1			SK1	3層				心斎器	砾石	(16.3)	3.7					45.7
5 I-2			SK1	1層				陶器	棒	(6.5)	(22.0)				内外面ロクロ(口)系切口	45.5
6 K-1			SD1	1層				施墨器	环	(1.6)					底部脚部系切口(被削者)	45.6
7 I-1			SK1	1層				陶器	直		3.8				河床から出土した施墨器色胎	45.9
8 N-2			SK1	2層				施墨器	凸						内外面ロクロ	45.8
9 D-2			SK1	2層				上師器	棒	4.3	13.0				内面黑色处理、へら底き 内外面ロクロ 底部脚部系切口	45.3

第78図 出土遺物

## 2) 土坑

S K 1 土坑 調査区の中央部北壁沿いで検出した。IV層から掘り込まれている。遺構の北半部が調査区外に延びているため正確な規模は不明であるが、長軸（東西）が約250cmの隅丸方形を呈するものと思われる。断面形は舟底状で、検出面からの深さは約120cmである。堆積土は大別3層、細別で6層に分けられ、2層は灰白色火山灰（「十和田a」915年降下）を斑状・ブロック状に含んでいる。遺物は非ロクロ土師器高杯（C-1）、ロクロ土師器环（D-1・2・3）、須恵器高杯（E-2）、砥石（K-1）のほか、土師器片・須恵器片・瓦片が数点出土している。堆積土や出土遺物から、この土坑は平安時代のものと考えられる。

## 3) その他の遺構

S X 1 遺構 調査区の南西壁沿いで検出した。S D 1 溝跡、S X 2・3 遺構を切っている。遺構の南北・西半部が調査区外に延びているため正確な規模は不明であるが、不整な方形を呈するものと思われ、検出部分で東西約150

cm、南北約250cmである。断面形は舟底状で、検出面からの深さは約30cmである。堆積土は4層に分けられ、1層は陶器片および小砾を多く含んでいる。遺物は陶器壺（I-1）、陶器鉢（I-2）のほか、須恵器片が1点・陶器片が数点・磁器片が1点出土している。このうち陶器壺（I-1）は大堀相馬焼で19世紀前半のもの、陶器鉢（I-2）は岸窯系で17世紀前半のものと思われる。出土遺物から、この遺構は近世以降のものと考えられる。

S X 2 遺構 調査区の北西壁沿いで検出した。目層から掘り込まれており、S X 1・3 遺構に切られている。北西壁沿いで検出のため平面形は不明である。下部の状況から上部が漏斗状に広がる溝跡と判断される。検出部分から東西の幅は約3m以上の規模である。断面形は逆台形で、中央に落ち込みが見られる。深さは、約130cmである。堆積土は5層に分けられ、3層は土師器片を含み、4層はIV層起源の明黄褐色土のブロックを多く含んでいる。遺物は弥生土器片1点・非クロコ土師器片3点・ロクロ土師器片1点・須恵器片1点・瓦片1点が出土している。出土遺物は弥生時代から古代のものまであるが、いずれも堆積土中のものでしかも少数であるので、遺構の時期については明確ではない。

S X 3 遺構 調査区の西部南壁沿いで検出した。S X 1 遺構の下面から検出され、S D 1 溝跡、S X 2 遺構を切っている。遺構の南半が調査区外に延びているため正確な規模は不明であるが、不整な方形を呈するものと思われ、検出部分で東西約200cm、南北約30cmである。断面形は舟底状で、深さは約50cmである。堆積土は3層に分けられる。遺物は出土していない。遺構の年代などは不明である。

## 6.まとめ

- ① 今回の調査では、溝跡2条（S D 1・S X 2）、土坑1基（S K 1）、その他の遺構2基（S X 1・3）が検出された。
- ② S D 1 溝跡の時期は不明である。
- ③ S X 2 溝跡の時期は不明である。この溝の周りに広がる水成堆積層（基本層Ⅱ・Ⅲ層を含む）から、当該地は周辺よりやや低い地形にあった可能性が考えられる。
- ④ S K 1 土坑は堆積土の中程に灰白色火山灰が認められることと出土遺物から、平安時代の遺構と考えられる。
- ⑤ S X 1 遺構は近世の陶器片・磁器片が数点出土していることから、近世以降の遺構と考えられる。
- ⑥ S X 3 遺構の時期は不明である。

### 〈引用・参考文献〉

- 斎野裕彦他（1994）：「南小泉遺跡第22次・23次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第192集  
 工藤哲司他（2003）：「南小泉遺跡第38次・第39次発掘調査報告書」「国分寺東遺跡他発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第266集



1 調査区全景（東より）



2 調査区全景（西より）



3 SD 1溝跡土層断面（西より）

図版46 調査区全景・溝跡



1 SK 1 土坑全景および土層断面  
(南より)

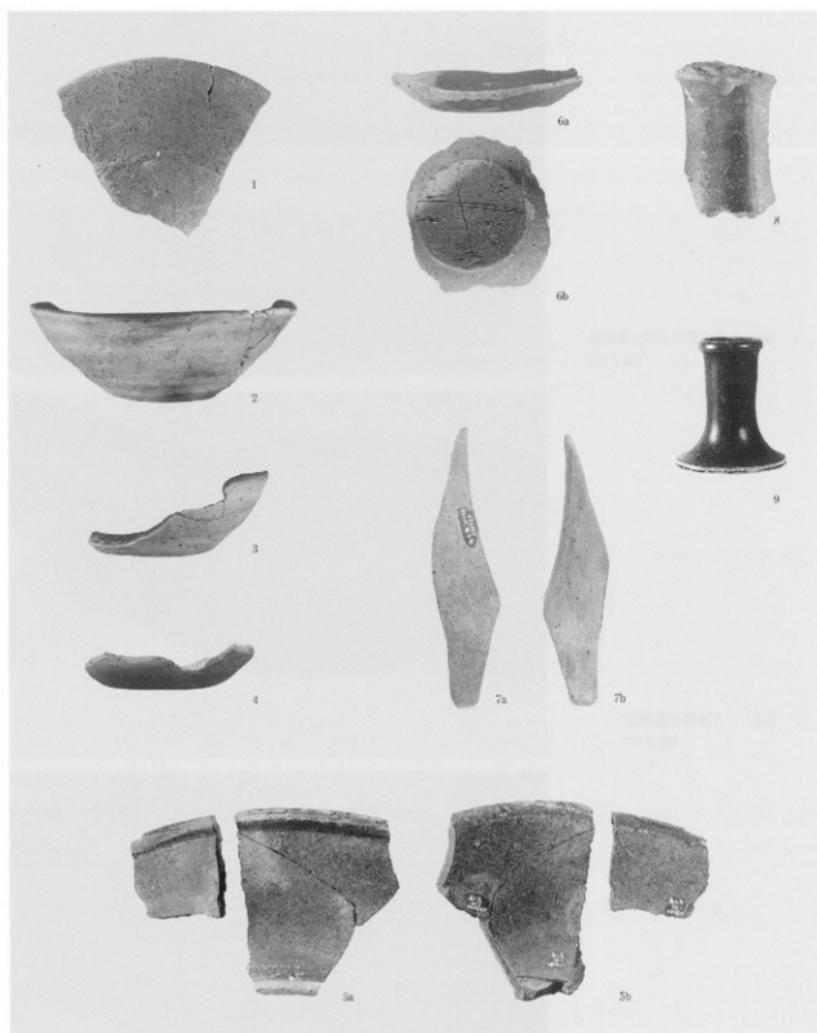


2 SX 1・3 深溝土層断面  
(北より)



3 SX 2 造構西半部土層断面  
(南より)

図版47 土坑・その他の造構



1 C-1 土质器  
 2 D-1 土质器  
 3 D-2 土质器  
 4 D-3 土质器  
 5 1-2 骨 器

6 E-1 瓷质器  
 7 K-1 石质器  
 8 E-2 陶质器  
 9 I-1 骨 器

图版48 出土遗物

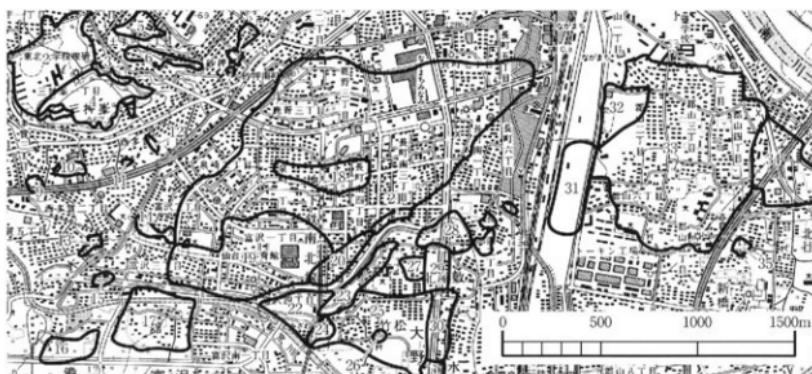
# X 富沢遺跡 第132次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺 跡 名	富沢遺跡（宮城県遺跡登録番号01369）
所 在 地	仙台市太白区長町南1丁目201番地4地内
調 査 原 因	事務所付共同住宅建築工事
調査対象面積	147m <sup>2</sup>
調査面積	15m <sup>2</sup>
調査期間	平成16年9月13日～平成16年9月21日
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課
担当職員	文化財教諭 三塚博之 女川征延

## 2. 調査に至る経過と調査方法

平成16年7月26日付で、内田せい子氏・内田圭一氏より上記地内における事務所付共同住宅建設に伴う発掘届が提出された。これを受けて平成16年9月13日に、建物予定地内に東西約10m、南北約8mの調査区を設定して調査を行った。



No.	遺跡名	種 別	立 塊	年 代	No.	遺跡名	種 別	立 塊	年 代
1	富沢遺跡	混合跡	未確認	未確認、漢文、古墳、馬場、古代～近世	18	東山遺跡	遺跡群、水田跡	自然堤防	縄文、古墳、古墳、古代、近世
2	戸内川遺跡	集落跡	丘陵	縄文、弥生、古代	19	上白瀬遺跡	遺跡群、水田跡	自然堤防、複数河岸	縄文、弥生、古墳、古代、中世
3	下町原遺跡群	住居跡	丘陵	古墳	20	下白瀬遺跡	遺跡群、水田跡	自然堤防	縄文、古墳、古代、中世
4	三種遺跡群	住居跡	丘陵	縄文、古代	21	波賀遺跡	丘陵	自然堤防	古墳、古代
5	上白瀬遺跡	住居跡	丘陵	縄文、弥生、古墳、古代	22	下白瀬遺跡	遺跡群	自然堤防	縄文、弥生、古墳、古代、中世
6	上野山遺跡	住居跡	丘陵	古墳	23	六久瀬遺跡	遺跡群	自然堤防	縄文、弥生、古墳、古代、近世
7	下内川遺跡	住居跡	丘陵	古墳、古代	24	伊吉山遺跡	遺跡群	自然堤防	縄文、古墳、古代
8	待内川遺跡	丘陵	丘陵	古墳	25	人野山古墳群	古墳、直方復円墳	自然堤防	古墳
9	待待母遺跡	住居跡	丘陵	古墳	26	春日山古墳	古墳	自然堤防	古墳
10	原遺跡	住居跡	丘陵	古墳	27	波須遺跡	遺跡群	自然堤防	縄文、古代
11	原遺跡	住居跡	丘陵	古墳	28	元鏡遺跡	遺跡群、水田跡	自然堤防	縄文、古代、中世、近世
12	奥前尾遺跡	住居跡	丘陵	古墳	29	大野山遺跡	跡記、集落跡	自然堤防	縄文、弥生、古墳、古代
13	宮阿上・合造跡	住居跡	自然堤防	縄文、古代	30	下白瀬遺跡	遺跡群、壁板等	自然堤防	縄文、弥生、古墳、古代、牛世
14	富沢上・合造跡	住居跡	丘陵	古墳	31	瓦阿前尾遺跡	遺跡群	築堤、古墳、古代	縄文、古墳、古代
15	尾・内瀬遺跡	住居跡	自然堤防	古墳	32	西白瀬遺跡	気合風、施宿跡	自然堤防	縄文、弥生、古墳
16	鏡・内瀬遺跡	住居跡	丘陵	古墳	33	若山遺跡	散在、古墳、古墳	自然堤防	縄文、弥生、古墳、古代
17	富沢遺跡	住居跡	自然堤防	古墳	34	北白瀬遺跡	定期、墓葬、古墳	自然堤防	縄文、弥生、古墳、古代、近世
18	富沢遺跡	自然堤防	未確認		35	矢張遺跡	未確認	自然堤防	古墳

第79図 遺跡の位置と周辺の遺跡

査を実施した。重機により盛土層を除去したが、盛土層が約1.8mと厚い上に崩れやすいものであったため、盛土層の除去範囲は東西約7m、南北約4mとなった。実際の調査は東西約5m、南北約3mの範囲で実施した。調査は1層の除去から開始し、本調査区の北約50mで行われた第12次調査区、および西約30mで行われた第49次調査区No.4地点における調査結果をもとに水田跡の検出を層ごとに行った。安全性に配慮し、5層以下は調査区の北半のみを調査した。現地表下から2.6m掘り下げた8層中で調査を終了した。

### 3. 踏跡の位置と環境

富沢遺跡は仙台市の南東部に位置し、仙台市太白区長町南・富沢・泉崎等に所在する。遺跡は名取川と広瀬川に

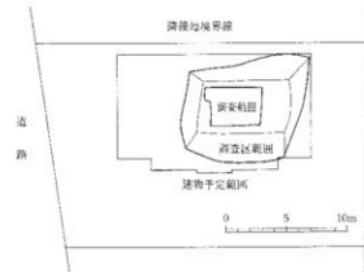


第80図 調査地点の位置

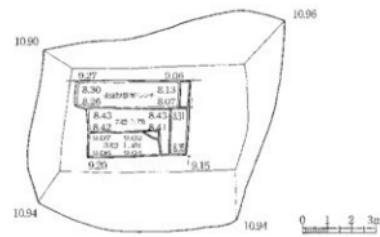
よって挟まれた沖積地（郡山低地）の西側にあり、北西を丘陵、東を自然堤防によって囲まれた後背湿地を中心に立地している。遺跡の範囲は東西2km・南北1kmに及び、登録面積は約90haである。この一帯は30年程前までは主に水田として利用されていたが、現在は上地区整理事業により盛土がなされており、大部分は住宅地になっている。盛土以前の旧地形は北西から南東方向に緩やかに傾斜していた。現在の標高は9~16mである。

高速鉄道（仙台市営地下鉄）の建設に伴う試掘及び調査で水田跡の存在が確認され、昭和58年（1983年）に「富沢水田遺跡」として登録された。その後居住城等の発見によって昭和62年（1987年）に「富沢遺跡」と改称されている。

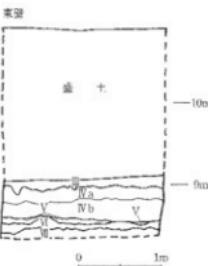
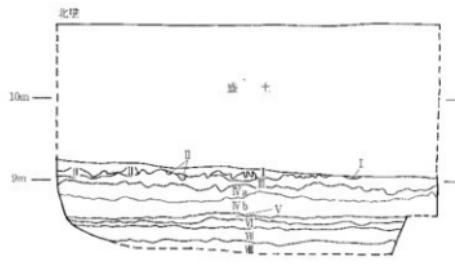
これまで100次を超す発掘調査が行われておらず、弥生時代から近世・現代までの水田跡が重層して検出されている。また、数地点では弥生時代の水田跡のさらに下層から縄文時代の遺構や遺物が発見されている。また、昭和62年（1987年）～63年（1988年）に実施された第30次調査においては、縄文時代の遺構の下層から後期旧石器時代の森林跡と焚火跡等の生活跡が発見され、国内外の注目を集めている。現在、第30次調査地点には「地底の森ミュージアム（正式名称は仙台市富沢遺跡保存館）」が建築され、遺跡の保存と活用を行っている。



第81図 調査区配置図



第82図 調査区実測図



層位	上色	土性	標名	層位	土色	土性	標名
II層	10YR2/1 黒褐色	粘土	下層に亂れが見られる。旧水田耕作土。	V層	5Y5/1 黄褐色	粘土	縄文質の植物遺体を多量に含む。
II層	25Y4/1 黄灰色	粘土	II層のワニクを含む。	II層	5Y4/3 黄色	粘土	縄文質の植物遺体を多量に含む。
II層	5Y3/1 オリーブ無色	粘土	上面に灰白色角状風化のワニクを含む。				下層に繊維状の根が見られる。
IVa層	10YR3/1 黑褐色	粘土	下部に飛散が見られる。室町時代の水田土塗。				後期旧石器時代の水田土塗。
IVb層	10YR3/1 黑褐色	粘土	10YR6/3 に灰褐色を含む。耕作土。				25Y6/2E 黄褐色土とて加。
			10YR6/3 に灰褐色を含む。耕作土。				縄文質の植物遺体を多量に含む。
			耕作土。				上半分に根や小枝が見られる。
							地底の森ミュージアム。

第83図 北壁・東壁土層断面図

## 4. 基本層序

区画整理の際の盛土が約1.8mあり、その下に旧表土の水田耕作土（I層）がある。調査区で確認した基本層は大別8層、細別9層である。

- I 層 黒色粘土。層厚は0~20cm。土地区画整理前の現代の水田耕作土である。削平を受け残りは悪い。
- II 層 黄灰色粘土。層厚は0~15cm。III層のブロックを含んでいる。近世以降の水田耕作土の可能性があるが、削平が著しく畦畔を確認することができなかった。
- III 層 オリーブ黒色粘土。層厚は4~20cm。上面に灰白色火山灰の小ブロックを含んでおり、下面に亂れが見られる。平安時代の水田耕作土である。
- IV a 層 黑褐色粘土。層厚は4~25cm。にぶい黄橙色粘土を乱れたブロック状に含む。纖維質の植物遺体を多量に含む。
- IV b 層 黑褐色粘土。層厚は15~30cm。にぶい黄橙色粘土と互層。纖維質の植物遺体を多量に含む。
- V 層 灰色粘土。層厚は0~10cm。纖維質の植物遺体を多量に含む。弥生時代の水田耕作土の可能性があるが、削平が著しく確認することができなかった。
- VI 層 灰色粘土。層厚は4~15cm。纖維質の植物遺体を多量に含む。下面にゆるやかな乱れが見られる。弥生時代の水田耕作土。
- VII 層 黒色粘土。層厚は10~20cm。灰黄色粘土と互層。纖維質の植物遺体を多量に含む。
- VIII 層 暗灰色粘土。層厚は16cm以上。纖維質の植物遺体を多量に含む。第49次調査の結果から弥生時代の水田耕作土の可能性がある。

## 5. 発見遺構と出土遺物

### 1) III層水田跡

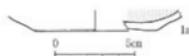
III層は層の下面に凸凹があり、層の下部には直下の層を起源とするブロックが認められることから水田耕作土と考えられる。層の上面に灰白色火山灰（10世紀前葉降下）の小ブロックを含んでいることから、平安時代灰白色火山灰以降の水田跡と考えられる。人力によりII層を除去して畦畔の検出を行ったが、水田跡に伴う畦畔などは検出されなかった。III層を除去しIV層上面を検出したが、III層水田に伴う畦畔の痕跡は検出されなかった。なお、III層上面の精査中に土師器片が2点出土している。

### 2) VI層水田跡

VI層は層の下面に緩やかな乱れが見られ水田耕作土と考えられる。遺物は出土していないが、富沢遺跡第49次調査との対応から弥生時代の水田耕作土と考えられる。VII層上面を検出したが、VI層水田に伴う畦畔の痕跡は検出されなかった。

### 3) 遺物

III層上面の精査中に土師器片が2点出土している。环の底部で内面は黒色処理されている。2点は同一個体のものと見られるが接合はない。摩滅のため、ロクロの跡を確認することはできない。



(成存量)

図号	登記	出土地点	分類	出	特	写真回数
番号	品名	遺構名	種別	量	鑑定・基準	（測定・基準・特徴・分類）
1	D-1	Ⅲ層 直層	灰褐色 砂質土	1.3	L1層・堆 (1.3)	7.5 内面黑色處理

第84図 III層上面出土土師器

## 6.まとめ

- ① 今回の調査は遺跡の東部、第12次調査の南側、第49次調査の東側で実施した。
- ② 調査を実施した深さ約2.6mの地層は大別8層、細別9層に分けられた。
- ③ 現代の水田耕作土層であるⅠ層を除き、Ⅲ層、Ⅵ層が水田耕作土層と考えられる。第49次調査の結果からⅡ・V・Ⅸ層も水田耕作土の可能性がある。
- ④ 水田の年代は、Ⅲ層が平安時代、Ⅵ層が弥生時代に所属するものと考えられる。
- ⑤ Ⅲ層、Ⅵ層とも、畦畔の痕跡は確認できなかった。
- ⑥ 今回の調査地点の基本層序と、第49次調査No.4地点の基本層序は下表のように対応するものと判断した。

富沢遺跡第132次調査と第12次調査の土層対応表

<富沢遺跡第132次調査と第12次調査の土層対応表>			
第12次調査			
層	色	調	性質
I層	黒色	粘土	粘土
II層	灰白色	粘土	—
III層	オリーブ黒色	粘土	灰白色火山灰を含む
IV層	黒色	粘土	に多い黄褐色粘土を混じたブロック状に含む
V層	茶褐色	粘土	に多い黄褐色粘土と瓦層
VI層	灰褐色	粘土	—
VII層	灰色	粘土	灰褐色粘土と瓦層
VIII層	黑色	粘土	—
IX層	褐色	粘土	—
X層	暗褐色	粘土	—
第132次調査			
層	色	調	性質
1層	ミリーブルーカラー	シルト～粘土	現代の水田土壤
2層	灰青褐色	シルト質粘土	古代灰褐色の水田土壤?
3a層	墨色	粘土	现代の水田土壤
4a層	灰色	粘土	平安時代の水田土壤?
5a層	黑褐色	粘土	古墳時代の水田土壤?
7層	黒いにこい・青褐色	粘土・砂・泥炭	古墳時代の水田土壤?
8a層	暗灰褐色	粘土・砂・泥炭	—
8b層	黒いにこい・青褐色	粘土・砂・泥炭	—
9a層	暗灰青色	粘土・砂・泥炭	第49次調査No.4地点では検出されていない。古墳時代の水田土壤?
9b層	暗い青色	粘土・砂・泥炭	古墳時代の水田土壤?
10a層	暗緑色・青褐色	粘土・砂・泥炭	古墳時代の水田土壤?
10c層	青色・灰褐色	粘土・砂・泥炭	古墳時代の水田土壤?
10d層	暗灰・青色・灰褐色	粘土・砂・泥炭	古墳時代の水田土壤?

### 参考文献

- 阿子島功 (1991) : 「東北地方 10C頃の降下火山灰について」『中川久夫教授退官記念地質学論文集』
- 東日本の水田を考える会 (1990) : 「水田跡の基本的理理解 - 水田跡の検出と認定」『第3回東日本日本の水田跡を考える会 - 資料集』
- 斎野裕彦 (1984) : 「宮沢遺跡」「仙台平野の遺跡群Ⅲ 昭和58年度発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書 第65集 仙台市教育委員会
- 半岡亮輔 (1989) : 「宮沢遺跡第35次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第150集 仙台市教育委員会
- 佐藤甲二 (1990) : 「宮沢遺跡第49次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第142集 仙台市教育委員会
- 佐藤甲二 (1991) : 「宮沢遺跡基本層序案・層位対応関係案」「宮沢・泉崎浦・山口遺跡(3)」仙台市文化財調査報告書第152集 仙台市教育委員会



1 III層上面検出状況



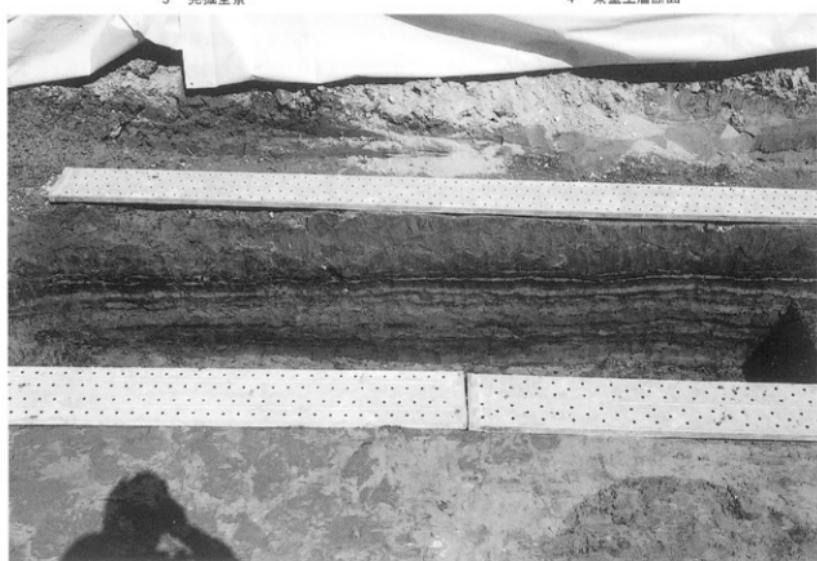
2 V層上面検出状況



3 完掘全景



4 東壁土層断面



5 北壁土層断面図

図版49 第132次調査区の状況

# XI 富沢遺跡 第133次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺 跡 名	富沢遺跡（宮城県遺跡番号01369）
調 査 地 点	仙台市太白区長町7丁目301-8、301-37
調 査 期 間	平成16年11月1日～11月12日
調査対象面積	188m <sup>2</sup>
調 査 面 積	約45m <sup>2</sup> （実調査面積約20m <sup>2</sup> ）
調 査 原 因	店舗付共同住宅建設
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担 当 職 員	文化財教諭 女川征延 三塚博之

## 2. 調査に至る経過と調査方法

本調査は、平成16年8月27日付けで佐藤孝夫氏より仙台市太白区長町7丁目301-8、301-37における店舗付共同住宅建築工事に係わる発掘届が提出されたことにより実施した。建設予定地内に東西9m、南北5mの調査区を設定し、重機により盛土層と現代の水田耕作土層（1層）を排除した。調査地点は厚さ1.2m前後の盛土がされていたため、盛土及び1層の除去後、調査区を東西約7m、南北約3mに縮小した。調査区北端に長さ（東西）約6m、幅（南北）約1m、深さ約1mの上層観察用トレンチを設定して第111次調査における調査成果をもとに断面観察を行った。断面観察により水田耕作土層と考えられる層位毎に人力による平面的な水田跡の検出作業を行った。調査は、任意の基準点で行った後、この基準点から敷地境界杭を測量して調査区の位置を求めた。

## 3. 遺跡の位置と環境

遺跡の環境については、第132次発掘調査報告書を参照されたい。今回の調査地点は、平成11年10月に実施された第111次調査区の北側に隣接し、遺跡の最北端にあたる。標高は約12mである。

## 4. 基本層序

基本層は大別9層、細別11層に分けられた。

I 層：黒色シルト。下面に継やかな乱れがみられる現代の水田耕作土である。

II a層：オリーブ黒色粘土質シルト。火山灰の小ブロックを多量に含む。

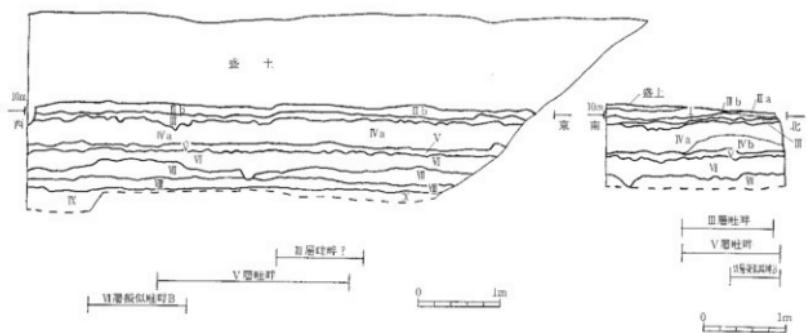
II b層：オリーブ黒褐色粘土質シルト。下面に乱れがありⅢ層を巻き上げている。火山灰の小ブロックを多量に含む。

III 層：黒褐色粘土質シルト。下面に乱れがある。IV a層の砂をまばらに含む。層の厚さは2～12cmである。水田耕作土。

IV a層：灰色砂。間に灰色粘土の層を含み、層の厚さは15～30cmである。自然堆積層。



第85図 調査区位置図



### 基本層序

No.	土色	土性	特徴
I	HOYR2/1 黒褐色	シルト	山地冲積原生土。下部にゆるやかな乱れがある。
IIa	S13/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	火山灰バコロクを多量に含む。
IIb	75Y3/1 オトーブ褐色	粘土質シルト	I層被覆耕作土とのみみられる。
III	25Y3/2 黒褐色	—	火山灰バコロクを多量に含む。
IVa	10Y4/1 黄褐色	砂	下部に乱れがあり、表面の上を巻き上げている。
IVb	10Y5/1 黄褐色	砂	下部の砂が見られる。目盛のそれを巻き上げている。
V	5Y5/2 土灰リーブ色	粘土	全体に植物遺体を多量に含む。層下部に柱状に多い。
VI	25Y3/1 黑褐色	粘土	瓦礫。
VII	にい・黄褐色	粘土	植物遺体を多量に含む。
VI	25Y6/2 画面青色	粘土	植物遺体を多量に含む。層下部ほど明るくなる。
VIII	25Y3/1 黑褐色	粘土	植物遺体を多量に含む。層下部ほど砂が多くなる。
IX	5Y2/1 黑褐色	粘土	植物遺体を多量に含む。層下部ほど砂が多くなる。

### 第111次調査との基本層序比較

No.	土色	土性	特徴
I	黒褐色	シルト	田水田
IIa	—	—	刈込なし
IIb	オリーブ黒色	粘土質シルト	水田耕作土
III	黒褐色	粘土質シルト	水田耕作土(平安・中曾)
IVa	灰色	砂	刈込なし
IVb	灰褐色	砂	自然堆積層
V	灰オリーブ色	粘土	水田耕作土
VI	黒褐色	粘土	本田耕作土
VII	にい・黄褐色	粘土	本田耕作土(馬糞+3年)
VIII	画面青色	粘土	泥炭質粘土
IX	黒褐色	粘土	水田耕作土(馬糞+3年)

No.	土色	土性	特徴
I	オリーブ黒色	—	田水田
II	灰褐色	砂質シルト	刈込なし
III	灰褐色	砂質シルト	水田耕作土
IV	灰褐色	砂質シルト	水田耕作土
V	灰褐色	砂	相變
VI	灰褐色	砂	自然堆積層
VII	黑色	粘土	本田耕作土
VIII	黑色	粘土	泥炭質粘土
IX	黑色	粘土	自然堆積層
X	灰オリーブ色	砂	—

第86図 北壁・西壁断面図

IVb層：灰色粗砂。層の厚さは0~20cmであり、V層の社群上にのみみられる。自然堆積層。

V層：灰オリーブ色粘土。下面に乱れがありVI層を巻き上げている。層の厚さは3~10cmである。

水田耕作土。

VI層：黒褐色粘土。全体に植物遺体を多量に含み、層下部で特に多くなる。下面に乱れがありVII層を巻き上げている。層の厚さは、10~25cmである。水田耕作土。

VII層：にい・黄色粘土、暗灰黄色粘土、黒褐色粘土の互層。植物遺体を多量に含み、層の厚さは7~20cmである。自然堆積層。

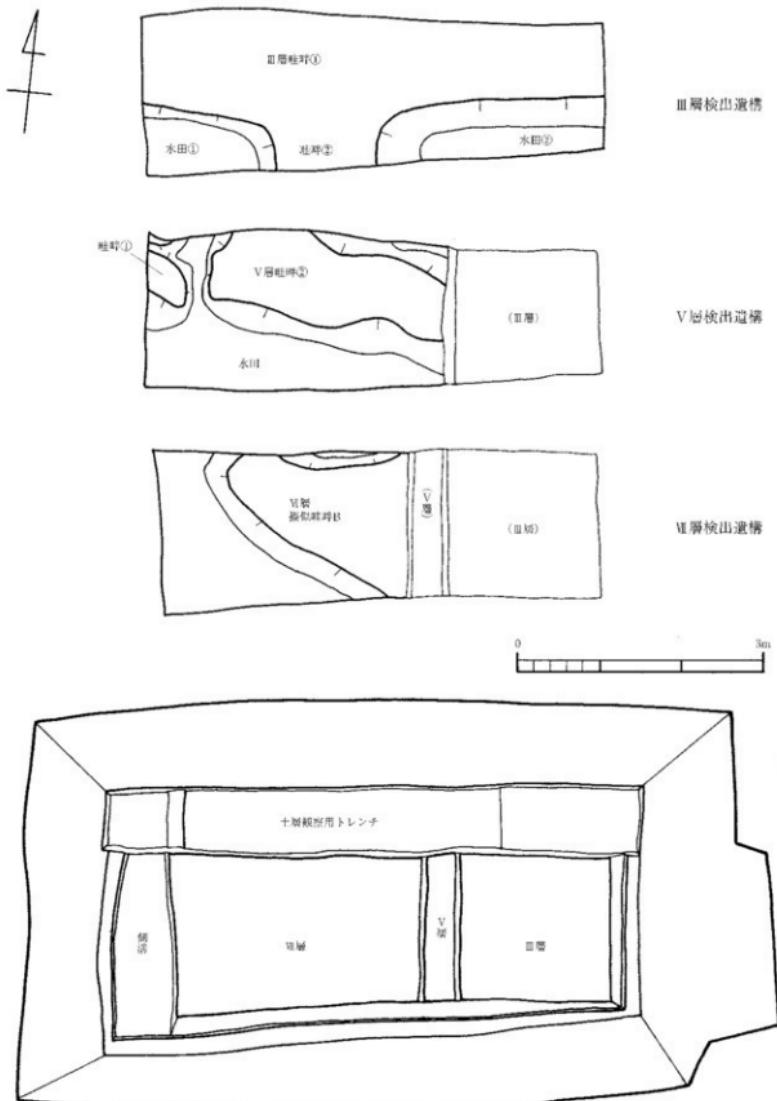
VIII層：黑色粘土。植物遺体を含み、層下部ほど明るめになる。層の厚さは5~15cmである。自然堆積層。

IX層：黑色粘土。植物遺体を含み、層下部ほど砂が多くなる。層の厚さは20cm以上である。自然堆積層。

## 5. 発見構造と出土遺物

### 1) Ⅲ層水田跡

II層を掘り込んだ段階でⅢ層の盛り上がりを調査区内で「T」字状に検出した。断面観察によりⅢ層の耕作に伴



第87図 検出遺構及び調査区実測図

う畦畔と認定した。水田標高は約10.7mで、調査区においては平坦である。東西に延びる畦畔①の方向は畦畔の北側上下端を検出しているが、南北に対してほぼ直交しており、規模は検出部分で上端幅1.2m以上、下端幅1.4m以上を測り、高さは1cm～6cmで調査区の東側が高くなっている。畦畔②に南に直交する畦畔③の検出部分の規模は上端幅約1.3m、下端幅約2mで、高さ約1cmである。遺物は出土していない。

## 2) V層水田跡

V層を掘り込んだ段階でV層の東西方向に伸びる盛り上がり2条を列状に検出した。V層は自然堆積層であることからV層の耕作に伴う畦畔と認定した。水田標高は約10.3mで、調査区の東にいくほど若干高くなる。畦畔①は調査区北西端から0.5m、N-65°-Wの方向に延びる。規模は検出部分では上端幅約0.5m、下端幅約0.9mを測り、高さは約5cmである。畦畔②は畦畔①に連なり、調査区をN-80°-Wの方向に延びる。規模は北側上下端を検出しておらず不明であるが、検出部分では上端幅約0.8m～1m強、下端幅約1.5mである。畦畔①と畦畔②との間の部分が水口か谷かは、確定する要素がなく不明である。出土遺物は剥片石器1点である。

## 3) VI層水田跡

V層を掘り込む過程で水田耕作土層と考えられたVI層の盛り上がりを確認することはできなかったが、VI層を掘り込む過程で、VI層との境を明確とするVII層の広がりが確認された。VII層は自然堆積層であることからVI層の耕作に伴う擬似畦畔Bと認定した。水田標高は約10mで、調査区の東にいくほど若干低くなる。擬似畦畔Bの方向はN-76°-Wで、検出部分での規模は上端幅約0.7m以上、下端幅約1.4m以上を測り、高さは1～5cmであり、東にいくほど若干高くなる。出土遺物は、V層出土の剥片石器と母岩を一にする剥片石器4点である。

## 4) 基本層の出土遺物

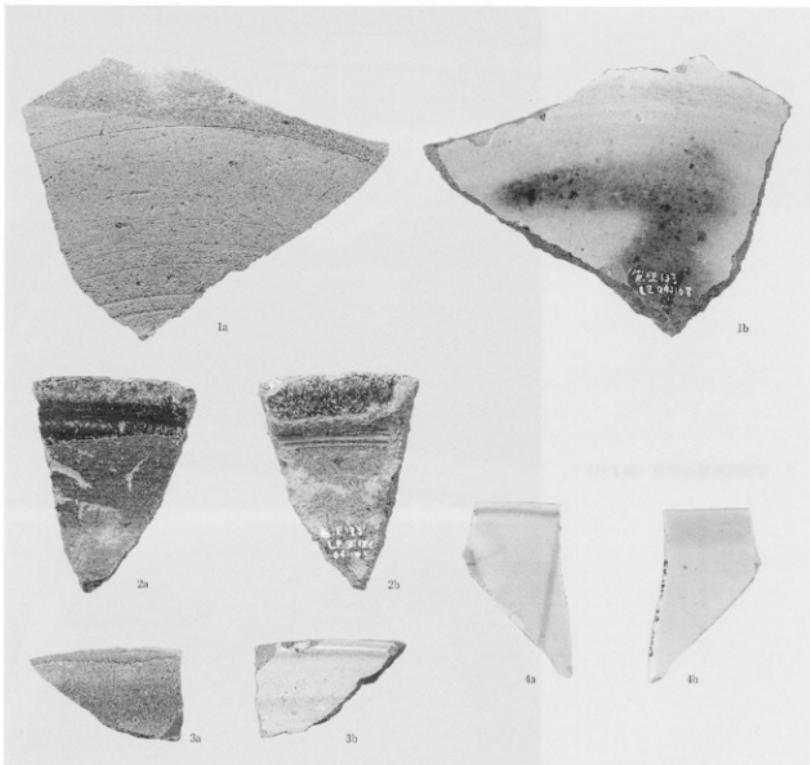
水田跡以外の基本層から出土した遺物は、I層では17世紀前半～中頃の唐津の二彩大鉢片（I-1）が1点出土した。II層では、I-1と同一個体と考えられる唐津の陶器片（I-2）1点、17世紀中葉頃の岸窯系の櫻鉢と考えられる陶器片（I-3）1点、17世紀後半と考えられる伊万里の染付碗片（J-1）1点、須恵器片2点が出土した。

## 6.まとめ

- ① 今回の調査区は遺跡中央の最北端であり、第111次調査区の北側の地点にあたる。現地標高は約12mである。
- ② 調査を実施した深さ約2.5mの地層は大別9層、細別11層に分けられた。
- ③ 現代の水田耕作土層であるI層を除き、II・III・V・VI層が水田耕作土層と考えられる。
- ④ 確認できた畦畔は、III層水田に伴う畦畔が2条、V層水田に伴う畦畔が2条、VI層水田跡に伴う擬似畦畔Bが1条である。各畦畔はN-10°-Eを基準としていると思われる。
- ⑤ 水田の時期は、II層は灰白色火山灰のブロックを含んでいることから915年以降、III層は灰白色火山灰を含まないので915年以前と考えられる。V層及びVI層は第111次調査区の土層と対応し、V層は弥生時代中期十三塚式期、VI層は弥生時代中期樹形圓式期と考えられるが、今回の調査では時期決定できる出土遺物がなく時期は不明である。
- ⑥ 今回の調査地点は富沢遺跡の遺跡範囲最北端にあたり、今回の調査の結果、遺跡範囲は現在よりもさらに北側に広がるものと考えられる。

## 〈参考・引用文献〉

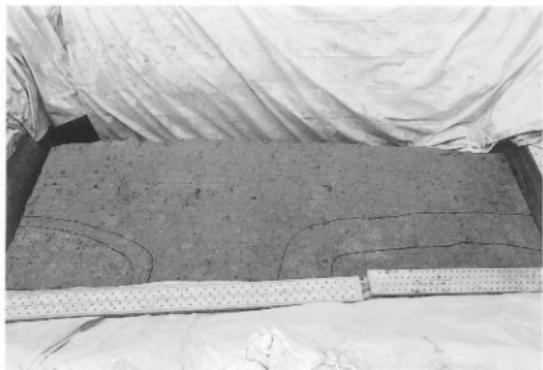
- 佐藤甲二 1997「富沢・泉崎浦・山口遺跡(10) - 富沢遺跡第86次調査報告書 -」仙台市文化財調査報告書220集
- 中富 洋 1993「第2章第6節 富沢遺跡第69次調査」「富沢・泉崎浦・山口遺跡(6)」仙台市文化財調査報告書172集
- 斎野裕彦他 1987「富沢-富沢遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書98集
- 太田昭夫他 1991「富沢遺跡 - 第30次調査報告書第I分冊 繩文~近世編」仙台市文化財調査報告書149集
- 渡部弘美他 2003「国分寺東遺跡発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書266集



No.	登録番号	遺構・層位	種別・器種	特徴	層位	年代	残存	測量(cm)		
								L1径	W1径	厚さ
1	J-2	Ⅱ層	陶器 大鉢	白化釉生 緑釉 二彩	汚泥	17世紀前半~中ごろ	全体	-	-	-
2	J-3	Ⅱ層	陶器 横鉢	露胎(口縁二重巻引)内に灰白	汚泥(瓶底)	17世紀半ば~18世紀初頭	口縁部	-	-	-
3	J-1	Ⅰ層	陶器 大鉢	白化釉上 緑釉 二彩	汚泥	17世紀前半~中ごろ	口縁部	-	-	-
4	J-1	Ⅱ層	陶器 壺	透明釉 斜付	砂利地(肥沃)	17世紀後半~?	口縁部	-	-	-

図版50 基本層出土遺物

1 Ⅲ層水田跡（南より）



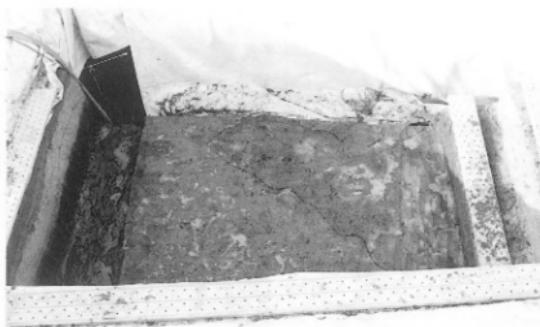
2 V層蛙群棲出状況（南より）



3 V層水田跡（南より）



図版51 Ⅲ・V層水田跡



4 VI層延似柱群B棟出状況  
(南より)



5 VI層水田跡 (南より)



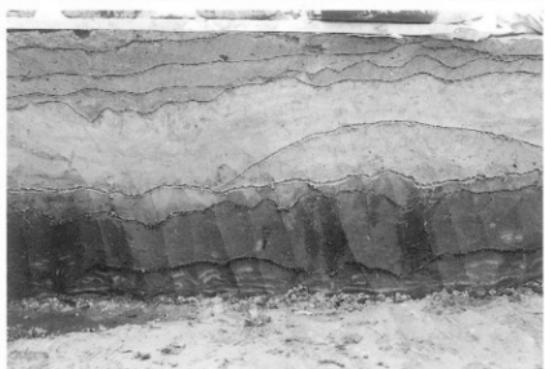
6 調査完了全景

図版52 VI層水田跡・調査完了全景

7 北壁断面



8 西壁断面



図版53 北壁・西壁断面

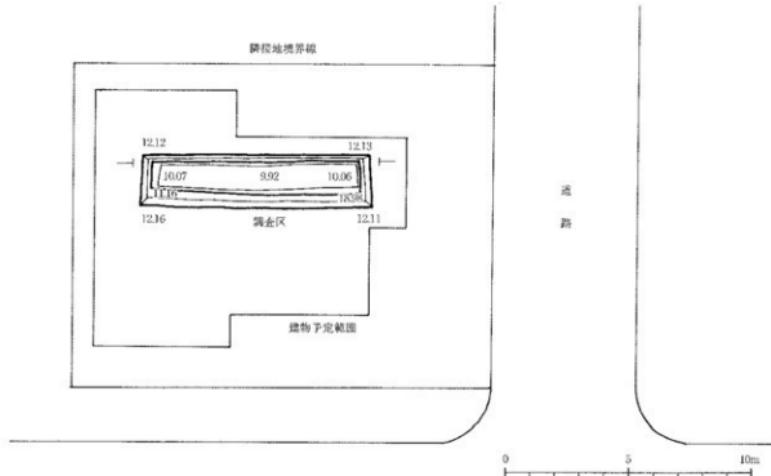
## XII 富沢遺跡 第134次 発掘調査報告書

### 1. 調査要項

遺跡名 富沢遺跡（宮城県遺跡登録番号01369）  
 所在地 仙台市太白区泉崎1丁目34-2  
 調査原因 深さ7.0mの杭打ちを伴う鉄骨造3階建て個人住宅兼店舗の建設工事  
 調査対象面積 約110.93m<sup>2</sup>  
 調査面積 約18m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成16年11月17日  
 調査主体 仙台市教育委員会  
 調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課  
 担当職員 文化財教諭 三塚博之 女川征延

### 2. 調査に至る経過と調査方法

平成16年10月21日付で、栗谷川元氏より上記地内における深さ7.0mの杭打ちを伴う鉄骨造3階建て個人住宅兼店舗の建設工事に伴う発掘届が提出された。これを受けて平成16年11月17日に調査を実施した。当該地は平安時代の条里型地割の坪境畦畔の想定位置に当たり、南北方向の坪境畦畔が想定されるため、建物建築予定部分に東西9m×南北2mの調査区を設定した。調査地点は厚さ約1mの盛土がされていたため、盛土を除去した後、調査区を東西約8m×南北約1mにして調査を行った。



第88図 調査区配置図

### 3. 遺跡の位置と環境

富沢遺跡の環境については、第132次発掘調査報告書を参照されたい。今回の調査地点は、平成2年4月に実施した第59次調査の南西約50mの地点にあたり、遺跡の南端部に位置する。

### 4. 基本層序

区画整理の際の盛土が約1mあり、その下に[図表1]の水田耕作土（I層）がある。調査区で確認した基本層は13層である。

I層 オリーブ黒色シルト。層厚15~30cm。土地区画整理前の現代の水田耕作土である。

II層 灰オリーブ色シルト。層厚は2~8cm。酸化鉄を多量に含む。

III層 オリーブ黒色シルト。層厚は0~12cm。下面に乱れが見られる。

IV層 灰色砂。層厚は12~30cm。自然堆積層

V層 灰色粘土。層厚は2~20cm。下面に乱れが見られる。

VI層 黒色粘土。層厚は2~20cm。

VII層 黒色粘土。層厚は0~8cm。VI層による削平が著しい。

VIII層 暗オリーブ褐色粘土。層厚は8~25cm。灰白色火山灰の小ブロックを少量含む。下面に乱れが見られる。

IX層 オリーブ黒色粘土。層厚は0~20cm。灰白色火山灰のブロックを少量含む。下面に乱れが見られる。

X層 黒色粘土。層厚は0~8cm。繊維質の植物遺体を含む。

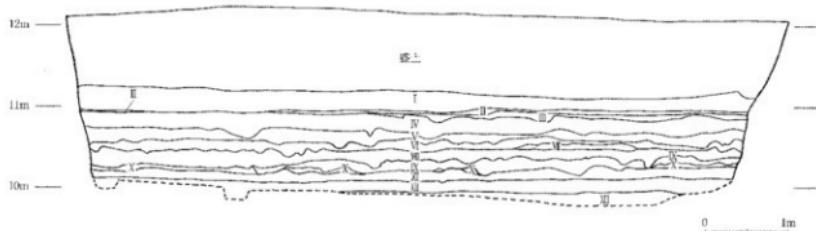
XI層 黒褐色粘土。層厚は6~18cm。繊維質の植物遺体を含む。

XII層 オリーブ黒色粘土。層厚は14~18cm。

XIII層 黒褐色粘土。層厚は16cm以上。繊維質の植物遺体を含む。

### 5. 発見遺構と出土遺物

断面観察の結果、現代の水田を含めて7層の水田層、及びその可能性のある上層を確認した。I層・III層・V層・VI層・VII層・VIII層・IX層の7層である。X層も水出土壙の可能性がある。本調査区の北東約50mで行われた富



層位	上色	土性	備考	層位	上色	土性	備考
I層	SY3-2 オリーブ黒色	シルト	現代の水田層	II層	25Y3/3 灰オリーブ褐色	粘土	灰白色火山灰を少量含む。下面に乱れが見られる。繊維質の植物遺体を含む。
II層	SY4/2 灰オリーブ色	シルト	酸化鉄を含む	III層	SY3/1 オリーブ黒色	粘土	灰白色火山灰を少量含む。下面に乱れが見られる。繊維質の植物遺体を含む。
IV層	SY2/2 オリーブ黒色	シルト	下側に乱れが見られる。IV層を巻き上げている。	IV層	25Y2/1 黒色	粘土	灰白色火山灰を少量含む。下面に乱れが見られる。繊維質の植物遺体を多量に含む。
V層	10Y4/1 灰色	粘土	下側に乱れが見られる。II層を巻き上げている。	V层	10Y4/2/1 灰褐色	粘土	繊維質の植物遺体を含む
VI層	10Y4/2/1 黒色	粘土	II層を巻き上げている。	VI層	10Y4/3/1 オリーブ黒色	粘土	繊維質の植物遺体を含む。水田耕作上の可能性あり。
VII層	SY2/1 黒色	粘土	II層を巻き上げている。	VII層	10Y4/3/1 黑褐色	粘土	繊維質の植物遺体を含む

第89図 北壁土層断面図

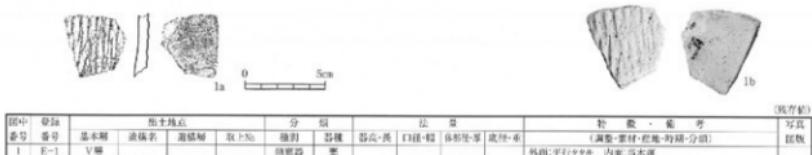
沢遺跡第59次調査では、1層・2層・5層・6層・7層・8層を水田層としており、以下のように対応すると推定される。

富沢遺跡第134次調査と第59次調査の土層対応表

第134次調査			第59次調査			時代
層	色 調	性 質	層	色 調	性 質	目 標
I層	オリーブ黒色	シルト	1層	オリーブ黒色	シルト質粘土	現代の水田土壤
Ⅱ層	オリーブ黒色	シルト	2層	オリーブ褐色	シルト質粘土	古墳の水田土壤
V層	灰褐色	粘土	5層	灰褐色	粘土	平安時代の水田土壤
Ⅵ層	褐色	粘土	6層	灰褐色	粘土	平安時代の水田土壤
Ⅶ層	黑色	粘土	7層	灰褐色	粘土	平安時代の水田土壤
Ⅷ層	褐色	粘土	8層	灰褐色	粘土	古墳時代の水田土壤
Ⅸ層	黑色	粘土				
Ⅹ層	暗オリーブ褐色	粘土				
Ⅺ層	オリーブ褐色	粘土				
Ⅻ層	オリーブ褐色	粘土				

本調査区ではⅨ層・Ⅹ層が平安時代に相当する水田層と考えられるが、この両層においては坪境畦畔と認められる高まりを確認することはできなかった。このことについてはⅪ層からⅩ層、及びⅪ層からV層まで連続して水田が営まれたと観察されるので、連続耕作によって失われた可能性もあり、今後の調査によって更に検討される必要があると思われる。なお、調査区の西側にX層の段差が見られる場所がある。ただちに畦畔との関係を示すものではないが、今後の調査で検証する必要がある。

出土遺物は、V層中から出土した須恵器（壺）の破片が1点あるだけである。



第90回 出土須恵器実測図

## 6.まとめ

- ① 今回の調査は遺跡南端、第59次調査の南西約50mの地点で実施した。
- ② 本調査地点は旧水田から約13mの深さまでの地層を13層に分けることができた。
- ③ 断面観察からは、現代の水田耕作上層である1層を除き、Ⅲ層・V層・VI層・VII層・VIII層・V层が水田耕作土層と考えられる。X層も水田耕作土層の可能性がある。
- ④ 水田の年代は、Ⅸ層・Ⅹ層が平安時代に所属するものと考えられる。
- ⑤ 断面観察からは明確な畦畔及び擬似畦畔を確認することはできなかった。

### 参考文献

- 平間亮輔（1989）：「富沢遺跡第35次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第150集 仙台市教育委員会  
平間亮輔（1991）：「富沢遺跡第59次調査」「富沢・泉崎浦・山口遺跡（3）」仙台市文化財調査報告書第152集 仙台市教育委員会

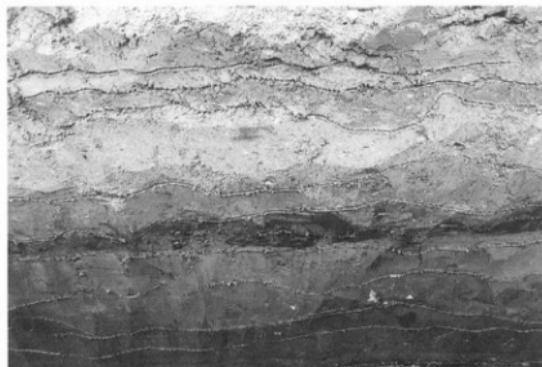
1 北壁土層断面（南西より）



2 北壁中央部（南より）



3 北壁東部（南より）



図版54 第134次調査区の状況

# XIII 養種園遺跡 第5次 発掘調査報告書

## 1. 調査要項

遺 跡 名 養種園遺跡（宮城県遺跡番号01349）  
 調 査 地 点 仙台市若林区南小泉1丁目28-6  
 調 査 期 間 平成16年10月12日・10月14日  
 調査対象面積 167m<sup>2</sup>（個人住宅64m<sup>2</sup>・共同住宅103m<sup>2</sup>）  
 調査面積 39m<sup>2</sup>（個人住宅18m<sup>2</sup>・共同住宅 21m<sup>2</sup>）  
 調査原因 個人住宅建築・共同住宅建築  
 調査主体 仙台市教育委員会  
 調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係  
 担当職員 主査 工藤哲司 文化財教諭 今野秀治

## 2. 調査に至る経過と調査方法

本調査は、平成16年9月10日付けで、地権者斎藤とよこ氏より、深さ3.5mの柱状土壤改良を伴う個人住宅および共同住宅建築に伴う発掘届が提出されたので、確認調査を実施しその上で、必要な場合は本調査を実施する旨を回答した。確認調査は、個人住宅建築予定部分について平成16年10月12日に3m×6mのトレンチを設定し、共同住宅建築予定部分について平成16年10月14日に3m×7mのトレンチを設定して実施した。前者のトレンチでは溝跡1条と掘立柱建物跡1棟が検出された。前者のトレンチから5m離れた後者のトレンチは、深いところで現地表面から150cmに及ぶ著しい搅乱を受けていたが、搅乱の比較的浅い部分で、柱穴の可能性のあるビットが1基検出された。各トレンチで検出された遺構を調査した。

## 3. 遺跡の位置と環境

養種園遺跡はJR仙台駅の南東約2.5km付近に所在する。宮城野海岸平野と呼ばれる沖積平野の、標高12~14mの自然堤防から後背湿地にかけて立地している。東側は純文時代以降、弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時



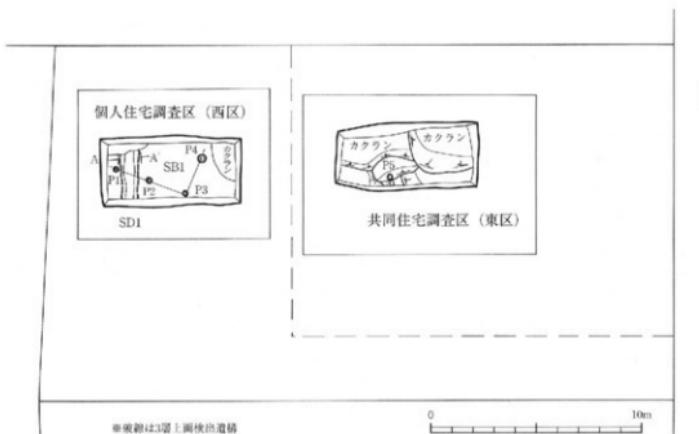
第91図 遺跡の位置と周辺の遺跡

代・中世・近世の各時代に遺跡の形成された南小泉遺跡が広がっている。南小泉遺跡の中央には全長110mの前期の前方後円墳である遠見塚古墳がある。北側には後期の円墳である法領塚古墳がある。奈良時代になると、遺跡の北方1kmには陸奥国分寺・国分尼寺が建立される。また南方500mには伊達政宗の隠居城である若林城がある。

これまでの義種園遺跡の調査では、縦文時代・弥生時代の遺物が出土し、縦文時代には前期の遺物包含層が確認されている。古墳時代と奈良・平安時代は集落が発見されており、この時代は南小泉遺跡と一連の遺跡が形成され



第92図 調査地点の位置



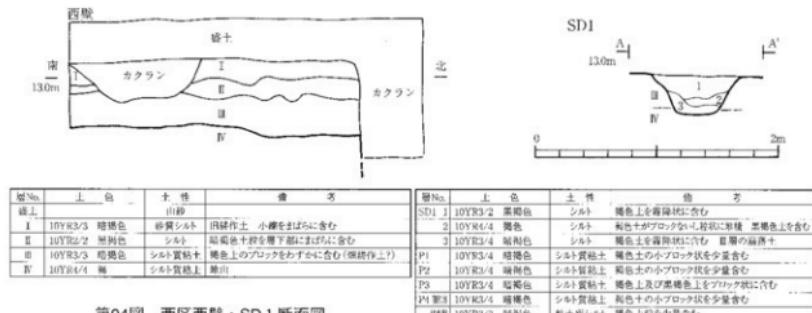
第93図 調査区配置図と検出遺構

ていたと考えられる。中世の遺構としては掘立柱建物跡や道路跡・墓跡群などが検出されている。掘立柱建物跡の中には堀で区画された中に4面に庇をもつ大型の建物を中心に数棟の付属建物を伴う屋敷跡も存在している。

その後この地域は、近世になると伊達家二代藩主忠宗により御仮屋（別荘）が、四代藩主綱村により国分小泉屋敷と呼ばれる別荘が造営され、明治期になって養種園が開設される。近世以降は、伊達家との深いかかわりがもたられ、別荘跡と関係する遺構も発見されている。

#### 4. 基本層序

個人住宅建築予定地では、厚さ約40cmの盛土の下は4層に分けられた。I層は層厚約15cmの暗褐色の砂質シルト層で近年の畑の耕作土である。II層は層厚約15cmの黒褐色のシルト層である。III層は層厚約30cmの暗褐色のシルト質粘土層である。IV層には土器片やIV層起源の褐色土のブロックを含み、耕作土層の可能性がある。IV層は褐色のシルト質粘土層でこの地区のいわゆる地山を形成している。III層上面で溝跡と、IV層上面で掘立柱建物跡が検出されている。



第94図 西区西壁・SD1断面図

#### 5. 発見遺構と出土遺物

遺構は、個人住宅建築予定地のIII層上面で溝跡1条とIV層上面で掘立柱建物跡1棟が、共同住宅建築予定地のIV層でピット1基が発見された。

##### 1) 掘立柱建物跡

S B1 掘立柱建物跡 個人住宅建築予定地内の調査区の中央で検出された。検出面はIV層上面である。南辺の2間分と東辺の1間分が検出された。西側と北側は調査区の外にのびている。南辺は磁化に対して約45°振れている。検出部分の規模は、南辺が2間3.4m、東辺が1間1.9mである。東辺の柱間寸法は西から1.65mと1.75mである。

柱穴は直径25~30cmの円形ないし稍円形で、現状の深さは7~24cmである。東辺北側の柱穴（P4）で直徑約14cmの柱痕跡が検出されている。各柱穴からの出土遺物はない。

ピット番号	規 似	上色・土質	深さ	備 考
P1	掘り方	10YR3/4暗褐色 シルト質粘土	7cm	褐色土の小ブロックを含む
P2	掘り方	10YR3/4暗褐色 シルト質粘土	7cm	褐色土の小ブロックを含む
P3	掘り方	10YR3/4暗褐色 シルト質粘土	19cm	
P4	掘り方	10YR3/4暗褐色 シルト質粘土	24cm	褐色土の小ブロックを含む 基本層上面に掘込
	柱根跡	10YR3/3暗褐色 シルト質粘土		

共同住宅建築予定部分で検出されたピットは、直徑約20cmで、直徑11cmの柱痕跡が検出されている。堆積土は掘り方が褐色土及びにぶい黄褐色土のブロックを含む暗褐色（10YR3/3）の粘土質シルト、柱痕跡が黄褐色土のブロックを含む暗褐色（10YR3/4）の粘土質シルトである。遺物は土師器の細片が1点出土している。掘立柱建物跡の柱穴の一つと推察される。

## 2) 溝跡

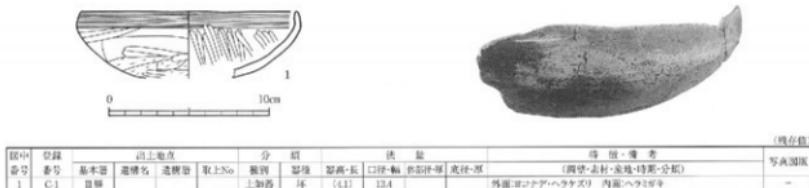
S D 1 溝跡 個人住宅建築予定地内の調査区の西寄りで検出された。検出面はⅢ層上面である。南北方向にのび、北側は搅乱坑によって切られている。幅は上面で80cm前後・底面で約50cm、深さは約50cmで、断面形は逆台形を呈する。堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積層と観察される。出土遺物はない。

## 3) その他の出土遺物

出土遺物としては、Ⅲ層中から土師器の坏片が1点出土している。浅い半球形の体部に、やや内湾した口縁となるもので、古墳時代中期の南小泉式期ないし引田式期に相当すると考えられる。ただし、この時期の遺物が調査区周辺で多数出土しているので、この土器がⅢ層の形成年代を示しているものとは考えられない。

## 6.まとめ

- ①本調査区は、養種園遺跡の東辺に位置し南小泉遺跡との境付近にある。
- ②調査の結果、Ⅲ層上面とⅣ層上面でそれぞれ溝跡1条と掘立柱建物跡1棟が検出された。
- ③Ⅲ層検出の溝跡は年代を決定できる出土遺物がなく、時期は不明であるが、Ⅳ層との関係から中世以降と推定される。
- ④Ⅳ層検出の掘立柱建物跡も出土遺物がなく、詳細な時期は不明であるが、周辺で検出されている中世以降的一般的な建物と同様に、小型で円形の柱穴であることから、中世またはそれ以降の遺構と推察される。



第95図 Ⅲ層出土遺物



1 Ⅲ層上面遺構検出状況  
(東より)



2 Ⅲ層検出SD 1溝跡 (南より)



3 SD 1 溝跡土層断面 (南より)

図版55 Ⅲ層検出遺構

1 IV層検出SB 1 掘立柱建物跡  
(東より)



2 西壁基本土層断面 (東より)



3 共同住宅建築予定地の擾乱状況  
(西より)



図版56 IV層検出遺構と擾乱の状況

報告書抄録

ふりがな	やまだほんちょういせきほか					
書名	山田本町遺跡他					
書名	発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第287集					
著者名	工藤哲司 三塚博之 女川征延 今野秀治					
機関	仙台市教育委員会(文化財課)					
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目7-1 電話022-214-8894					
発行年月日	平成17年3月31日					
所取り扱い遺跡名	所住地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 38°12'55"	東経 140°49'59"	調査期間 2004.11.24 2004.12.22	調査面積 155m <sup>2</sup> 宅地造成
山田上ノ台塚	仙台市太白区山田本町 101-23	04100 01353				
山田本町遺跡	仙台市太白区山田本町 101-23	04100 01560	38°12'54"	140°49'57"	2004.11.24 2004.12.22	525m <sup>2</sup> 宅地造成
山川柔里遺跡(第9次)	仙台市太白区鶴卵町 1丁目304他	04100 01367	38°13'0"	140°50'35"	2004.04.19 2004.04.23	51m <sup>2</sup> 遊技場建築
大野田古墳群(第7次)	仙台市太白区大野田 字王ノ塚1-2他	04100 01361	38°12'38"	140°52'50"	2004.05.13 2004.06.14	110m <sup>2</sup> 新宿所建築
後河原遺跡(第5次)	仙台市太白区中田町 字後河原17-18-18-15	04100 01273	38°11'17"	140°53'46"	2004.06.17 2004.06.18	36m <sup>2</sup> 個人住宅建築
高田A遺跡(第5次)	仙台市若林区上飯田 3丁目448他	04100 01256	38°12'32"	140°55'36"	2004.09.01 2004.09.08	192m <sup>2</sup> 宅地造成
浦ノ裏遺跡(第8次)	仙台市宮城野区岩切 字三所南163	04100 01034	38°17'52"	140°57'03"	2004.06.29	18m <sup>2</sup> 個人住宅建築
洞ノ口遺跡(第11次)	仙台市宮城野区岩切 字小見1番2地	04100 01372	38°18'05"	140°57'30"	2004.07.21 2004.08.03	403m <sup>2</sup> 店舗建築
南小泉遺跡(第41次)	仙台市若林区一本杉 23-1	04100 01021	38°14'24"	140°54'37"	2004.07.12 2004.07.15	27m <sup>2</sup> 個人住宅建築
南小泉遺跡(第42次)	仙台市若林区南小泉 4丁目18-18	04100 01021	38°14'04"	140°54'35"	2004.08.23 2004.08.25	38m <sup>2</sup> 個人住宅建築
富沢遺跡(第132次)	仙台市太白区長町南 1丁目201番地4地内	04100 01369	38°13'17"	140°52'56"	2004.09.13 2004.09.21	15m <sup>2</sup> 共同住宅建築
宮沢遺跡(第133次)	仙台市太白区長町7丁目 301-8-301-37	04100 01369	38°13'25"	140°52'51"	2004.11.01 2004.11.1	45m <sup>2</sup> 共同住宅建築
富沢遺跡(第134次)	仙台市太白区泉崎 1丁目34-2	04100 01369	38°12'59"	140°52'32"	2004.11.17	18m <sup>2</sup> 個人住宅建築
養植園遺跡(第5次)	仙台市若林区南小泉 1丁目28-6	04100 01349	38°14'21"	140°54'23"	2004.10.12 2004.10.14	39m <sup>2</sup> 個人住宅建築
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
山田上ノ台塚	塚	近世?	塚・溝跡・土坑	土師器		
山田本町遺跡	集落跡・散布地	縄文・平安	整穴住居跡・土坑・落し穴	縄文土器・石器・土師器		
山田柔里遺跡 第9次	散布地・水田跡・屋敷跡	縄文・古代・近世	水田跡	土師器・陶器・調片		
大野田古墳群 第7次	円墳	古墳時代	溝跡・小溝・土坑	縄文土器・土師器・須恵器		
後河原遺跡 第5次	水田跡	弥生・古代・近世	溝跡・溝跡	なし		
高田A遺跡 第5次	散布地	古代	溝跡・遺物包含層	土師器・須恵器		
鴨ノ裏遺跡 第8次	水田跡・集落跡・塙敷跡	弥生～古代・中世	遺物包含層	土師器・須恵器		
洞ノ口遺跡 第11次	水田跡・集落跡・塙敷跡	古墳～中・近世	溝跡	土師器		
南小泉遺跡 第41次	集落跡・屋敷跡	弥生～中・近世	溝跡・窓穴住居跡	土師器		
南小泉遺跡 第42次	水田跡・包含地	旧石器～中・近世	水田跡・土坑	土師器・須恵器・陶器		
宮沢遺跡 第132次	水田跡・包含地	旧石器～中・近世	水田跡・畦畔	土師器		
宮沢遺跡 第133次	水田跡・包含地	旧石器～中・近世	水田跡	陶器・調片・石器		
宮沢遺跡 第134次	水田跡・包含地	旧石器～中・近世	水田跡	須恵器		
養植園遺跡 第5次	集落跡・屋敷跡・包含地	縄文～中・近世	溝跡・建物跡	土師器		

---

仙台市文化財調査報告書第287集

## 山田本町遺跡他

発掘調査報告書

2005年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町二丁目7-1

文化財課 TEL 022(214)8894

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

仙台市宮城野区青叶3丁目1-14

TEL 231-2245

---

